



続

# うつ病 「ドロンパッ」 読本

物書き  
うときゆう いっき



**(続) うつ病**  
**「ドロンパッ」**  
**読本**

うときゅう いっき

# 目次

- 序
- 序二段
- 本編
- ご参考
- オマケ

## 短編小説（2020年発刊）

（新本）「人生終わったな」と思う間もなくトンネルの、闇を抜けて広野原

## (序)



自分の本名は宇都宮と申しますが、当時は「鬱の宮」と名乗った方がいい様な状態でした。最初は周りが冗談半分に言っていたのですが、10年を過ぎた頃には「口にするのも憚られる」様な「常態」に深化しておりました。

「うつ病の人には頑張ってと言う言葉が一番言っちゃいけない言葉なんですって」と言うことで美事なまでに「頑張って使用禁止」が箝口令として敷かれていたそうです。ところがそれから2年後のある日、突如12年に渡るうつ病が飛散霧消してしまいました。将に「ドロンパッ」と。

「ドロンパ」というのはアニメ「オバケのQ太郎」に出てきたアメリカのオバケの名前なのですが、感覚としては「同じオバケながら」粘着質でおっかない「四谷怪談のお岩さん」からアップライトで、周りの事情がどうであれ其れ等を一切意に介せず立ち所にドロンパッと消えてなくなるドロンパ君にさも似たるが如く一気に抑うつ状態が消え失せ、周囲の景色も一変した様な感じとでも申しましょうか。

何故「同じオバケながら」と付記をしたかと申しますと、当時はその理由が分からなかったので「訳も分からず兎に角気分だけはすこぶる楽になった」変化が狐につままれたか狸に渡された葉っぱをお札と思い込んでいるだけだったという故事の再現の様に感じられて全く信じられず「自分はまだオバケのままである事には違いはないんだろう」くらいにしか思っていなかったからです。

前置きが長くなりました。

では一体何が起こったのか？

「いい加減嫌になっちゃった」のです。

「もうどうでもいいや。勝手にしてチョ」と「うつ病を治すことをぶん投げてしまった」のです。

「自分なんてどうせたいした奴じゃなかったんだ。もうバカの出来損ないで結構ケッコークケッコーク」

と言う気持ちになってしまったのです。

要するに諦めて捨てて開き直ってしまった。

そしてあろう事か、幸いにもその頃には既に家族に愛想を尽かされ捨てられていたので、そう開き直っても特に迷惑が掛かる人も居なかったのです。

では何故うつ病が12年間に迄なる程長引いてしまったのか？

そうして開き直りが何故「ドロソバツ」の元になったのか？

その辺りを快癒から16年の時を経た今、自分なりの理論で解明してみたいと思います。

まず「何故12年も長引いてしまったのか？」

に対しては

「治療方向が全く正反対であった」

から。

そして

「何故開き直りが特効薬になったのか？」

については

「諦めによって失地回復の為返り咲きを目指す目標迄の「頭上に重くのし掛かる水柱」からの加重圧が消えから」

だと思えます。

いずれにせよどの解も将に思考野に存在すらしなかった「瓢箪から駒」の解。

自分ではどうしようもなかった事がこんなにも容易く、

こんな事っておますのかいな？ほんまかいな？

と言う程の予期せぬ偶然の成せる技でした。

今回はその辺を今少し詳細にご説明申し上げたいと思っております。

## (序 2 段)



説明をご理解戴く為にまず一つの映像を想像してみて戴けると助かります。

その映像とは

海の光景。

今海の上に居ます。光が差して風も爽やか。広々していていい気分。

ところがある日、突然何かに足を引っ張られて水面下に沈む羽目に。

訳も分らず身体はドンドン沈んでいきます。もがけばもがく程沈む速度が上がっていきま

す。

沈めば当然身体に掛かる水圧がドンドン増します。

それに逆らって何としても元の位置である水面上に戻ろうとすると心理的には水圧抵抗力は可逆的に増幅増大します。

それでも「何としてでも一刻も早く元の位置迄帰らねば」と言う気持ちは心理的水圧抵抗力に比例して嫌が上にもあがっていきます。

では此処で一体何が言いたいのか？

要するに「一刻も早く元に帰らねば」というのが重圧の元になっていると言う事です。

そして現代の精神科療法は「戻った先の前の状態が本当にその人にとって良い状態なのか否か」を抜きにして兎に角元に戻す事に専心している訳です。

しかし一向に回復しない。

自分の考えではそういった「なまじ淡い期待を抱かせる様なお為ごかし対症療法」は早々に諦め「人道的に如何なものか」と言われようと「出来る事なら一刻も早くどん底まで落ちた方が余程快癒の道が開ける」と思っています。

どん底まで行けば開き直りにはうってつけの環境が整っているからです。もう後がないので

「ええい、この際どうにでもなれ」

と言う気持ちに自然となれるからです。

途中段階での一時の気休めでしかない対症療法は却ってその目を塞いでチャンスを失わせ、あろう事か反対に苦しみを倍加させるだけです。

なので、治療の方向が正反対だと申し上げたのです。

しかし中には

「水中に沈みゆく中で水面に出て空気を吸おうとするのは生存本能上、至極当然の事ではないか」

と。

しかし思い出して戴きたいのは、是は喩え話で実際には海もその水面上も水面下も何処にも存在していない事です。

しかしうつ病患者の心象内では将に是に類した絵姿が幻影にも拘わらず目の前に実体として映っており現に惑わされてしまっているのです。

しかしそれは惑わされている「だけ」なのです。

偶然且つ自然な運びの開き直りによって実際には存在しない

「一刻も早く元に帰らねば。在るべき自分に戻らねば。期待される自分に復帰せねばならぬ」と思っているその「元」そのものがなくなれば幻影に過ぎない海も水面下も水圧も一瞬にして飛散霧消してしまうのです。

なので「一刻も早く地獄のどん底へ行け」と申し上げているのです。

地獄のどん底に行くには勇気がいるとお思いの方もお在りかと存知ますがそんなものは必要ありません。

自然な感情に任せてヤケクソになり開き直ればいいだけですから。

只、肝心な事は

「こんな筈とちゃう自分」

実は

「たいした奴、ちゃったわあ」

し

「今思えばそうなる必要もゼロやったなあ」

と正しく

「逆悟り」

する事でしょう。

## (本編)

2022/10/31-4-2

# 「新 うつ病ドロンパッ読本」



「以前、どうやってうつ病から立直ったのかってお前訊いたよな。色々説明したが今一つ分かってない様に見えた。頭じゃ分ったけど腑に迄は落ちてない。頭が分っても腑に迄落ちないと意味がない。だから今日は別の譬えで話そうと思った」

「リベンジ？確かに俺、この前の、全部忘れてるからそうなんだろうね」

「今日は茶化しを入れなくて幾らか真面目に話そうと思う。この大変な世の中でお前がうつ病になるかもしれんし、なったらちゃんと寛解して欲しいから真面目に話そうと思ったんだ。後、俺は未だに再発を心配している。だから再発しない様に地保固めもしたいからな」

「確かに今日はお茶らけなしでチト戸惑うけど俺もちゃんと聞くよ」

「じゃ。

上から落ちた。

途中で引っ掛かった。

早く元に戻ろうとして、焦りから手掛や、足場を失った。

又落ちた。

何度もそれを繰返して到頭どん底迄落ちた。

這上がる事しか考えなかった頭が暫く空いた。

どん底にその下はないから一寸気が緩んだ。

緩んだせいで今迄自分の脳がどれだけカチンカチンだったかと言う事が分った。すると今迄にない感情が芽生えた。

「もう、うんざり」を声に出せた。「いい加減、嫌になった。元々そう戻りたい処でもない。死ぬ思いで帰還しても嬉しくない。皆の目があるから戻ろうとしてるだけなら、やめよう、になった」

「やめたらずっとどん底暮らしなんじゃないの？」

「まあ、其れでもいい様な気もしたよ。どうぞ勝手に、って思った」

「開き直ったって事？」

「ちと違う。捨てちゃったの、自分。今迄の自分。大したもんじゃないから」

「今迄？大した？」

「皆に「いいよ」って言われていた自分。「そうなれよ」って言ってんだろうな、に忖度した自分」

「で、後は？」

「出口の穴は上だけじゃないよな、って思って無意識に他に思いを巡らした」

「で、あったの？別の出口」

「ヒントの薄明りが差した。「戻らなくちゃ」じゃなくて全く別の方から。嫌じゃない方から。すると目先が変わった途端、周りの壁が消えて、穴じゃなくなった。視界がパッと開けて明るくなった、唐突に。今迄のぐちゃぐちゃが、綺麗さっぱり消えてた。瓢箪から駒。嘘みたいだった。ひどく遠く思えた。逆にもう今迄を思い出せなかった」

「へえ」

「「選ばれよう」じゃなく「選ぶ」。自分が、相手や対象を」

「そこが変わると景色が全部様変わりするのなあ」

「だからお前も皆が「いい」という事より、人の評価を得易い自分が得意な事よりも、「好き」か「嫌じゃない」を見つけなよ。「自分の好き」に他人も、資格も、才能も関係ない。「常に自分があるじ」で居られる。人の「好き」を連中はいじれない。罹患したら、なまじ中途半端に回復する方が却って長引く。踏ん切りが付かんからだ。踏ん切るには一気にどん底迄落ちた方がいい。「あそこ迄」を見上げた時に感じる「うんざり感」が投げやりの「緩み」産んで、後は俺に同じよ」

(オマケの英語教室 melancholia)



うつ病って英語で melancholia と言うらしいのですが、聞いた感じ、どうもイマイチリアリティが感じられません。学名らしいのですが、まるで実感がわいてこなし、かけはなれている気がします。

恐らくこの語の音韻の中に濁音が一つも含まれていないからだと思います。

自分が経験したうつ病から得たイメージは濁音だらけのぐちゃぐちゃ、ぎゅうぎゅうだったからです。後、破裂音のばんぱん。要するにフラットな清音ではなかったわけです。

なので、うつ病を自分が英訳するとすれば

Mind pressed down mood

とか

Jammed mind mode

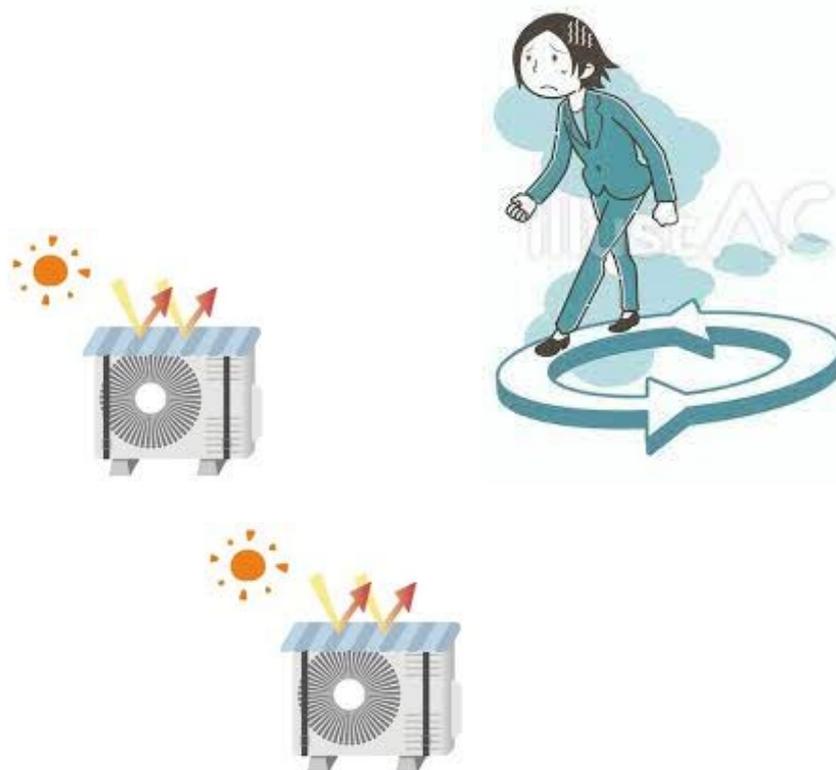
とかの息苦しさや微熱を帯びた鬱陶しく、暑苦しい感じの表現になりそうです。

勿論医学用語ではありません。ドラッグストアの特売対象にしてもよさそうな医薬部外品みたいなもんです。

いつもながら、悪しからず。

2022/11/7

## 「**続** 新うつ病ドロンパツ読本」



「うつ病の「鬱」ってなんか滅茶苦茶込み入っててとても書けそうもないでしょ」  
「毎日その字と睨めっこしててそれなら、縁のない人は尚更書けないだろうね」  
「逆。うつ病の人は普段から頭の中ゴチャゴチャだから更にゴチャゴチャが増しそうなこんな字みるのも嫌で、言わないけど内心「そっとして置いて。構わないで」が本音」  
「確かに鬱っていう字「鬱屈」「鬱陶しい」「鬱蒼たる」とか「もやって」「ハッキリしなくて」「滞って」「淀んでる」「高温多湿」な感じするわなあ」  
「そう。整理が付かなくなって流れも悪くなって「もう分ったからいいよ。いい加減にしてよ」って言う感じもあった。丁度同じ轍を堂々巡りしている様な。そして同じ処を堂々巡りするもんだから、前へ進もうとすればする程、増々深みに足を取られて抜け出せなくなるような「逆効果感」もあったなあ。一言でいえば「ウンザリして暑苦しい」

高温多湿の我が国の夏に、冷房を利かそうとすればする程室外機からは温風が出てくる、その前に立っているみたいな「理不尽な暑苦しさ」

涼んでサッパリしたいのにそれとは裏腹に益々じっとり、ねっとり、べっとりみたいな」

「我が国が常夏の国だったらヤバかったよね。生涯エアコン室外機の前、だった訳でしょ？」

「地球温暖化が進むと、あり得ない話でもないかも、な。そういう意味じゃこれからの人は大変だわ」

「又話あちこち飛ぶといけないから今日は「鬱」の字一本に絞ろうね。お願いよ」

「じゃあ、よく「うつ病の人に「頑張れ」って言うのは一番良くない。増々追い詰められて却ってうつ病を悪化させるから」っていうけど、其れって余り関係ない気もするのよ。確かに「一応声かけたからね」の阿利バイ的な其れだったら御免被りたかったけど、相手が本気で心配してそう言ってるんだと思えば多少外れててもいいのよ。我々が一番傷つくのは相手が本気じゃない事。本気だと思って話したのに本気じゃなかった時の「裏切られた感」と「これ以上傷つきたくない感」から皆耳を塞いじゃうのよ。本気で聞いて呉るなら相手が良い答え持ってなくても、本気で聴いてくれただけで一応は留飲下がるのよ。だって本当は自分の事、話したくて仕様がないうだし、分かって貰いたくて仕方ないんだから。特に本人の利害官営者には。処が利害関係者って大抵身近な人でしょ。上司、家族、仲間内とか。で、その人達は自分の殺生与奪の権、生かすも殺すも自分次第なんだから、近しい人に程切出せず苦しむのよ。捨てられたくないから。見放されたくないから。

だから葛藤して堂々巡りしちゃうの。助かりたいけど本当の事は言えない。で「大丈夫、何とかするから」って無理する訳。そんな時に「頑張れ」「早く治って」って言われたら「もうこれ以上頑張れない。早くなんか直れない。どうしろって言うんだ、お前達は」が本音。いい加減ウンザリしてんのよ。葛藤熱で」

(オマケの英語教室 circular logic)



お題の circular logic は凡そですが「堂々巡り」が一番近い意味です。

と言うか自分は「堂々巡り」を語る時にはこの語を充てております。

では、こういった場合に「堂々巡り」等と言う英訳するに直ぐには出てきそうもないこう言った言葉を使っているのかと申せば、嘗て自分が12年間うつ病によって「囚われの身」になっていた時の話を外国人にする場合に使っております（当然邦人には英語ではなく邦語の「堂々巡り」を使って話をしております）

Logicは既に皆様ご存じの「論理」とか邦語カタカナの「ロジック」でお馴染みなので今回の話題からは外します。

では circular はどういう意味（イメージ）（注：以下「意味」と書きましたら「イメージ」と言う語を付帯するものとして表記は割愛致します）なのか？

是はズバリ「円（円弧）」がその元になっている circle からの派生語です。

circle（サークル）は、よく「大学のサークルで」とかで使いますが、この場合の「大学のサークル」は「クラブ」の意味と同義で使われております。

しかし元々の意味は「円陣」です。或いは「車座（対面方式）」

同じく circle の派生語に cycle（サイクル）があります。これは「回転 円 運動」を表します。

Bicycle と書けば Bi=2、cycle=回転円運動と併せて2輪車、つまり「自転車」を意味します。

Cyclic と書けば cycle=回転円（交互）運動の形容詞形で「このボタン、サイクリックなの」と言う様にボタンを押すたびに on/level 1/level 2/level 3/off/on/level 1~が繰り返される操作仕様を指します。

他に circle の派生語としては circulation/circulator があります。意味としては「換気」「換気扇」です。是は「空気交換（循環）の連続運動」からきております。

つまり circle には「円」の他に「循環」という意味もあるのです。

この「循環」がいい方に働けば所謂 eco system（エコシステム）になり、悪い方に働けばいつまで経っても同じ事を繰り返してそこから抜け出せず、却って深みに嵌っていく「堂々巡り」の「悪循環」になる訳です。

なので、うつ病経験者の自分は circular logic をうつ病の特徴的な症状である「堂々巡り（的思考状態）」の「悪循環」の当て語として、この語を使っている訳です。

以下は余談となりますが、先述の eco の文字の中の「c」を「g」に差し替えますと eco が ego になります。

Ego そのものは単に「己、自分、我」と言う意味ですので、特にいいも悪いもないのですが、ego の派生語である egoism となった場合には「自己中（自分中心、自分の都合最優先を周りに強いる。自分はそうされて当然の人間である、という思考法）」をイメージさせる様な明らかに悪い意味で使われております。

これは今後の地球と人間の行方を占う上でも重要な岐路を暗示している様に思えます。

即ち

C 方向に行けば eco cyclic(circular, circulation) mode となり地球と人が共生可能になりますが、

G 方向に行けば egoism cyclic(circular, circulation) mode に入ってしまう存立不可能(分断、対立、争い) な事態に陥ってしまう。

気候変動、大規模風水、熱波災害、コロナ禍、食糧危機、格差、分断、対立、ポピュリズム、戦争、等昨今の混乱を「見るにつけ」ではなく「接し、体験し、その渦中に入り込むにつけ」我々は今、大変な岐路に立たされているのだという事を他人事ではなく将に自分事としてひしひしと実感しております。

Stop the egoism cycle, Set the ECO cycle for our future with this planet.

注：set=settle: settle (纏め、解決する) には「焦らず落ち着いてゆっくり、即ちじっくり」と言うニュアンスがあります。しかし語音としては幾分インパクトに欠けますので、敢えて強めの set を使いました。

2023/5/28

# 「その後のうつ病ドロパッ読本」

28<sup>th</sup> May 23

“After the former, reader book  
for pressured mental blue sick off, out.”



(For Japanese readers)

「その後のうつ病ドロパッ読本」

「うつ病のイメージってどんな感じ？」

「え、ナニ突然？」

「まあイイから言ってみて」

「暗いとか、元気ないとか、抜け殻になって項垂れているとか、かな。ん、でも、なんか依然うつ病だったオヤジのイメージとなんかチト違う様な…」

「どう違う？」

「なんか、もっと、何と言うか元気ないのはないんだけど、なんかどっか暑苦しいというか、苛立たしそうというか、動物園の折の中のチンパンジーと言うか」

「そうなのよ。抜け殻で空洞になって回りなんかどうでもよくなる方はうつ症状だと思うんだけど、俺の其れはうつ症状と言うより「抑うつ症状」と言った方が良かったんじゃないかって今は思うわ。逆にどうでもよくなれない人間が抑うつ状態になるのよ。そして今の大半の人はうつ状態じゃなくて其の「抑うつ状態」だと思う訳。俺流の経験と観察に依れば」

「出ましたあ、その経験と観察が可成り曲者なんだけど、ねえ…」

「まあ、イイじゃないのよ。先に死にゆく者のワガママ聞いてチョ」

「エラ又、大袈裟な」

「俺が思うに俺のうつ病、ヤ、抑うつ状態のステップを言うと第一に整理がつかなくなった。要するに混乱。次に整理が付かないから判断できずに自信がなくなった。そして最後は、どうしていいか出口が見つからずに同じ処の堂々巡りが始まって、足場を取られて抜け出せなくなった。の3ステップだった」

「ん。なんとなく分る様な。其れで俺から見てオヤジが何となく動物園の折の中のチンパンジーに見えた訳かあ」

「そ、チンパン、テツパン、イライラッチョだったわけ。枯れた抜け殻どころか中でマグマが沸々と煮えたぎっていたのよ。出口が見つからなくて、行き場もなくて。行ったり来たり右往左往状態。力尽きた感の漂う真性うつ症状の人は恐らく違うと思うが、抑うつ症状の俺には戻るべき処ははっきりしていた、ハッキリしているが戻り方が分からない。そして戻れない事がとっても恥ずかしかった。それで人目を避けて逃げてばかりいた。兎に角恥ずかしくて、みっともなくして人の視線に耐えられなかった。だが何とか元に戻ろうともがけば、もかくほど逆に地盤沈下して行って増々泥沼にはまり込んでいったなあ」

「結構内々にはヒートアップしてたんだ」

「そ、マグマが沸々と恥に炙られてヒートアップしていたのが「俺の抑うつ症状」だった。他の人の症状は知らんが」

「じゃオヤジはどうやってガス抜きの出口、見つけたの？」

「是は前も謂ったが、要するにぶん投げちゃった訳よ。「ハイ、バカでえ〜ス。恥ずかしい奴でえ〜ス。だから何だってえんだ、あん？」て」

「スゲ。御大胆な開き直り。其れが今脈々と、な訳かあ。人に歴史あり、開き直りに理由あり、ネ」

「開いて直すのが開き直りなのよ、あん？」

「へイ、其処のコックさん二人、今日のオチはナニ？あん？言っでご覧」

「ワタシ、草オナジ。マインドダウンナイ之事」

「ワタシ草マデ行カナイ、アル。皆チガウ之事、デス」

*(For English speaker readers)*

**Title: “After the former, reader book for pressured mental blue sick off, out.”**

“How do you hold the image for mental blue sick?”

“What happen, suddenly? as usual.”

“Anyway, show your image for it.”

“Blue, mind down, vacant, holding head down walks like that. But these images are little bit

different from former your holding images somehow, why some.”

“How and which different?”

“Yes, looked like mind down blue and foggy, exactly. But why some I felt on other hand, it might be that you held frustration and irritation, just looked like a wondering chimpanzee inside zoo jail.”

“Exactly. Got vacant and no concern to around condition is to be called “Melancholia” but at the time my condition is to be called “pressured mind blue sick” rather than “Melancholia” I think at now. Vasa versa a person who never can “no concern “falls into this sick. Almost patients now a day this type sick holding, might be looked from my style experience and observation.”

“Just come out your famous observation story!! But it looks like holding some problems…”

“Ax, give me a permission or allowance card to me who has advanced ticket to the Heaven earlier than you!!”

“Wow, over performance, you!!”

“From my observation, concerning to my melancholia, no!!, my mental blue sick my explanation is that Step 1: never could have done organized, in other word, confusion. Step 2. From confusion never could judge smoothly, then lost self-confidence. And final Step 3. While never can finding exit out, same place stepping around continuously, repeatedly. Never could go out by mud grabbing my steps.”

“I can hold almost the same image for you. Due to it from my watching you looked like a chimpanzee wondering inside zoo jail, might be.”

“Yes, chimpan, fried pan, irri, irri, irritated, that was. Boiled up magma roaring inside rather than vacant. Never can find exit out, never can have places to go anywhere. Go and return, turning to right side, left side like that condition had been. Maybe different from Melancholia vacant mode one, me mental blue sick one obviously had watched returning target. Target was obvious but how to, no found out. And no returning forced me ashamed strongly. Then at the time I always escaped from around eye beams. Anyway, I felt ashamed and miserable poor, then never could got against. While trying to get returned former again and again, being sunk down and down and grabbed by mud more and more additionally.”

“Over my image, you had been heated up!!”

Yes, yes. Boiled magma heated by shame, more and more gotten heated up. That was my mental blue sick, it was. Other persons cases don` t know.”

“Then a how to find the exit for gas bulb unfasten out?”

“Former I already reported to you, that I all thew off and no touching. “Sure I` m fool. Poor guy I am. But what it that? Ax? You Great Sir and Great Madam, you!! Like that!!”

“Wow, strong guy!! Big door open and no escape, stay!! That have been continuous until now,

might be. Human has own historical, Door has door open way!!

“Open and reset even if from outside bullets shot while opening period is only the way of exit from mental blue, I guess.”

“Ax, there you 2 cooks, today`s your closing contents, what? Show me, to Mr. San, please!!”

“I same the grass on the field, no mind down, is.”

“I never can reach to above the same. Each one different, not the same is.”

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」blue Monday.



うつ病罹患時代、12年間、毎週 blue Monday。

いや正確に申し上げますと、月曜日の前日、詰り日曜日のお昼を過ぎたあたりから翌朝まで残す処、あと何時間と残時間を数え始めておりましたので、blue Sunday afternoon が的確な表現でしょうか。

兎に角会社に行きたくない。イヤで嫌でしょうがない。入社しなくていい、合理的な理由を考え続ける事が日曜日の午後の習わしになっておりました。

因みに当店でも日曜日のディナータイムはお客様の blue Monday 憂鬱のせいか、ご来店組数がガクンと減ります。特にコロナ明け、入社再開以降は。

ウィークデーに備えてのスタンバイモード醸成の為ならいいのですが。

其れは兎も角、現在自分は、幸か不幸か、今日が日曜、旗日なのかウィークデーなのか分からなくなるような生活をしておりますので、その手の憂鬱はなくなっております。もちろん当店従業員は法定休日、休息时间、有給休暇をとっております。

## (ご参考)

2023/1/25

# 「嫌われる勇気」をする「勇気」



「日本人とは言葉が通じるからと言って必ずしも意思疎通が図れるとは限らんが日本語が話せん外国人との間でもジェスチャーや表情、イラスト、図表、ハグ等を使えば却って意思疎通が図れる場合が結構あるという話、したよな」

「うん」

「だが外国人なら誰とでも常にという訳ではない」

「誤解は付き物って話、ね」

「しかしここからが違うんだが彼らは分らなければ必ず訊いてくる。頓珍漢でも何でも必ず何回も訊き返してくる。そこが我々日本人と全然違う。我々は分らなくても質問しない。訊くのが恥だと思っている。自分が理解できないのが悪い。質問して話を長引かせると皆に悪い。イヤ、皆からうざってえ目で見られるのが怖いから質問せん」

「確かにそう言う処はあるな」

「要するに外国人の多くは他民族多言語国家に住んでいる輩が多い。だから基本認識が「人は皆同じ」じゃなくて「人は皆違う」が起点になっている。違うから分らない事が発生する。発生した儘にしておく相手から何されるか分らんから質問する。少しでも相手を理解し、こちらの事情も理解して貰って争いや被害を最小限にしようと本能的に質問する訳よ。質問するだけじゃなくて「分るまで訊く」訳」

「処が我々はそうじゃないって言いたいんでしょ、どうせ」

「我々の起点は「人は皆同じ」になっている。島国で、大まかに言えば一民族一言語国家。そして基本スタンスが「空気を読んだ上」での「以心伝心」に置かれている。だから空気を読めない上に以心伝心作法を破る「質問」は「御法度」詰り「自分の恥、相手に無礼」と捉えられる。確かにもっと人口が少なく個人主義優先ではない時代にはそれも可能だったかもしれん。が、今は人口が増え我が国流個人主義、言い方は悪いが「金は出せ、でも口は出

すな」的なそれが定着した都会人が暮らす都市生活社会が主体になっている。簡単に言えばお互いの関係が疎遠になり意思疎通が図りにくくなっている。そんな中で「以心伝心」なんて無理だろう。却って「誤解発生源」にしかならんと思う。それでも昔の「以心伝心作法」が残った儘だから、結果は既にお前も感じているだろうが「孤立無援な孤独感」しか残らん We feel loneliness no connect with others standing alone in the city life」

「分析としては面白いけど、じゃあ、だから何なの？何をすればいいって言うの？どうすればよくなるの？As a analyzing, it`s interesting. But then a what should we do? How will it get well?」

「先ずは「嫌われる勇気」をもって本心を口にする事だろう。勇気を持つだけじゃダメだ。それを実行に移さんと何の意味もない。確かに持つだけなら問題は起らぬだろうが改善の糸口になる言い合いすら起らん Not only holding the braveness which we accept to dislike from others when we say true voice ourselves, but also have done it, actually. Even if quarrel happen」

「「嫌われる勇気」って本あったよね Someone released the same title book」

「世界で 1000 万部も売れたらしいが、さて読後何人実行するかな All over the world, 10M books sold, they announced, but how many persons will do the contents items after their reading up?」

「先ずはオヤジからだね。言い出しっぺなんだから Daddy first, because you said first」

(注)

題名「嫌われる勇気」をする「勇気」を、本当は「嫌われる勇気」を実行に移す「勇気」としたかったのですが、語呂とリズムが悪いので表題のものと致しました。

真意はこの(注)に書いた通りで御座います。

2022/9/7-2

## 「一方通行」



「学生の頃、三国志時代を背景にしたある小説を読んだんだ。ある将軍が川の反乱を前にしてその平定を試みる話だった。武器に弓と槍を携えた軍勢を繰り出すものの、当然ながら何度軍勢を繰り出しても川の反乱は収まらず、虚しい戦いが延々と続くという様な筋書きだった。

読んだ当時は特に何も感じなかったが、最近何故かこの小説をよく思い出す」

「父さん、なんか近頃昔話が多いね。昔話をよくする様になると「そろそろお迎え」ってよく言うから気を付けた方がいいよ」

「でも俺みたいな爺の一匹や二匹居なくなった処で世界情勢になんの影響もないだろうから気にせんでもいいわ」

「えらく謙遜するね。生きている内から成仏身になってどうすうんのよ。もう少し憎まれっ子で居ないと其れこそ即、成仏しちゃうよ」

「それよりその話の続きだが最近よく思うのは、そのストーリーから我々は襲い掛かってくる色々な災厄や問題に対して「武器になる」と言われて今手にしているものは本当に武器として役立っているのだろうか？とか「戦い方そのものも是でいいのだろうか」とかいう事を思い始めたんだ。ひょっとしたら飛んでもない勘違いをして頓死の山を積み上げてきただけなんじゃないかなって。それこそ初歩的な戦略ミスを鼻から犯していた。そして今迄積み上げてきたと思っていたものが全て無駄だったんじゃないかなって、人生も終わりに近づいてきた今、特にそう思うんだ」

「父さん、そんな事ばかりが話題だから、母さん三行半残してドロップしちゃったんだよ」

「そう言えば今ふと思い出したが」

「全然聞いてない」

「子供の頃「コンバット」っていう連続戦争テレビ映画があったんだ。よく観ていたんだが、その中の一話で「あの丘を取れ」みたいな話があって、自分の隣でさっき迄笑っていた戦友も含め何人もの犠牲を出した後に、やっとの思いで戦略的に重要なその丘を確保したんだが、その直後に本部からの無線で転戦命令が下る話だった。

その時、部下を死なせた下士官が「何の為の犠牲だったんだ」と命令を伝えた現場の上官に食って掛かろうとし、逆に下士官の生き残った部下が抑えた。この話は川の反乱の平定を命じた三国志時代の将軍と兵の話とはちょっと意味合いが違うが、何故かこの二つの話を、最近よく思い出すんだ」

「相変わらず父さん、人の話、全然聞いてないよね。それって大声の独語癖みたいにしか聞こえないよ。止めた方がいいと思うよ。みんな気持ち悪がるから」

「独語癖ねえ。でも、其れこそみんな、一方通行の独語癖同士みたいなもんなんじゃないの？お互い仲良く話を交わしている様で、その実全然聞いてない。一方的に喋りまくって、相手の話は何も耳に届いていない。言わば、話が全く噛み合っていない相互独語癖社会。有口無耳みたいな」

「父さん、夕飯、何食いたい？俺、作るよ」

「カワシばかりが上手くなる」

「旨いかって？モチ、俺のカレーは旨いよ」

2022/9/11

## 「ドラマ脳」



「ドラマじゃあ、すったもんだの挙句、最後の最後になって留飲を下げる事が多いが、現実世界では最後の最後になってもちっとも溜飲が下がらない事が殆どだ」

「オヤジ、哲学ばかりしてないで少しはコロナ禍以降危機に瀕している商売の方に力入れた方がいいってみんな言っているよ。俺もそう思うけど」

「実は俺はもう金にまつわるうじゃうじゃも人気取りごっこにも飽き飽きしているんだ。従業員は食わさにかいかんが、それ以上は別にどうでもいい様な気がしてならんよ、最近」

「どうしてそう直ぐ達観しちゃうのよ。もう少し泥臭くなったら？アンマリ達観し過ると天からのお召が早まっちゃうよ」

「一度くらいは原宿駅横づけじゃなくてご当地の駅横づけのお召列車もいいかも知れんで」

「マタマタ訳の分からんオヤジギャグなんぞぶっ飛ばして」

「ところがだ、」

「あれ、俺のイヤミは完全スルー？」

「まあ、聞けやあ」

「やっぱりスルーだ」

「Once more again 処が、だ。「ドラマの方を正」とするドラマ脳から見ると、世の中で実際に起こっている全てが「そんな筈ないだろう」や「あんまりじゃないの？その仕打ち」に見えてくる訳だ。「約束されていた筈の結末」と疑いもしなかったものが、いつまでたっても起らず、いつの間にかそれは「約束されていた筈？筈って事は、それが事実ではなく仮定

だって事を、ある程度そちらが認識していたって事だよな？」と突如、手の平を返した様な逆突っ込みを受け、その後は「そんな事、約束した覚えはない」と突き放され、最後の最後には「そんな甘い話、この世にある訳ないだろう」と言うような目に遭う事が殆どの世の中だろ？」

「ドラマ脳って初めて聞いたけど、何となく分る様な気もするわ」

「女の人にはお花畑脳とか白馬の王子様脳とか言った方が、リアリティがあるかもしれんな」

「商売に身を入れないでネットばかり見ているんでしょう」

「エロ動画の次位にしか見てないよ」

「エロ動画ばかり見ているんだったら、増々商売に力はいらないでしょう。従業員に申し訳ないとか、思わないの？」

「それはそれ、是は是」

「線引きの仕方がよう分らん」

「と言う訳で、」

「又、スルーかよ」

「ドラマ脳を何とかしない限り、いつまでたっても不満たらたら、不平ブースカ。スネる、フクレる、ゴネまくるにしかならない様な気がする、けどね」

「オヤジ、どっかの回し者？」

「観察結果の報告者」

「でも言われてみれば今の殆ど全てのビジネスが、オヤジの言う「ドラマ脳」を当て込んでそれを囃し立てる事で成り立っている様な気もする」

「ドラマ脳を「潜在需要」ドラマ脳の囃し立てを「需要喚起策又は広告」と言い換えるともっと分り易い」

「今度は、口車に乗って金品巻き上げられた実体験、どっかであったでしょ。先日はおなご話だったけど」

「何にでも見境なく食いつく「ダボハゼ going な総領の甚六」

通称「ダボ六」が俺

又かよ、ダボ六、今度は何の巻？だって」

2022/10/4

# 「好きな球が来るのを待っていたら 試合は終わってしまいます」



「好きな球が来るのを待っていたら試合は終わってしまいます」ってイチローが言った。「来た球をコンマ何秒と言う範囲の中で判断して打ち返す。その為のトレーニングを毎日やっている訳です。だって打者の好きな球投げってくれる投手なんてこの世に一人も居る訳ないですからね」って」

「何か、意味深だね」

「で思ったんだが、俺達はいつも「好きな球が来ない。何で来ないんだ。早く投げろよ。投げてくんなきや拗ねちゃうぞ。拗ねちゃうのは良い球を投げてくれないお前が悪いんだから」的な処が、在りやなし（梨）やの栗きんとん」

「何その最後の「栗きんとん」て？」

「在りやなしやのなしを♪桃栗3年柿8年ゆずは9年でなり下がり梨のバカめはあ18年～♪の、その「梨」に掛けたの」

「何、その歌？」

「入社仕立ての頃 TV ドラマの「時をかける少女」で原田知世が歌ってた歌」

「そんなの全然知らんわ。それにしても入社仕立てなら仕事、覚えるんで必死こいて、そんなの覚える余裕なんてない筈なのに、やっぱ、なんか、やる事成す事全部ズレてるんだよな、オヤジは」

「ま♪いいじゃ～ないの～シ、ア、ワセえならば～♪で、それはさておき、元に戻って、要するに、だ、イチローの話からすると俺達はむくれる先を「お門違い」イヤむくれる事自体

無意味だろって言ってる様な気がしたんだ」

「そこだけ可成りマジに受け留めてるよねえ。そういやオヤジ、評論家の話とかは全然耳傾けないけどスポーツ選手の話は意外とよく耳、傾けてるよね」

「スポーツ選手の話には経験と実績に拠る裏付けがあるが、評論家のは only by mouth ではないから」

「ごめん、話逸らさせて。今日は俺の方が」

「♪たまに寄り道帰り道。何かいい事ありそうな♪と自作川柳詠んだ上で

ま、たまにはそれも又一興、と」

「どうも一回ズレっとその後ずっとズレまくるから、やっぱ、ごめん、だわ」

「苦しゅうない苦しゅうない、さ、さ、そこ元、ず、ず、ずいと近う寄ってたもれ。耳貸してたもれ」

「火付け役ながら流石、もう飽きたからいいよ。滑るギャグ続けるのは不仲の素だから早々に切上げてその先進めてよ、お互い良好な父子（おやこ）関係維持の為に」

「飽きたと言いつつ何かお前が誘いを止められなくなってない？まあいいや。要は、だ、来る筈のない好条件を其れ本命でずうっと「待ちぼうけ」し続けてるだけなんじゃない？だったら一刻も早くその「無駄ぼうけ」に気付いて棚ぼた本命の他力与奪に「おさらば」し、遠回りに見えても自力与奪で日々コツコツの地味トレ続けた方が余程マシな結果、得られやせん？かなって」

「どうもオヤジの話は物によるレベル格差、激し過。時々あり得ないスクイズされたみたいで面食らうわ」

「如何なる事態にも面食らわん様にする、それがイチロー訓の肝よ」

「あわわ、もう完璧、イチローのおんぶお化けに取り憑かれてるわ」

2022/10/13

## 「特に好きな事なんて」



「今の若い人に「好きな事、やっていいんだよ」と言っても「いきなりそう言われても、そんなの、特にないし」って反応、結構多いよな」

「そう。確かに「あれしろ」っていわれるより「どうぞ」って言われた方が却って戸惑っちゃう」

「でも俺の観察によれば、それは本人の勘違いだと思うんだわ」

「えっ、勘違い？何の勘違い？例えば俺は何を勘違いしてる訳？」

「例えば俺は「男のおばさん」てえ陰口叩かれる位お喋りで、昔の男からは「大の男が、体裁悪い事を」って言われそうな位「主婦する」事が大好きだ。炊事洗濯家事掃除、要するに整理整頓して整っていく様を見るのが快感な訳。でも其れって職業にならないし、お金も全然入ってこない。勿論社会的地位にもまるでならない。でも、大好き」

「え、何が言いたいのか？」

「詰り、よくよく考えてみれば好きな事はあるのに、それで肩書付かないとか収入が得られないとかだと思うと、自分の方からそれを引っ込めちゃうか、心の奥底に仕舞込んでしまって日の目を見ない儘に忘れてしまっている事、結構あるんじゃないのかなあって思う訳」

「そうなのかなあ？あんまり心当たりないけど。なんかまだピンとこないよ」

「他には退職した旦那衆がやる事なくて暇とか、肩書なくなって、収入も年金だけの大幅減になった途端、もう自信無くしちゃって、役立たず視されるのがイヤで妙に虚勢張ったりする事、在りがちだよな」

「それは感じる」

「でも、仕事って別に収入が得られるものばかりじゃないよな。例えば無料奉仕はお金貰えないどころか手弁当で出費が嵩む事だってあるけど、ちゃんとした仕事だし、主婦にしたって炊事選択家事掃除で一円もお給料戴けないけど、立派な仕事でしょ？是だって無意識に「お給料貰えない肩書無しの仕事は仕事じゃない」って鼻から引込めちゃっている訳よ。又「炊事選択家事掃除の価値を認めろ」って騒いでる奥さん方だって、無意識だとは思うけど、その主張とは裏腹に自分の方から「肩書も稼ぎも得られない仕事は仕事してる事にならない」って無言のプレッシャー、旦那さんに掛けてんじゃないの？」

「面白い見解だね」

「要するに是も、何も始めないうち、日の目を見る前から自分と周りが芽を摘んじゃってんのよ。自重自粛になっちゃってんの」

「じゃ俺は何に遠慮して自重自粛してんだろ？」

「それはお前の領域。でも好きな事見つけるには先ずそういったゴミ撤去の作業が必要なんじゃないの？自重自粛ゴミとか遠慮ゴミの。ゴミに埋もれると元が何だったか分なくなる事あるから早々に撤去した方がいいよ。感覚センサーが押し潰されて麻痺する前に」

「俺はゴミ屋敷に住んでて畳が見えなくなっているって訳かぁ」

「立退き喰う前に、自ら片付けて資源ゴミに出した方がいいと思うよ」

「資源、ねえ」

「お前には不要なゴミが他で化ける事もあるから。その断捨離を次から次へと回せばいいだけだから」

2022/10/15-2-1

## 「そんなドラマはいらんのよ」



「そーいや前から聞いたかったんだけど、オヤジ、うつ病からどうやって立直ったの？メチャひどくてメチャ長かったもんね。俺が小二の頃から二十歳になる迄だろ？母さんもドロソバしちゃったし」

「今でこそ語る感動の秘話」講演やって金、取れるんやったら話すけど、お前に喋ったって口銭ゼロやしなあ」

「そーいう事、損得で語っちゃいけないんじゃない？可愛い息子の今後に、何か役立つかもしれないだし。人間、ある年になったら損得優先じゃいけないんじゃないの？もっと大切なもん、あるんじゃないの？」

「何で年下のお前に「実る程、首を垂れる稲穂かな」みたいな事、謂われにゃあかんのよ。どっちが親やねん？ほんま」

「年齢はオヤジの方が上なのは確かだし製造元の製造物責任者なのも分かってるけど、どうも年上で且つ親であるとは思えんのよね。実感的に」

「お前、なんか俺に絶対恨みあるよな。どこかの時点から」

「オヤジの子として生まれた時からかも」

「ショック」

「そーいえば、どういった逆ショックでうつ病から立ち直れたの？ハイ早速「感動の秘話」始めてちょ」

「お前、人さまにお話し戴くのにそーいうアプローチはねえだろうに、よ。でも、ま、今日はメチャ暇だからいいかあ」

「必ずいつも話す迄にひと悶着あるよね。スムーズに事が運んだ試し無いんだから。世話焼けるわ」

「じゃ、此処からスムーズ且つ素直に始めるぞ。いい？」

「パチパチパチ」

「口で言わずにちゃんと、手叩け」

「逸れない内に始めてよ」

「簡単に言うと、あっ、偉くなんなくていいんだ。立派も止めでいいんだ、と閃いた瞬間。別に俺は特別でも何でもなかったんだ。特別どころか並以下で、それに気付けただけで御の字。何も無理して元に復帰しなくてもいい。「元」ってえのは、自分が無意識にセットしてた「皆から愛され期待される人物像」の事。そう思えた瞬間、ぴよんと立ち直れたのよ。悩み12年、立直り5秒。あ、是って」

「ナニソレ？そんだけ？入口即出口？」

「そんな複雑なの、ある訳ない。複雑じゃなくなったから回復できた」

「でもそれじゃあ講演もたんよなあ。1分で終わったら盛り上がり欠けるし、みんな割高にも感じるだろうし」

「だから講演、止めた」

「ん？前に講演した事あるって事？もっと延々「紆余曲折の果て、とうとう」展開の講演」

「実は以前一回だけうつ病の講演をした。でも自分の「感動の秘話」仕立の作為に気づいて、ミスリードはマズかろうって、止めた」

「あらら」

「でも実際にドラマなんてなかった。

あったのは

「ちょっと気付いて力抜く」

の一行だけ。

結局、鬱の原因は自分で勝手にセットした「皆に期待される」人物像や story に押し潰されちゃうからなのよ。

自縄自縛で自己自沈。一人力むも客スベリ、一人恋慕も相手、影。

「観客（周り）の期待」

そんなもの前に建てちゃいかんし

「主役」

に拘り過ぎてもいけん。

そんなドラマはいらんのよ」

## 「オヤジギャグでいいんだってば、さ」



「オヤジ、そのオヤジギャグ、そろそろやめた方がいいと思うよ。完璧スベリまくり、分ってんの？」

「まずは率直なご意見、有難うございます。でも、俺はめげないぞ」

「あれ、前半と後半で意見まるで正反対になってるじゃないのよ」

「あのね、我が国だけ見るとオヤジギャグは誠に情けないものとして扱われているし、例えばオヤジギャグを英訳する時に、old man`s joke と訳さずに俺は敢えて意をくんで low level gag と訳している位だが、其れこそ「反対に」外国人には日本人に受けるギャグが全然受けないのよね。「何処がジョークなんだ？何で笑ってるんだ？」って彼らには全然わからないらしいんだ。処が我が国じゃ low level 扱いされている俺のオヤジギャグで連中は手を叩いてゲラゲラ大笑いしてる。それは俺のギャグの Level が高いからじゃなくて、却ってひねりの無いシンプルなジョークで圧倒的に分かり易いからだよ。我が国で受けるギャグは余りにもひねられ過ぎて、又裏の裏を起点にスタートしたりしてるから、そんな事、思いもしない彼らには全く理解できないし、第一全然面白くないみたい。だから俺は自信と誇りをもって敢えて「皆がニコニコオヤジギャグ」こいてる訳よ」

「えっ、そんな事になってんの？全世界的に見ると」

「そう、なんか我が国だけ特殊なのよね。最近よく感じるんだけど、いろんな面においてかなり特殊なのよ。だけど我が国で暮らしている限り、周りは全部邦人だから、その特殊が特殊じゃなくて全世界共通の常識だって思っちゃてる訳。譬えて言えば、その一部分だけ黒い写真を「是が世界です」ってみせられて「世界は黒いもんだ」と思っていたら、その写真がパンされると周りは全部白の世界だった。つまり世界の傾向は白で、我が国だけ黒が主流だと思っていた、そんな事実に気付いていないみたいな事かな」

「ちょっと意外な展開になってきたな、今日は」

「特殊っていえば、この前あるグラフ観たら、我が国だけ突出して周りに相談できる人がいないっていうのがあった。隣人を信頼しているかのスコアもダントツで低かった。一方経済状態や健康に関しては満足度が高かったな。要するに金もまあまああって体も結構元気だが心寂しいのが我が国国民の姿なのかもしれん。皮肉を言えば身体ばかり元気でそんなに長生きしてどうするのって」

「確かに周り、全然信用してない。周りを全員スパイとして疑ってかかっている。まずは拒否から入っている。

そしてスパイされて己が作り事してる正体、人にバラされちゃ困るから一刻も早くその場を立ち去ろうとする。

結果、話おざなり、気はそぞろ。

漫ろ浮足立ってるから人の話全然聴いてない。会話もコミュニケーションも全然成り立ってない。人がこんなに溢れてんのに、中身が是じゃ、居ても居なくても同でしょ。いや却って邪魔臭いだけ」

「お前もそうなの？」

「俺は家に話し相手いるから」

「あ、そ、おめでと」

## 「一人付度？」



「われわれ日本人はともすると言われもしないのに「一人付度」やら「一人取下げ」「一人、勝手に自重自粛」いや、「自重自縮」しちゃうしょ。何かする前、言う前からそれじゃあ、あかん様な気がするが。少なくとも最低限何かしたり、言ったりしないと「腹、膨るるう事、此上なし」になって、その内ブチ切れて大爆発する羽目になってまうでえ」

「今日はガス会社の出張社員な訳？ガス点検しに来た」

「へ、入館証、持って、ま」

「うんるさいから、ちゃんと見せて、事前に」

「うんなもん、ある訳ないやあん、アホ」

「で、何、その先、本意と「そのころは」、は」

「コロナに物価高にミサイルの恐怖だの雇止めだの解雇だの、色々あるのは分るが、どうもそれだけじゃない様な気がするのよね。此の元気のなさは」

「何言ってるのよ。それだけあれば十分じゃないのよ、萎（しぼ）むには」

「そう、将に萎んじゃってるのよ。一方じゃ、圧がかかれば等価反発力が生まれるのが科学の法則でもあるんだが、そういうのがなくていきなり萎んじゃってるからどうなのかなあって。科学の法則が正しければ等価反発力が加圧を超えて、溜まったガスが大爆発するだろうし、既存の法則が当て嵌まらん何かがあるねえやったら、其れ見つけんとあかんやあろうし」

「爆発するのはガス抜き穴がないからでしょ？萎むのはどこかにもう穴が開いていて既に空気、抜けちゃってる訳でしょ？今は大抵その折衷案で、小さな針の穴から小出しに「空気」抜きしてるのが一般的じゃないの？目に留まりにくい意地悪とか煽りとかチコッとシ

カトとかで「息」抜き&「ガス」抜き」

「何、お前、そういう経験ある訳？したとか、されたとか」

「したのではないけど、された事は結構あるかな？身近な奴からじゃなくて、直接の利害関係が発生しにくい、知らん第三者からが圧倒的に多かったけど。例えば行きずりだったり、レジ待ちの時だったり、電車やバスの降り際だった様な場合にね。行きがけの駄賃、じゃなくてイタチの最後っ屁的？この世の恥は掻き捨てる的？どっちかな？」

「意味は分かるからどっちでもええ」

「ある種是は一般ピーポーの生活の知恵なのよね、良い方に解釈すれば。でも実際にはかなり陰険。いじめだと刑法に引っ掛かるから処罰受けない意地悪に徹してる訳よ。結構、計算高いから陰険だとも思うのよね」

「だったら直接の利害関係者に大口開けて思いの丈、吐露しちゃえばいいのにねえ」

「その結果、オヤジみたいな結末になる事をみんな怖れている訳よ」

「俺の結末って、ナンソレ？」

「ヨメに逃げられ、893 同然に見られ、「アブナイ刑事（デカ）」扱いされてる姿」

「何？そんな事になってんの、今、俺？」

「知らぬは本人ばかり也、ナンチャラ蛇に怖じず、知らぬが仏の極楽とんぼ生活満喫してるんだから♪いいじゃ、ないのお、し、あ、わ、せええ、ならばあ♪」

「誰やっけかあ？歌手」

「I don`t know お～」

(注)

「忖度」には、一步身を引いた真の目的の中に「ご機嫌伺」とか「ご機嫌を損ねたくない」と言う含意がありますが、此処では後者の「相手の不興を買いたくない」位の、やや「謙虚で可愛らしい」心情を含んだ意味で使っております。

その為、完全な「忖度」とも言い切れないので、敢えて「？」を最後に付加致しました。

2022/11/1-2

(オマケの英語教室 Samurai manner? Is it true?)



「自重自粛」を英語で何と言うか？

当然そんな単語、知る訳ありません。

いかんせん中学レベルの知識では。

しかし、諦める気も致しません。

負けん気、強いですから。

で、トライしてみました。

結果、訳したのが

Self-stepping-back and hiding by myself

(自ら引き下がり自分から隠れる事)

でした。

是に

Although non their pushing

を付けて

Self-stepping-back and hiding by myself although non their pushing

(言われもしないのに、自ら引き下がり自分から隠れる事)

勿論意味はジャストではありません。

特に後者の訳はどちらかと言うと我が国で蔓延している「忖度」の英訳の様な気もします。

「忖度」には手もみゴマすりをイメージさせる「ご機嫌伺」の意味がありますが、そこ迄は行っておりませんので「忖度」そのものには当たりません。

但し「相手の不興を買わないように」や「ご機嫌を損じないように」の意味もあり、ご機嫌伺の元になっている「不遇」や「処罰」「干される」事を恐れての事であるのは同じだと言えそうです。

イヤミに聞こえていたら、ごめんなさい。

(注)

題名の manner にあたるところは behavior にしたいところでしたが、余り馴染みのない英単語だったので一般的に流布している manner を採用いたしました。

Samurai way でもよかったかもしれませんが、其れだと武士道みたいな意味合いに取られそうなので止めました。そこ迄大それた話でもありませんので。

## 「肩書ゾンビ」



「それにしても我々日本人、と言うか漢字文化圏の人間は肩書、大好きだよ」

「日本人、漢字文化圏、肩書。何かすごいラインナップだね、今日」

「ところが漢字文化圏以外のアジア系外国人、語りウチの従業員なんかは、肩書には全く関心なし。店開いて5年だが連中、店の名前は覚えてるが会社の名前が何なのか未だに知らないので。我が国じゃあ考えられんだろう？要するに連中は花より団子なのよ。我が国では当たり前な社会保険完備、交通費全額支給、有給休暇があるというだけで wow, Excellent company っていうんだから。その癖そのカンパニーの名前は前述の如く、全く覚えてない。で、もっといい条件あれば名前そっちのけですぐ転職しちゃう。例えばトヨタで20万の月給だったとしてウチの様な無名の会社でも30万出すって言ったらホイホイ移ってきちゃう場合もある。将来年金より先ずは月給。零細「起業」には人材獲得面で有難い事よ」

「えっ、そうなの？肩書大好きって、全世界どこでも同じだと思ってた」

「でもないよ。欧米でもそうでもない様な処あるから、何か漢字文化圏てえ、突出して肩書に拘ってる様に思えて来たなあ。肩書と言うかブランドというカラベルという属性というか、兎に角セグメンテーション好きよ。直ぐにレッテル貼りがるし」

「確かに出身大学、ゼミはどこ何処、勤めてる会社はどこで、役職は何で、済んでる地域はどこそこで、男で、女で、ナンチャラカンチャラうるさい事は確かだわなあ」

「人を見る時、老若男女を問わず、都市出身、地方出身問わず、第一次産業従事者、二次、三次、四次問わず、全部其れで見ると、ラベルで。目の前に居るご本尊差し置いて」

「ご本尊!! 譬えがスゴイね。ポキヤがそのセンスだから初対面の人、ぶっ魂消ちゃうんだよ、殿」

「と、と、殿!! ま、よかろう、千代丸。で、だ。そんなに大切に、世の中渡る羅針盤に

さえしている肩書初め属性に関するラベルの大半を定年と共に失っちゃうから、そりゃー大事な訳よ。或いは定年を待たずに都落ちなんかしちゃうと一家崩壊にすらなり兼ねない訳よね。その主たる原因として」

「だからかぁ、張りぼて見かけばかりの爺婆が横行してるのかぁ。見栄と虚勢の極致。虚ろなる事、ゾンビの如し」

「退職して肩書なくなったら、単に「素の自分」に戻ればいいだけなのに、現役時代と同じ重みの代替鎧兜を探そうとするから焦るし、また探してもそうは簡単に見つからないから、手っ取り早く虚勢や沽券に走る訳よ。特に殿方は。

奥方様は見栄さえ保てりゃ何でもいいから実入り優先なんだけど其れが 0 となると、もう厄介者扱いなのよね。前にも話したけど別に目の前のご本尊様と結婚したんじゃなくて属性である「肩書と年収」と結婚した訳だから其れが消えたとなると、もうお荷物でしかない訳よ。飯作るのも鬱陶しい位に」

「なんか平家物語」

「ナニソレ？」

「他人事ながら、いと哀れ也けり」

(注)

「平家物語」

琵琶法師による音曲説法

「平家に非ずんば人に非ず」

とまで言っていたその平家もやがては

「祇園精舎の鐘の声

諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色

盛者必衰のことわりを表す

奢れるもの久しからず

ただ春の夜の夢の如し」

となった、の一節に掛けて。

平家も当時最強、永世不滅と思われた一種の「肩書」「ブランド」でした。

2022/11/3

## 「却って逆効果。なので、正々堂々珍多羅漫多羅」



「11月3日、文化の日。奇しくも今日は初恋の人の誕生日で且つ俺のオヤジの命日のダブル記念日だ」

「爺さまの命日は兎も角、その歳ぶっこいて初恋の人の誕生日未だ覚えてるなんて珍しいよね」

「ん？フツー覚えてるやろう。そんな事くらい」

「俺、全然覚えてないよ、自分のそれは」

「そりゃ幾ら何でも失礼やろう、彼女に。お前、その時だけ豪華なプレゼント渡して、その後はケロッと忘れてるなんてえのは男の風上にも置けへんどう」

「何いってんのよ。それが現在我が国の平均的男子像でしょうに」

「えら、レベルダウンしとんねんなあ、一昔前と比べると」

「大枚はたいてプレゼント買って彼女に贈っても、あんまり喜ばれないみたいだから、早晩記憶の中から消えちゃう様になっていったんじゃないの？彼女の誕生日」

「そういうもんかねえ？なんか、寂しい世の中よのう」

「それはそうとして、昨日こっちに泊まって、オヤジ店に出かけちゃったから代わりに朝、俺がゴミ出した時に近所の人が

「お風呂の中であの「珍多羅漫多羅」とか言う下品な鼻歌大声で歌うの、止めてくれませんか、お宅のお父様が。教育上、よろしくありませんからって言ってきたよ」

「何？どこが下品じゃ。

♪珍多羅漫多羅学校さぼって渋谷を行けばあ～青学のねえちゃあんが、横目でいらあむう。

遣りたいな、やりたい、やりたい、やりたいなあ。

青学のねえちゃあんと、勉強遣りたいなあ～♪

の、何処が下品やねえ？あん？言うてみい」

「て、俺に言われても」

「二番もあるだよ。

♪珍多羅漫多羅学校さぼって四谷を行けばあ～上智のねえちゃんがあんが、横目でにいらあむう。

入れたいな、いれたい、いれたい、入れたいなあ。

上智のねえちゃんを、部活に入れたいなあ～♪」

「こうして二番迄聴いてみると、なかなか秀逸な歌だね」

「せやろう。じゃ、あとおそそで音頭も歌おうか？」

「そこ迄求めてない」

「ハイ。では、そもそも隠すから見たくなるのよ。ダメって言うからしたくなるの。却って逆効果な事ばかりやってる気がするのよ。エロ本だってエロビデオだって、ハイどうぞしこたま見させて、職場や学校でも不快じゃない下ネタオープンにした方が余程妙な犯罪減ると思うけどなあ。それを一律ダメって言うから陰でコソコソが始まって、更に凶悪卑劣化促進させてんじゃないのかなあ？今の何でもかんでもダメって、異常にヒステリックな予防線張り過ぎてんじゃないの？どう考えたって逆効果な気がしてならないんだけど、心理学的観点からは」

「そういえばオヤジ、外国人従業員と仲良くなったきっかけはエロ話だったって言っていたよね」

「大体人間なんてそんなもんよ。数学とエロ話、どっちが楽しいっていったら、エロ話に決まってるでしょ。少なくとも職場では、全世界的に」

「そういうの、グローバルスタンダードって言うの？」

「有史以来の歴史的グローバルスタンダード is」

2022/11/16

「掻き捨てだから。

この世の恥は。

OK、OK、

ハイハイOK、よ」



「昔、弟にはしょっちゅう「恥ずかしい奴だ」って言われてたし、太宰治も小説の中で「恥多き人生でした」って書いたように入水心中しちゃったでしょ。でも、今の俺は「恥多き人生でも、この世の恥は掻き捨て」てえ事にしてるから太宰治より可成り恥多き人生でも平気なっちゃったのよ。うっせえ、外野は黙ってろ、って気分」

「確かに最近、棺桶が近いせいか大分自分の持ち味の活かし方分ってきたみたいね」

「この文の「人生でも」と「この世の恥」の間にある「、」を超えて「この世の恥は掻き捨て」に入るのが大変だったけど、まあ超えてしまえば」

「「、」てえ、うつ病越えの事いつてんの？」

「其れもあるけど、その後の首腰同時手術を過ぎてからの方が、よりそうなるきっかけだったかもしれんな」

「どういう事？」

「一時「うつ病、うつ病越え」に囚われ過ぎて逆に全体が見えなくなってた時期があったが、首腰同時手術で入院してベッドの上に寝転がるだけの日々を送っていた時に「うつ病で隠れていたそれ以前があった」事に気付いたんだ。ヤ、むしろうつ病以前の方がもっと示唆に富んでいた事に気付いて、そっちの方を活かした方が今後、より色々な事が出来るんじゃない」

いかって思った。そっち方が転機のきっかけだった様な気がしているよ。今は」

「あの話？手術で全身麻酔打たれた直後からいいも悪いも何も聞こえなくなった、っていう」

「うんだ。それ迄何をやってたとしても、何の事はない、賞賛も聞こえないし、罵倒も聞こえなかった。だったらこの世の恥はかき捨ててでいいんじゃないかって思った訳よ。人に迷惑かけて迄やるのはいかんが、そうでなければ誰の目を気にすることなく思い残す事なき様に思いっきりやった方が断然お得じゃないのよ、ってね。そこでそれ迄の「恥の多き人生でした」の後に「、」がついて、気が付くと無意識に「この世の恥は掻き捨て」に突入してた訳。「この世の恥は掻き捨てだから♪どんと行こうぜ、どんとね。あ、ドンガラがったドントどんと、行きましょう♪」みたいな「今でこそ語る、あの時の「植木等」的真相秘話」な訳」

「ふうん。「人に歴史あり」かぁ。確かにこの頃「生き恥も、此処までくれば、勲一等」って感じ、だもんね」

「はははぁ。多分来年の秋には俺は皇居の大広間よ。其れまでにタキシード・モーニングの金、稼いでおかなきゃ、な。どうせならシルクハットと白手袋もつけとくかぁ」

「勲位一等。そげんこつばぁ、よう言っとう。以上、九州弁バージョン」

「近頃、ノリが良くなってきたな。誠に結構、ええこっちゃ」

「あとね、オヤジ、そのシルクハットと白手袋。俺に言わせればどう見ても可成り怪しい手品師、いやペテン師にしか見えない様な気がするんだけど」

「バカタレ。俺は怪人百面相じゃ。怪しくて当たり前だろうに」

「ん？あ、「老人」百面相、ね。なら分かる」

2022/11/20

## 「スマホれば、今日も孤独の降りかかる」



「物事には何でも光と影、陰陽、正負の面がある。光が強い程影が濃い場合もある。詰り夫々に功罪があるという事だ。例えば昨今色々取沙汰されてるゲーム依存とか歩きスなんとかで話題のスマホ。是は出張点検の現場作業等では軽量化や手軽さが大変な効率化を齎したが反面大いなるご迷惑と孤独や孤立を同時に産みだしている様な場合だ」

「オヤジの場合気前がいい反面、お店経営からすると大変なご迷惑でしかないみたいな事でしょ」

「キャブリきの、蓋にし取れば、直ぐちょびれ、唯書きすらの、ハツパふみふみ（文々）。基。口すらの、作りし取れば、出でちょびれ、唯押しすらの、ヤツパおれおれ（俺々）」

「ナニソレ？」

「ヤ、只思い付き序に口にした迄。特に他意はない」

「面白いんだけど反面「大丈夫かいな、この人」みたいな事でもあるよね、上の話からすれば」

「処でそのスマホだが「功」は売る側の宣伝に任せるとして、今日は特に使う側の「負」についての観察結果を原稿箋3枚以内で述べてみる」

「もう此処迄で原稿用紙1枚分は優に使ってるから残り後2枚しかないよ」

「ホイ来たムスコよ、分ったホイ」

「先、先。字数足りなくなる」

「では。歩きスマホ。その原因としてゲームなんかに「夢中」になってとかよく言っているが俺の観察によればあれは「ブー」だな」

「ん？」

「俺の観察によれば、あれは「逃げ」「アリバイ作り」要するに「隠れ蓑」でしかない。人と目を合わせる事からの逃げ。やる事無いのを見抜かれない為の「私、暇じゃないのよ」逆演出のいい訳アリバイ作り。詰り世間に対して防波堤張って「逃げ隠れ」に忙しいだけなのよ。結果、内でも外でも手軽に纏える（まとえる）分、いとも簡単に孤立と孤独を増々深めてしまう。そのくせ反面、身を隠そうとしているのに、その又全く反対の願望があって「その防波堤を超えてでも「お声掛け」しなさいよ。構いなさいよ。注目してちやほやなさいよ。「私の孤独を癒す」のが貴方の義務でしょ、最低限の」みたいな処があるから話がややこしくなる」

「確かにあれだけ長時間スマホる様な中身ない、気もするよ。ゲームをアンマしない俺からすれば」

「電車に乗って7人掛けシートの7人中7人がスマホ見るなんてちょっと全体主義的風景の様な気もするし。あと最近歩きスマホが若い奴特有の街中風景じゃなくなってジジババ迄にも拡がり始めてる。しかも顔見知りや遠隔キャッチした途端スマホ取出すのが何ともはや鬱陶しい限りで」

「処でさっきの「ヤッパ俺々」ってあれ何？気になってんだけど」

「我ら現代に生きるもの、須らく「私の都合第一優先のヤッパ俺々」っていう結果的「チラ見せ予告」だったのかも。無意識に」

「にしてもオヤジ、広告に限らず好きねえ「パンちら」「胸チラ」「チラ見せ」全般、無意識的に」

「当たり前田のクラッカー。痩せても枯れても俺は未だ一応男の類なんだから」

(注)

●題名「今日も孤独の」は中原中也「汚れちまった悲しみに、今日も小雪の降りかかる」からパロリました。

自作「口すらの」は大橋巨泉が自分の小学校の頃にやったパイロット万年筆のCM「キャプりきの」からのパロリ。

又「当たり前田のクラッカー」は同じく小学校の頃やっていた藤田まことや白木みのる出演の舞台バラエティ「てなもんや三度笠」の番組スポンサーをやっていた前田製菓のCM口上からパロったもので御座います。

●写真はカラーになっておりますが、当時見た映像は白黒テレビ画像でした。その頃未だ家にはカラーテレビは御座いませんでした。

2022/11/27-2

## 「又恥物？」



「ほんと長男に生まれて嫌だったな。最初に生まれたんだから一番出来が良くなきゃいけないとか、一番賢くなきゃいけないとか、立派じゃなきゃいけないとか、お兄ちゃんなんだから我慢しなさいとか。なんで次男とか末っ子に産んでくれなかったのよってしょっちゅう思ってた」

「でもお下がりとか着なくて済んだんだからいい事もあったんじゃない？ま、お下がり俺の時代迄で今はあんまり聞かないけど」

「長男辞めてお下がり済むんなら何時でもお下がり引受けたよ。その位嫌だったな。オマケに俺の前三人、死産だ、流産だ、生まれて直ぐに死んじゃったりで、そりゃもう3人分の期待、てんこ盛りで丸投げされた様なもんだから半端じゃないのよね、期待のレベルが」

「う、確かに三倍重ねとなると、まあお察し申し上げますとしか、ねえ」

「加えて出来も悪いもんだから増々監視モニター一年がら年中「作動中」だったし。写真も俺の写真は殆どなくて弟の写真ばかりだった。名前呼ばれる順番も必ず弟が先で俺はその次。だから俺、子供の頃から何となく「お邪魔虫」意識、かなり発達しちゃってたのよね」

「そのせいなあ、「一寸の虫にも五分の魂」みたいな処があるのは。その「お邪魔虫」意識が原因だったのね。虫の「慟哭、叫びを理解する」みたいな、弱いものに矢鱈肩入れする気質」

「ん、お前、俺が謙虚さから「虫」って言ったのを余りにもスムーズに受け入れてない？「そんな事ないよ、オヤジ」っていうフレーズ、全然出てこなかったし」

「オヤジ見てるとちょこまか動くし、なんか道化みたいだから、俺先ずてんとう虫思い浮かべちゃったんで、「あ、そうよね、虫だわ」って素直に受入れた訳よ」

「俺は♪ 1, 2, 3, 4, 2, 2, サンバ♪の「てんとう虫のサンバ」人間かよ。ま、ゲジゲジとか言われんかった分救いにはなるが」

「流石ゲジゲジと迄はいかんけど「エヘン虫」位には顔、ゴツイわな」

「お前俺をボール当てるとギャッと悲鳴上げる、来園者の欲求不満吐出口の「遊園地の鬼」扱いしてない？」

「其れいつの時代の話よ。俺見たことないし」

「お前らホンマ、貧しい時代に生まれとるんじゃないや。アナログ無しの近代装備ばかりの世界に」

「近代装備！！すげえ単語」

「そういや、学年によって違ったが、友達は割と一人っ子が多かったな。だから長男の悲哀分る奴少なくて。後、オマケで言うと、付き合ったおなごは何故か母子家庭育ちとかファザコン娘が多かったなあ」

「オヤジ、結果的には完全にご迷惑なんだけど、初心だけは面倒見がいいからな。そのせいじゃない？」

「面倒見がいいっていうより何か心配になっちゃうのよね。こいつこのままで大丈夫なんかいな？とか、どうすんのよ？そんなことしてて、とか、そんな感じ」

「結構感情移入、激しいからねえ、オヤジ」

「激しさも中くらい也おらが春。激しい中にも礼儀あり」

「又始まった」

「股旅物？基、又始で又恥物かい」

2022/12/9

## 「麦踏み育て」



「シャチヨ、いない間にまたムスコさん来た、あるよ。Was he fired or quitting from him? (会社クビになった? 自分から辞めた?)」

「知らんわ。もう 20 歳大分過ぎてんだから、親は一々口出しせんよ。ジャパンでは」

「それ、little bit too much cool? (ちょっと、冷たすぎやしません?)」

「なんでやねえん? 当然こっちゃろうが」

「家族困ったとき、面倒見る。ネパールみんなそう、あるよ」

「ジャパンではそれが too much なのよ。みんな keep warm and cold protected house 育ち過ぎて too much over limit weak person ばかりになってるのよ。Not so heavy trouble, but before coming trouble, too much supports their parents giving なのね。それで Never can accept any troubles and no touch and anyway escaping person ばかりになっちゃってるから very problem なのよ。だから俺、暫くほっておくことにしてる訳」

「シャチヨ、saying very ムツカシイ。家族、困る。助ける。コレ、フツあるね。ムスコサン、カワイソウ」

「困ったら助ける。是は良い。でも困る前から助けちゃうから問題なのよ。自分でぎりぎり頑張ってダメだったら助けるのもいいけど、初めから丸投げされて全身で寄りかかられたんじゃ、親、たまらんぜえよ。それにいつも助ける親が死んだらどうなる? 子供さん。And if parents die, after it, how he will do?」

「マタマタ、ムツカシイ、あるね」

「お前、麦踏ってしっとうや? pressing down sprouts of wheat や」

「ワカラナイ。Don` t know. ナニソレ、あるか?」

「温室育ちの反対や。打たれて伸びる奴や。Elementary school で始めて「Mugifumi」って聞いた。最初、弱い麦を踏むなんて、feel sorry 可哀想や、おもった。踏むやつ、弱いものイジメする very bad person や、おもった。でも teacher が so bad behavior に思えるかもしれないが、こうすることで、麦は打たれ強くなって、反発力で却ってぐんぐん育つ、その為に踏むのが麦踏だって教えてくれた。Pressing wheat brings survival power getting from their strong spring grown up, it's "Mugifumi" purpose, aim, pulling out their hidden survival power, teacher said」

「Wow, Japanese thinking way very スゴイね」

「だからいつも言うてるやろうが。今を見て動くな。先を見て動けって。自分の人気取りをするな、子供の事を考えて動けって。子供の先々を考えたら、親は憎まれ役にならざるを得ないのよ。親なんて嫌われてなんぼの商売やでえ On your doing, Not look at here, look at child`s future, over there. No wish child`s saying "happy, happy now. You good Dad" Sometimes you should be hated person. Because it`s parents` mission, parents` business, for your children in the future, even if now you no can get popularity from them, I think. It`s my educational doctrine that consciously giving a little bit, surely not over level stresses for their growing up, hopefully」

「シャチョ、私 Japanese も English も not so well。でも、I feel You love ムスコサン達、分かる」

「そういう照れる様な事を言うな (Never say such one which push me falling into shy mode) いつものように肩すぼめて Oh シャチョ、noisy ガタガタウルサイ、とでもいうのがジャパンのマナーだ、ワカッタ？」

「ジャパンのマナー、very ムツカシイ」

「ムツカシイの事は、マナーじゃなくて金儲け earning money way の方だ。全然儲からん perfect no earnings だ。ん？どうもだんだん俺の言葉、変になってきた。お前、ワカル？俺の sayings？」

「ダイジョウボ。だんだんナマステ・エブリバディ「ことば」、ナレテきた。ダイジョウボ、ヨ」

「グラッチェ、センキュー、シェイシェイ、Donne Bard (ドンネ、バアアド)」

「No problem, ダイジョウボ、ダイジョウボ」

2022/12/12

## 「I don` t like 同調圧力釜」

(Under the hi pressure)(looks like the same) (but different each all)



「そのライター何あるか？」

「是か？昔オヤジがタバコ吸ってた時に何かのオマケで貰って来たライター。ま、only one belongings (遺品) だな」

「Body 何書いてあるか？」

「intolerance 「不寛容」 詰り心が狭い chicken heart って事だ。何かの映画の題名みたいよ。Movie campaign 用の lighter なんかな？」

「ココロ not open chicken heart is no good あるね」

「そういや suddenly story changed だけど、この前、店のホームページに外国人からクレームが入ってたのよ、mail で」

「very rare メズラシね。始めて first ね」

「うん。で、そのクレーム読んでみて、何か変な little bit strange だったのよね」

「ナニ、strange あった？」

「先ず、来たっていう日、お店の休みだったし、うちの店に来るアジア系外国人さん達は  
大抵その場でブースカ booing 言うか、仮にメッセージ送ってくるとしたらその日の内だ  
ろ。大抵は翌日になったらケロッと忘れてるよなあ。だから例えばお店が休みだった前の  
日に来て、クレーム書いて出したのが翌日のお店の休みの日だったとすると一日経ってか  
らクレームしてる訳じゃない。そんな器用な事する奴おらんやんかあ。The clammer is  
very nervous. Around us nearby, such a foreigner is there? 次に、書いてある英語がメチャ  
整ってんのよ。間違いが一個もないのよ。Asian foreigners って、結構いい加減 broad and  
flexible な英語使うじゃない。いい加減と言やあ English native speaker だって、俺が習っ  
た中学英語文法から見てもかなりデタラメな英語使ってるし。だのに俺が learning した中

学英語文法 secondary school lever English grammar の目で check しても no mistake な訳よ。何か変な気がしたのよ I feel(felt)little bit strange ね」

「シャチョ、グラマ好きね。Sexy dynamites American California Bang Bong “Oppai” gal アンタモスキアルネェ」

「アホンダラ Don`t be silly!! 姉ちゃんの方の glamour (グラマー) じゃのうて English text book の方のグラマ (grammar) の話じゃ、たわけッ」

「タワケ、なに？」

「アホンダラのこっちゃ。たわけ。何処迄話したか忘れたやんかあ。ア、ソ、其れよ、其れ、其れ。要するにアホじゃなかったのよ、そいつ。

外国人が持つてるいい意味での「アッケラカンの阿保さ」が0だったのよ、メチャ厳密で。

それで「あ、こいつ外国人成りすまし日本人 Cat fish Japanese だぜって」

「なんでそんな strange コトする？」

「鬱屈しとんちゃうかあ？」

面と向かっては同調圧力掛けられん臆病なごまめの歯ぎしり野郎や思った、それに気付いた時に。

それでさっき intolerance 訊かれて「同調圧力=不寛容」即ピンポン、な訳ヨ」

「Japanese 下向いて歩く。ゲンキナイ。Maybe very stressful. Then Strange done ヨ。タイヘンね Japanese」

「何が大変じゃ。第三者でストレスガス当て逃げ被害にあった俺の方がたまらんわ。

Inside gas pushing out is very 残念のご迷惑。Especially to nonrelevant as for Me!! I`m not their common catcher`s mitt よ。その事を We Japanese say it 「八当り」言うのよ」

「ヤツアタリムラ？」

「何で you、横溝正史知っとう？」

「What？」

「splutter horror “8 graves village” novel author の事ヨ」

「？」

「八つ墓的「村八分」は NG ヨって。俺が皆と同じじゃないからって little bit different colored 背後霊 behind Zombie, position から変な目で見るとなって Never watch me from prejudice colored eye.

I don`t like な「同調圧力釜」式「本練り金太郎飴」に innovation DX, never can do ヤロ？な、シャチョ」

「私シャチョ、ナイ」

「Joke. Joke. Japanese joke」



2022/12/27

## 「勝ち組？負け組？アホか、テメェ!!」



「勝ち組とか負け組とか下らねえこと言ってんじゃねえよ、この阿保共が、って、なあ Win team or lose team, never say joke, don` t be silly isn` t it?」

「アホ？誰？Who is the silly?」

「ビジネス雑誌よ。「そうした事は止め」って記事出しとぅ癖に、何で「今年の勝ち組ランキング」なんて記事、ほっ被り (Hokkaburi) してヌケヌケと載せとぅ?同じビジネス誌に。バッカじゃ、ね？恥を知れって Business magazine article writer and his company is one hand that stop such a line setting for selection of win or lose, but another hand on the other corner of this magazine Win or Lose ranking putting on the same magazine. Don` t be silly, shame on you!!」

「ハッカー (hacker) ?それヤバイ Hacker? It`s very dangerous person, the writer」

「ハッカーno.ほっ被りのホッカーis。Or ホッカブラーis。No, not “Hacker” but pronunciation “Hokker” or “Hokkaburer” is . From joking nickname base」

「?」

「兎に角の勝ち組とか負け組とか言い始めたのが全ての間違いの元ヨ。俺にもそういう処あるのかもしれないが、勝ち組負け組を公に否定する奴に限ってこっそり勝ち組入り狙って画策したりしてんのよ、隠密裏に。どっちに転んでもぎりぎりセーフで入れる様バッファかけまくって、そこいら中にセーフティネット張り巡らしてんのよ。こんな図り事して結婚しても長くは続かん。お互い不幸になるだけや。旦那退職してお金のうなったら用済みやさか、後はお荷物に感じるだけや。面倒見たあない、餌もやりたくないになるし Ax, let it do. Anyway it`s the source of mistaking which they began to say Win team, Lose team. Exactly I hold such a tendency, I know, but they who give very strong comment to others, vasa versa betray public secretly and try to join in Win team. They always set buffers and safety-nets around themselves. The persons who set such tricks never get happy if they marry, never keep their happiness. Both couple members will fall into mental hell. After her husband`s retirement, she will feel him heavy bag, she no hope even meals to him」

「結婚しないと子供デキナイ、アル No marriage, no children」

「別に結婚せんでも子供は出来るでえ Any case you can have children」

「でも、奥さん子供さん、それカワイソウ But I feel sorry for Madam and child」

「まあな。其れとその結婚だって相手愛してる、言うより、せんとカッコ着かんからよ。詰り結婚できた奴が勝ち組で専業主婦はその頂点な訳よ。反対に結婚できない奴は負け組で連中には論外な訳よ。だから言ってる女、本人がいつの間にか専業主婦にチャッカーリ (Chakkari) 取まっていたりする。その矛盾に関しては記者会見無し。文句言う時だけ記者会見。ああインチキ。結局勝ち組か負け組かがそいつの最も根底にあった価値基準やった。一時勝ち組負け組の線引きを否定したんは何の事はない、出来なかった時の為でしかなかった、いう訳や。要はどっちに転んでもメンツが立つ様二重に保険掛けた訳よ。メチャ (Mecha)腹立つで」

「チャッカーリ what? チャック? チャックに噛まれるイタイ "Chakkari" what? Chuck? Zipper? It`s biting me somewhere, very painful, is」

「何処がじゃ? 何の話しとん? ん? Ax, where? Which story, you have talked?」

「チャックの話。後メジャー、ナニ? ベースボール? Story of Chuck, is. And Major, what? baseball?」

「メジャーちゃう。メチャ。very の意味よ。ホンマお前と話しとると疲れるわ。でも、オモロイ事はオモロイ Not Major but "Mecha", it means "very" in Japanese. Ax, you make me tired, but your funny is interesting」

「♪いいじゃ、ないの、オモロイならば Ok, ok, if it funny, interesting.♪」

「どこで教わった、そんな歌 from which song get?」

「隣の店のオトモダチ your friend "OTOMODACHI"」

2022/12/27-2

(オマケの英語教室 win lose)



中学校時代、小学校6年生の時毎日見ていたテレビ時代劇再放送番組「白馬の剣士」に憧れて中学進学と同時に剣道部に入部、所属しておりましたが、己が「白馬の剣士」姿を胸に、勢い込んで入部したのとは裏腹に個人戦はいつも初戦敗退、団体戦には参加さえさせて貰えず、いわば常に「負け組」ご常連様でありました (柔道で言えば万年白帯です)

最初は「こいつは案外筋がイイ」と見込んで呉れていた先輩からも「ダメだ、こいつは」と次第に見放され、最後は「ん、お前未だ居たの？」扱い。

剣道に限らず恋愛、学業、仕事、何をやってもいつも負け組ご常連様。出だしは決して悪くはなく案外此处で言う処の「勝ち組」に席を置いているのですが、途中から「見かけ程にもない奴。期待を裏切りやがって」になり、とどのつまりの結末時点では「はよ、でていかんかい、このド腐れ野郎が」と、是はもう絵にかいたような「負け組」に陥ってしまいました。その関係上、逆にあまり勝ち負けが気にならなくなっておりました。イヤ、正確には、そんな事、いちいち気にしていたのではやっていけなくなったからです。平たく申せば

「開き直っちゃった」訳です。

それをやや伯を付けた状態で称して曰く

「負け状態が俺の常態 (To lose situation is my normal position)」

そういえば昔の歌手で水前寺清子が歌っていた歌の一節に

「♪勝った、負けたと騒ぐじゃないぜえ♪」と言うのがありましたっけ。

その歌のせいで、と言う訳でもないのですが、現在も余り勝ち負けにはこだわっておりません。

むしろずっと負け組に居たからこそ、何回も訪れた突然の逆境にも「ま、いつものこっちゃで。気にせんとこう」と余りその落差に動じなくて済んでいる面もあります。

失敗したら、又次を試しゃええわ。

人生、何が幸いするかわからないもんです。

Life is magical. Bad situation gives a survival mind, ability, knowhow, sometimes.

If lose, try to next, that`s all.

Then (なので)

“Namaste everybody!! Good Luck!!” (こんにちは、みなさん。おたっしやで)

I want to say above(なので、御座います)

Thank you so much.

2022/12/28

「人生に保証書は付かないが

無料お試し券は付く」



「ネパール人は牛肉喰わんがジャパニーズは牛肉大好きやで。俺のお袋なんぞは牛肉の脂身大好きで、ギロギロでギョトギョトしたのだけで飯食いよった。胃下垂 (Ikasui) で消化悪い癖にあれだけは別腹だった様や You Nepali no eat beef. But Japanese loves beef very much. My Mom especially loved grilled cow`s fat “Aburami(in Japanese)” which is so oily and greasy. Although Mom had a “Ikasui” in Japanese, uncomfortable condition from her stomach hung down by inside stayed water, then usually no appetite, but except it, very loved and ate boldly」

「イカス (Ikasu) カッコイイノコト、アル? Ikasu? What? Stylish. Is?」

「イカスじゃなくて胃下垂 (Ikasui) 胃袋下がって水、溜まっとう Not stylish, but uncomfortable condition inside stomach of her from water stayed」

「みじゅ、みじゅ、パニ、パニ、雨、雨、今日降る、アル? Water, water, Pani, pani (in Nepali),rain, rain, today will rain, is?」

「説明、パス Explanation, pass」

「パス、トス、カス? Pass, toss, dust(in Japanese “Kasu”)?)」

「パス言ったの。お前、俺の事カス、思ってた? I said “Pass”, you think regarding me to dust(“Kasu”)?)」

「シャチョの名前カズ (Khazu)。其れと違う、アル? Boss`s name “Khazu” not the same? 」

「ま、カズはカスに近い気もするわ。実態は Ok, I think regarding myself almost nearly equal dust “Kasu”, on actual base」

「ヨカッタネ nearly equal is good, is」

「\$ %▲◆× ? Boo!! (complicated mode, after it, ) said Boo!!」

「ネパール牛ダメ、ブーブ(boo, boo)ブタ、ダイジョウボ。チキンもマトンも OK。 Nepali no eat beef, but poke, chicken, mutton OK」

「お前らは料理に牛肉使うとらん、言われねば喰わんやあ。精々そのレベルや。だがジャパニーズは何かにつけ「100%の事前保証」ない限り梃子でも動かんのよ。「100%保証しないのは保証せん方が悪い」て。処が外国人は保証があろうがなかろうが「1%でも可能性がありゃドッカンと飛び込んで来る」訳でしょう？牛の件を別にすれば「無担保無保証、理の当然。それが人生、仕方なし」のお前らみたいに。是じゃあ我が国の人材がどんなに優秀でもスタートダッシュで完璧に出遅れだわなあ。そんなの後になって爆音轟かせてエンジン最高パワーで吹かしても追い付ける訳ない、周回遅れ過ぎて。ならばいっそ遅れた序に逆方向に走ったらどやあ You never touch meals before meals no containing beef item. But it's limited beef matter only, no more added. But Japanese require 100% guarantee before still unknow new item they start from authorities. No reached 100% guarantee condition, it's because of the side which no can get enough, Japanese say. But foreigners will find out 1% possibility, they will fly to come even if no guarantee attached. From it, we Japanese always their behind even if they are talent holders. And even if start with hi-power-engine, they never can catch up beyond because one cycle round behind. If it so, vasa versa from new inspiration, toward opposite direction, our running might be better, I think」

「逆も又真也 The opposite is true also 人生に保証書は付かないが無料お試し券は付く For life no attached guarantee but free-trial ticket attached, is」

「お前ヤッパ本当は一門 (hitokado) の人物ちゃあ？ Indeed, aren't you wisdom, are you?」

「私、キットカット ("KITKAT") chocolate) ナイ。ヘアカット自分でスル I'm not "KITKAT". I can do hair-cutting by myself」

「ヤッパ一門の人物ではない様な But not so wisdom, likely to」

「考え過ぎダメ。考えても仕方のない事考エル、無駄アル Too much thinking is bad. No option way of thinking is quite waste, is」

「とくるとヤッパ一門の人物っぽい感じもするし From it, you are wisdom, likely to, again」

「シャチョ、疲れたアル。飯食って寝るイイ Boss, too much overwork, tired. Have a meal and get sleeping, is good for you」

「ハイ、先セ。インテリ ("Inteli" means (in English academic class)なんて詰りませんわね Yes Sir. Academic class is dusty boo」

「インテル、入ってる？ Intel inside?」

「@@; !!」

2022/12/31

## 「一、抜けたあ」



「小さい頃から仲間外ればかりされてきた。理由は簡単。皆と同じじゃなかったからだ。自分はフツの心算だったが皆にはフツじゃなかった様だ。どっちが正しいかじゃなくて兎に角同じじゃないからって。でもこっちはフツだと思ってるから当然「直そう」なんて言う気が起る訳ない。で理由もわからん儘ずっと仲間外れだった。処が就職して「どうも自分だけ違っている様や」て否応なく気付かされて「この儘じゃヤバ」って相手側に合そうとしたら途端に自分がギクシャクし出して苦しいな。特に一番ヤだったのが心にもない事、平気で言うのがヤやった。葉書も手書きじゃのうてプリントされたご案内みたいのが嫌でたまらなんだ。しゃから広告が大嫌いやった。そういったもん見ると「図り事、作り事ばかりしよっていい加減にし。内外ピシッと合わせんかい、アホンダラ」思った」

「Huck curry(hakku-karei=ハックカレー)which curry?ハックカレーどんなカレー、アルカ？」

「カレーちやあで Trick, Fake, too much enough. Ups, No need any more such is, と言った。ホンマみみちいで。嘘ばっかこきやあがって。いい加減に1対100止めて1対1の等身大で話さんかい「ボ」ケモンがあ Indeed, chicken heart guys, if they open their mouth, only lies come out. After here, stop the 100 times over decorative talks, and talk apple to apple size!!, Stupid guys!!」

「「ボ」ケモン?ピカチュウ、アル?Poke-Mon?It`sPikachu`s story?Now you are saying?」

「誰がじゃ!!Who said Pikachu`s story?」

「ピカチュウどういう意味?By the way, What`s the meaning of “Pika-chu”?」

「知らんわ。多分ピカッと光る(lightning)虫(insect)みたあなもんで。Don` t know. Maybe the lightning insect, almost the same, maybe.我々日本人は虫を音読みで「Chu」言うん。

We Japanese call insect “Chu“which is Chinese style pronunciation」

「虫、光るドウナル？」

「そなあピカチュウに訊き。納得する迄 Such a question, please ask to “Pika-chu himself” until you feel enough そう納得いやあ俺は納得せん限り絶対手出さんな Yes, feeling enough to reach the core certainly, if not so for me, I never do and touch it 納得したら弾に当たろうが損しようがそれをするが納得せん儲けやお得には手を出さん。納得せん事をするとちょっとの突っ込みですぐぐらぐらする。腹が据わつとらんからヤ。座つとらんから何時もオドオドおたおたしよう。逃げる、隠れる、嘘をつく、見て見ぬふりをする While doing without feeling enough, tiny level matters make me upset because of no mind set up. Then it` ll force me escaping, hiding, lying, pretending to no noticing けど納得しとりゃそういう後ろめたい思いをせんと済む。スクっとして立つとられる But if setting up my mind, standing alone sharply 儲かってもオドオドしとう位なら、納得して逃げずに弾に当たった方が余程爽やかな気分で居られるさかあ。しゃから図り事、作り事の世界からは「一抜けたあ」したかった Then no hope to stay here, will go away, from myside 人間は心理の生き物じゃ Human is creature on mind その世界から抜けて懐が弱っても心理が弱らなければ未だ何とかなる。だから大損こいても未だこの商売しとう If not be damaged on mind because of going out from fake world concerning to money matters, if mind not be weaken, we can continue our business, I think」

「シャチョ大損そろそろストップ。私仕事無くなる、ヤ Boss, please stop big loss way, if not so, I` ll lose current employee position. I no hope so」

「安心せえ。分る？分かったら黙って俺について来んかい Calm down. You know?

Understand? Hey, you!! Follow me with keeping silent」

「其れ一番アブナイアル It`s most dangerous, is」

2023/1/11

# 「本日、S F 仕立て

## (副題：腫れ物に触れ)」



「おい、今日午後、うつ病だった昔の俺が此処に来る Hey, today afternoon, me will come, me means former me who held mental sick(melancholia)」

「？」

「お前たちは正直者で心根もやさしいから呼んでも大丈夫だと思ったからだ You two very honest and tender heart holders, then I judged to invite him(former me)」

「？」

「聞いてんのか？ can you hear me？」

「聞いてるアル。でも、ナニノ事ワカラナイアル I listen to. But no understand」

「毎回同じパターンでいい加減俺も詰んなくなってきたから偶には SF もイイかなって Every time same pattern. It made me too much. Then sometimes SF( Science Fiction)story makes me refresh, I planed」

「FF ファンヒーター買ったアルカ。シャチョ家、AC 壊れてベリー寒いアルからネ You got FF midship ? fan heater? In the Boss`s house, AC(Air Conditioner)broken, not running, very cold」

「誰が本社の暖房状況報告の話したよ。あん？ Who talked about AC matter in my house, Ax? じゃなくて、ま、いいわ。どの道分ってんだか(undaka)、分ってないんだか

(undaka)、分ないんだから(undakara)。日本語が通じる相手だって、分ってんだか(undaka)、分ってないんだか(undaka)ワカンナイご時世なんだから(undakara)、ま、その位やむを得んわな」

「シャチョ、ンダカ、ンダカ、ナニの事アルンダカ？ Boss, undaka, undaka, What Undaka?」

「♪ダガツク、ダガツク、ダッタソツクツク♪ヨ」

「??」

「お、来た、来た。ま、入れ Ax, just coming. Please come in」

「言っとくけど、自分が立ち直ったご高説独演会だったら俺、直ぐに帰るからね First I want to say, if it`s your one man show, I`ll just return at once」

「ワッ、シャチョソックリ。誰アル？ Ax, he is just Boss`s copy. Who is he?」

「だから言ったろう、昔の俺が来るって Then I already said, former Me will come」

「?」

「似てて当たり前だわ Almost the same, exactly」

「でも、何かオジイサンみたいアル But he looks like old man, very aged」

「疲れてたのよ。昔は。元気もなかったし I had been very tired former. No alive」

「この人達、誰？ Who are they? Here are」

「チームメイトだ My team mates」

「アンタだけじゃないのか？なら俺、帰る Not only you alone? Then a I`ll return」

「まあ、気分転換にはいいかもしれんから、そう焦りなさんな、って For refreshing, it might be good. Not in panic」

「俺今、周りに気を使える状態じゃないんだって分ってんだろう？ You already know, I`m staying in such a condition」

「押しでもダメなら引いてみな、って言う格言あるから、此処は一番、腫れ物に触るようになるような「一見気遣い、その実「触らぬ神になんとやら」的なお為ごかしモドキな真似は止めて、敢えて腫れ物に手を突込んで膿、抉り出す悪役やるのもたまにはイイかなあ？ってね」

「アンタ、サディストかよ？手術台に乗るのは御免だ。やっぱり帰るわ」

「帰るのはイイが、帰ったってどうせなんもする事、何もねえだろ？だったら暫く此処で見物していけよ」

「何、見物していけっていうんだよ。お前のイヤミそのものみたいな元気な顔、拝んでいけ、っていうのか？ウンザリするぜ」

「誠に結構。どうせならウンザリついでに、此処で思いっきりゲロ吐いていけよ。スッキリすると思うよ。言ったろう？押しでもダメなら引いてみなって。逆療法も又真也、かもしれないし」

「シャチョ、この人完璧オコッテル Boss, he is getting angry sharply」

「いいの。喜怒哀楽、揺さぶってんだから No problem. I`m trying him to get upset for his getting well, recovering」

「？」

(追記)

本日より「ボスと外国人スタッフの会話シリーズ」に替えて「混戦模様シリーズ」を始めます。

出演者は外国人スタッフと私め、の他に以前登場致しましたムスコサン、本日初めて登場した「昔うつ病だった頃の自分」、其れとまだ当てはないのですが、出来れば「退職者の誰かさん」を予定しております。

今後マックスで5人入り乱れての混戦模様が展開されるかと思えます。

一番の心配事は1200文字、原稿用紙3枚以内に収まるかどうかという事で御座います。

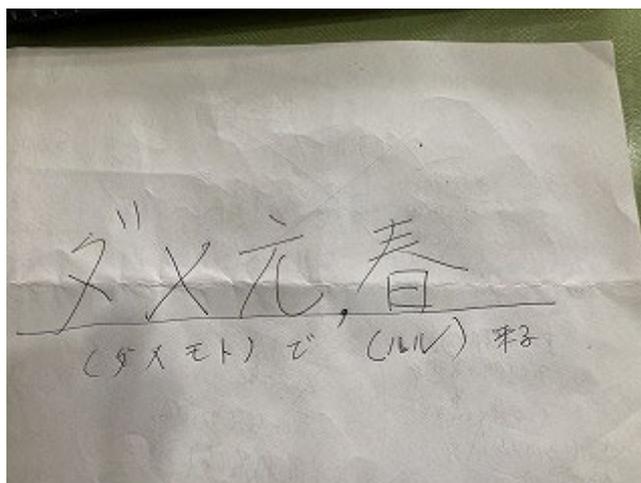
文章も日英両言語が入り乱れますこともあり、大変心配しております。

ですが、思いついた以上やらないと気が済まない性分なので「ダメだ、こりゃ」と分かるまでは続けてみたいと思っております。

やるだけやって、ダメならそこで素直に謝ればいい。そういうスタンスで御座います。

2023/1/12

## 「ダメ元 normal, KFS」



「何も是が正解と言う訳ではないから押付ける心算はない。人には適不適があるだろうし試してみてダメだったら捨てればいい。無理強いする心算もないしそこ迄自信がある訳でもない。俺の場合を伝えるだけだ It`s my opinion. Not fixed one. Then if you feel no need, please kick it out」

「と、うつ病から立ち直った将来の俺は言える訳か。ま、取り敢えずダメ元で Me who get well in my future can say so. Anyway, I`ll listen to. NG signs many is common as usual I set」

「そ。ダメ元一番。鼻から保証があるなんて殆どないし Yes, no guarantee is common, yes」

「シャチョ、同じ顔、全然違うイウ very ヘン Boss, same face persons, different opinion to each other , it`s very strange」

「この世は何でも起きる。別に変じゃなからう Anything will happen in this world, then no strange」

「ジャパン、ヘンな国アルネ Japan is little bit strange country, is」

「ジャパンが変なんじゃなくて俺が変なのかも、な Not Japan but Me, might be ま、ええわ、ヘンでも何でも Anyway, Let`s ahead」

「シャチョ、エヘン虫アル？」

「俺は龍角散か!!再び、ま、ええわ」

「？」

「処で何故鬱病になったり抑鬱状態になったり、要は自信と元気がなくなるのか？諸説  
芬々だが俺はこう思った By the way what cause melancholia or mental pressed down  
mode? It`s from my observation」

「世の中に不要で的外れな解説が又一つ増えるだけじゃない？紛らわしくも鬱陶しいもの  
が。貰っている抗鬱剤、初めは2粒だったけど今じゃ13粒毎回。でも何の効き目もない  
Waste observation added on newly, you make? Waste opinion no help me. At first medicine  
2 a day, now 13 a day, like this」

「だから対症療法じゃ直らん、て。出た症状に対する療法だから常に後追い。だから元か  
ら絶たなきゃダメ!! 言うてんの delayed tracking medicine no effective, then try to shut the  
origin of melancholia, I said」

「「元」って何よ what the origin?」

「自分の主（あるじ）が自分じゃないって言うのが元だと思った。俺は Your master is not  
you, I had thoughts」

「ん？What?」

「人や人の目線、「名詞」の肩書が決定権持っていて自分の側には全くないって事。だから  
不安で落ち着かん。自分の側や自分のやる事「動詞」の側に決定権があればこの先何が  
起きるか、自分でどうするかは見えるし決められる訳だから少なくとも相手の出方を覗うイ  
ラソワはなくなるだろう？You don`t have your neck of lifeline, but others hold it. It`s the  
cause of your upsets. If regain it, at least, irritation left」

「相手って誰 who is others?」

「殺生与奪の権を握っているステークホルダー。会社じゃ上司。家じゃ奥さん。街を歩け  
ば人目線。お前の側に主導権はない Stakeholders, Boss at the office, Madam at home,  
Passersby , or their eye shooting on the streets. On your side, on leader ships, rights of  
decision.是じゃ不安にもなるわ Exactly, it will cause your upsets 処が実はその不安と引換え  
に特典や優遇を得る秘密の契約をしてない？But in the fact, bartering it, you agree the  
contract for premium advantages gaining? この特典優遇獲得争いや其れを失った時への恐  
れから不安は更に増大する Joining of the race of getting them or fear of lost it force you  
upsets more」

「じゃ、どうすりゃいいの?What`s the answer?」

「特典優遇をポイする Kick the premiums out」

「貧乏になる falling into poor class」

「世間並やカッコマンに拘らなきゃ手は色々あるよ If you don`t concern the average and  
stop must be walking on success road, you can have variations」

「何処からどんな？ From which? Variations come」

「ダメ元精神から recognition from NG signs so many is normal」

「トンズラ You escaped」

「トズラ what? トカツ? ”Tonzura”, what? “Tonkatsu” is ?」

「トズラ OK 何でもアリよ Escaping sometime OK, any cards we have always, OK」

(注)

KFS=Key For Success の略。成功への鍵の意味。

2023/1/12-2

(オマケの英語教室 normal)



Normal=常態。

以前自著の「コロナ禍カレー屋ナマステ別館堂主人、ニューノーマル探索サバイバル日記」の冒頭でも書きましたが

人は何を常態とみるかによって認識に大きな差が出て参ります。

例えば非常に恵まれた「状態」が「常態」であると認識していれば、ちょっとした不具合や不運の発生でも動揺しオタオタします。

処が何をやっても上手く行かないのが世の中の常（常態）であると認識していれば、多少の事ではおたついたりせずすみ、偶に幸運に出会えば「稀有の事」として「有難く思え」たりもする。

と言った様な趣旨の事でした

なので、本編の題名「ダメ元 normal」は「ダメで元々が常態」という事に。

「ダメ元が常態」だと思えばかなりの失敗数でも、余りめげないで済むような気がしております。いやむしろ失敗の数だけ持ち駒、手持ち札、詰り「切り札」の数が増えるような気さえしております。経験則上。

なので、題名を最終的に

「ダメ元 normal, KFS(=Key For Success)」

と致した次第でございます。

誠に僭越では御座いますが。

2023/1/15

## 「突けんドン」



「電話で昭和世代がその後世代潰した様な話、していたが当然お前だって同世代。

Previous time on the phone, you said Showa era generation destroyed later coming generations. But you also 仮にお前が正しかったとして、お前だって同世代なんだから「俺は別」なんて言うなよ If your opinion is correct, you are the same generation one of them, never say you are different one」

「謂わん。唯、俺の場合「意図的に」ではなかったにせよ「結果的に」潰してしまった事では同じだ。No will to say. In my case, no will but eventually destroyed them 潰された側に見れば結果は同じだから俺も同罪 For them, it`s the same as a result」

「エラ素直だな very no against で「意図的に」は前の電話で分かったが「結果的に」って何の事なんだ？ But please explain to me, as a result one, destroying one」

「男のおばさん」の世話の焼過ぎ。海軍大将山本五十六じゃないが「言テ聞カセ遣テ見セ褒メテヤラネバ人ハ動カジ」をまんましちゃった訳。お節介 From touching over, over helping, supporting 結果相手は自分の意見封じ込められて参加感邪魔され、ヤになる「完全マニュアル愛好派」と依存心丸出しの全体重預けて寄掛って来る「オートマ only タイプ」に二極化しちゃったのよ。結果全部芽積んでダメにしちゃった。五十六の言は最近よく持て囃されるが、あれは使う時と場所によりケリだな。オートマ派に使うと増々依存心増長させちゃうしマニュアル派には「これ以上口出すな」の怒り誘発剤にしかならんし。あの言が効果的に使える TPO は案外ありソでなさソな気もした」

「何かお前、オヤジ海軍「右へ倣え」の復古調、戦前からの使者みたいで可成り違和感覚えるぜ」

「いいの、戦前でも戦後でも有用であれば。余り俺、そうした分けする心算ないし。第一、五十六の話、オヤジからじゃなくて、ネットのマーケとかマネジメント講座から引用しただけよ。ま、マーケの元が軍略からきている側面は否定できんが」

「お前、商売始めてから随分いう事かわってきたな」

「この際だから誤解を恐れず私見述べ捲っちゃうと、今必要なのは五十六教育より江戸時代の職人の親方から弟子への教育法「教えん。盗め」「面と向かって言葉で教えん。脇から見て盗め」じゃないかって But If it sometimes over ,surely that`s bad, but rough touching is better than saying politely more?」

「封建体制ど真ん中!!Not logical, I guess」

「処が一見突けんドン、傲岸且つ不親切な様に見えて、是がなかなか理にかなった科学的な教育法なのよ Yes, but it more logical lecturing way than view of our common sense、I guess also as you same as 初めから教えるとそこがマックスになり易いけど、盗むとなると観察眼や読み、工夫が自然と身について、上手く行けば親方マックス以上になれるかもしれんし其処迄行かずとも、自分の頭使って覚えるから記憶に残り易いし引き出し易くもなる。自然、全行程と理窟が自分なりに分って使い勝手も良くなる Without saying politely, in other words no guidance, that force them trying, observing, thinking, crafting, by oneself own, barter to lacked guidance by saying politely, they start touching way naturally. They can have possibility of getting more better knowhow and skill than their instructors, at least will get more easily memorizing or reminding, remembering ways」

「話としては面白い、が…It`s interesting as a talk show, but…」

「皆言うんだ「が…」て。All of them say it “ But…” is」

「お前が言うと必ず言いたくなるの「が…」て、皆 The time you say, wants to say “ But…” All of us」

(注)

題名の最後「突けんドン」の「ドン」をカタカナにしたのは「ドン (頭領)」即ち職人の「親方」のニュアンスを含めたかったからです。

2023/1/18

## 「自分、ポイ捨て。ゲンキの元？」



「お前、どうしてそう元気になれたんだ？俺は将来、本当にそうなれるのか？今がこんなに酷いのに。信じられん。嘘なんじゃないか？お前は俺をだましに来た全くの別人なんじゃないか？是って騙りとしか思えん」

「嘘じゃない。俺はお前の将来からきている。本当だ」

「何が違ったんだ？今の俺と将来のお前、と言うか俺は」

「自分をおっぼり出したのよ。捨てたの。諦めたの。分ったの。自分が完璧、大した奴じゃないって納得したの」

「ナニソレ？立派じゃなくて？」

「そう。お前が思っているのと多分全く正反対。得たんじゃなくてポイしたのよ」

「どういう事？」

「自分が大した奴だって思うから、こんな筈じゃない、こんな訳ないって焦ったり落ち込んだりあがいたりするのよ。金と女と人望集めて、死んだときには皆が泣き叫んで悲しむ、無意識に国葬レベル、イメージしているから、そうじゃない今との落差に打ちひしがれちゃうのよ」

「何も国葬何て俺は…」

「と思うでしょ。処がどっこい、ギッチョンチョン。案外みんなマジでそう思ってるのよ。此の俺様（わたくし）が死ぬんだ（死ぬのよ）。それくらいあって当たり前だろ（でしょ）って」

「う」

「それを止めちゃったのよ。人気取り。その為のカッコつけやポジショントーク。そんなに大した奴じゃないんだから人気出なくて当然。ちやほやされないのが当たり前。だから

ありっこないそんなもの、追いかけてたり気にしたりするのを止めて、自分の好きな事、したい事、楽しい事、面白い事やった方が断然お得じゃない？て方向転換しちゃった訳よ。気が変わっちゃったの」

「要は金と女と地位と人気を取り戻したから、て訳じゃないって事か？」

「そんなもの何処にもないよ、今。貧乏だし女来ないし、肩書ないし、近所の評判もめちゃ悪くて全然人気ないし。死んだところで誰も悲しまない。でもたかが爺一匹死んだ処で世界の情勢にじえんじえん影響ない訳だから、お気楽満載、極楽とんぼの脳天気で居られていいのよね」

「確かに落ちた分一刻も早く元に戻らなくちゃ、と言う焦りは非常に強いな、今。でもその返り咲き執念が消えたら（取り外れたら、取り外されたら）確かにかなり楽だろうな」

「其れさえ心底納得すれば（出来れば）、後は自然にうつ病、と言うか抑うつ状態なんて飛散霧消するか、知らぬ間に溶けて流れ出ちゃうのよ、自然に」

「ほんとかよ？」

「早い話、自分にこれ以上かかざらわるのにウンザリしちゃったのよ。自分から離れたかった。忘れたかったっていう事かな。で、ほっぽり投げちゃった訳。自分。捨てちゃった訳」

「自分、ポイ、捨て、ゲンキの元？ Say “Goodbye” to former myself who eagerly desire status keeping. It's My happiness (=full of life) true source? Low position holder is」

(注)

前段の日本語から致しますと、換言すれはうつ病前提の話から致しますと最後の英文の中の status keeping は who eagerly desire returning to former status 「返り咲きを熱望する」の方が妥当だとは思いましたが、前段の和文を読めない外国の方に違和感が出そうでしたので、敢えて両者とも理解できますように status keeping の英文を充てさせて戴きました。

2023/1/18-2

(オマケの英語教室 noun and verb, status position and doing)



何度か申し上げましたが、再度申し述べさせていただきます。

「肩書重視文化と「～する」を重視する文化」

直上カッコ内のたった一行の書き方だけを見てももう違います。

前者は短くてインパクトがありいいのですが、型にはまって動きがナイ。

後者は些か締まりがなく長ったらしく見えますが、何となく柔らかくて柔軟性がありそうです。

インパクト効率

対

自由度フレキシビリティ。

或いはこういう謂い方もできます。

「名詞重視文化」

対

「動詞重視文化」

さてこれから、どうしましょう？

(追記1)

A verb saves a noun means Sometimes a soft saves a hard, doing saves a status.

(追記2)

名詞に「名刺」「名士」を

動詞に「お互い同士」を

当がってみるのも面白いかもしれません。

或いは又「managerの肩書が欲しいだけ」なのか「manage(本当に事態を)何とかしたい」のか?とか。

要するに人は肩書や言っている事ではなく、その人がしている事を見ないと判断を大きく間違えてしまうような。

(追記3)

添付のイラストの左側第二フレーズ目の「弱よく強を制す」は「動よく静を制す」の方がいいかもしれませんが、ジャストなイラストなかったものですからこれにさせて戴きました。因みに右側のイラストはコミックの「柔らちゃん」です。

2023/2/18

## 「冷たい奴で、結構」

You call me cold heart holder? Ok, no problem, that`s sure.



「未来の俺さん、うつ病の解決策、今迄ゴチャゴチャ聞いたけどイマイチ長すぎてピンとこないよ。もうちょっと短くて分り易いの、ない？」

「じゃ、一言。利くかどうか分らんけど」

「焦らさんで、言って見てよ」

「じゃ、一言。御大層はヤメな The way of recovering from mental sick, one word, stop the decorative.」

「？」

「御大層である事も、御大層狙いも、御大層に見せ掛けるのも全部ヤメ。結局御大層になりたかっただけじゃないの？御大層になりたくて成れないからオタついて落ち込んでるだけチャウ？」

「て、言うか、俺は元に戻りたいだけ」

「元って、どんな元？」

「フツの元」

「フツって、ノーマルって言う意味だよね。常態」

「当たり前、って意味？」

「そう。じゃ、君の当たり前って何？」

「元気に仕事出来る、って事かなあ？」

「ホント？案外出世して、有名になって、お金持ちになるとか描いてない？」

「描いてないよ。そんな欲ない」

「じゃあ、是は？皆に一目置かれたい。忘れられたくない」

「それは少しあるかも」

「じゃ、一目置かれるにはどうする？自然と出世とか著名になるとか出て来ない？」

「…」

「お金は兎も角、其れだけは最低限取り戻したいって」

「…」

「それって御大層狙いじゃない？成れなかったらその外枠だけでも取り繕わない？今、そうしてない？」

「…」

「ん？」

「かも」

「…」

「下に見られるの、ヤだし」

「そっちに流れるの、やめたら？」

「そう簡単に言わないでよ。出来たら苦労はないよ」

「俺はね寛解した後「もう二度とあんな日々に戻りたくない」って心底思った。だから再発防止策を真剣に考えた」

「？」

「寛解して元気になって又元の仕事に戻れたとして又コケやしないかって。だって以前と同じ環境、位置、ポジションに戻る訳でしょ？二度ある事が三度あってもおかしくないでしょ？」

「そんな先、考えてないよ」

「防止策はね、それをやめたの。一目置かれたいと思わない様にする、じゃなくて敢えて一目を置かれたい様にする。出世したいと思わないでも、有名になりたいと思わないでも、金持ちになりたいとは、思わないじゃなく、こちら側の意思として「ならない」にしたのよ。それでもせん限り元に戻った途端またぞろスケベ根性が出て元の木阿弥になっちゃうから敢えてそれをこちら側から率先して外した訳。そうする事で殺生与奪の権を自分側に取り戻した訳 The way of stopping to revive mental sick one more again is to stop it. It means no think me seen greater, but force to me put the position seen me great out. From my side reject it, cut it out. From this way, I can get the rights of by my own self decision on my matter. No again happens mental sick by outside pressures.」

「肉を切らして骨を切った訳かぁ。でも肉切られるのも痛そうでヤだし To cut the fresh, instead of it, cut the bone of others. But being cut my fresh, feel painful, will reject」

「じゃ、諦めろ、治るの。Then you should give up!! Painlessly getting well never」

「シャチョ、ギブアップ言うの、メズラシ、アル Your saying “Give up” very rare, Boss is」

「冷たぁ cold heart holder, you、in the near future getting well mental sick “Me” is」

「冷たい奴で、結構。人気取りはせん。Former me, you call future me cold heart holder?

Ok, no problem, that`s sure. No try to get sweet candy popularity, future “Me”」

2023/2/25-2

25<sup>th</sup>-2 Feb. 23

## 「地で行こう」

Let`s be original.



TakoSuke(=Octopus) our holding image above

「詰まる処「気にかけて置いてあげる」てえ事かな The essence is to keep to concern to them is」

「何の詰まり「気にかけて置いてあげる」? What the essence? To keep to concern To whom?」

「外国人と仕事する様になって言葉や風習の違いはあるが一番通じたのは「気にかけている」っていう事が相手に伝わった時だったな。犬でも鳥でも何回かそうすると寄って来たり逃げなかったりする。最近の実験じゃワンコも餌より大切にしてくれるか否かの方のポイントが高かったそうだし植物も愛でると向日性みたいに其の人の方を向くという話も耳にした記憶がある。その伝で行けば「物」も大切に話しかけてやったりすると何かを感じるのかもしれない After working with foreign workers, such a impression coming. it means certainly we have differences from language, culture custom. But most effective one for good communication is to keep the concerning to. For dog and bird all creatures also, because the scientific reports show it by their experiments. If it so, perhaps “Things” also, we have possibility for it.」

「モノッ!! オヤジ、既に前人未到の異次元空間みたいね。相当ヤバ。大丈夫? アダマ Things!! You got mad? Dangerous mode!! Are you brain running fine? Daddy!!」

「そう言やこの前亡くなった伯母さんが近々こちらに化けて出るってテレパス来とったな。いつ来るか知れんけど。お袋はあの世からこの世の様子は全然聞こえないし見えもしないって言うてた割には結構あちこちからテレパス来るよなあ By the way, telepath signal “ soon

will come out as a ghost” message came from lost my 98 years old aunt, little bit ago died. Which time will come, don` t know. My lost Mom said over there never can see and hear this world topics, but so many times telepath signals come.]

「あら、弱虫ガスタカちゃん、オヒサ。ゲンキ？Hi!! Always crying Gas Boy, so long time no see. How are you?」

「エラ、早いですね。お越しになられるの。Ax, so early time coming, Madam」

「この世行きの特割クーポン手に入ったの。それで Over there extra coupon ticket going to this world, I got, then」

「あの世も結構商売、加熱してまんねえやなあ。♪天国良い処、一度はおいで。酒は旨いし、ネエちゃんはきれいだ、ソワー、ソワー、ソワツワ〜♪て訳でもないんですねえ？Over there also looks like business so heat up.♪Heaven is good place. Please come once. Beer is tasty, gal is beautiful. Unwa, unwa, unwawwa〜♪like this I imaged, but not looks like this, now changed my image.]

「ガスタカちゃんは小さい頃大人しくてチト陰気な感じの子だったけど、いつからそうアップパパ〜になっちゃったの？激変ねえ、伯母さんビククラこいちゃったわ You Gas Boy, while your childhood in front of me, looked so static, so pale. But from when you so changed to up-up- and-away style? Quite different!! I have gotten panic !!」

「ええ処の奥様の伯母さんが「こいちゃったわ」なんて我々下々の使う野卑な言葉、お使いになられるとは意外や意外 Hi society Madam you use such a downtown phrase ”have gotten”, it makes me put out of former image, little bit」

「この世に居た時は体裁があったから我慢してたのよ。体裁気にしないでいいあちらじゃそれこそ毎日「ぶっこきまくって」いるわ While my staying in this world, hadn` t used this way because of hi society style keeping. But after it over there no need concerning to it, then everyday use open style」

「俺も同じス。小さい頃はイイ子じゃないと怒られるから被り物被ってましたが大人になって百人中百人に気に入られる被り物なんてありっこない。被るだけ息苦しくて無駄や分ったんで今じゃ伯母さん同様「地、出しまくり」ですわ。だから激変して見えたのは被り物脱いで地出した関係や思いますわ Me also. While childhood, they had got anger, if I hadn` t kept good boy style. Then I had worn good face mask. But after it, I noticed all loves me if I keep good face is never. Wearing good face mask is quite waste trial. Only shutting fresh air coming inside under the mask. Then As same as current you. Therefore it looks like historical change happened, I guess.]

「シャチョ、シャチョも父さんも、イボ痔アルカ？Boss, you and your Dad, “Ji” holding(we Japanese call it which hip hole troubler)?」

「誰がじゃ、ワシは痔やのうてジ+ジでジジイなだけや。分った？タコ助 Who is holder? I` m not holder, but “Ji”+”Ji”=“JiJii”(we Japanese call the old man) is me, TakoSuke

(=octopus)」

「ガスタカちゃん、そういえば私の娘をタコ助って呼ぶの、止めてね。ヤダってブスクレがえっていたわよ Hey Gas boy, please stop my daughter calling TakoSuke( Madam Octopus). She said “No hope, will reject. I`m not octopus looks like.”

「オ Good inspiration 今夜は Let`s らタコ飯で行くべ Oh, good inspiration I got. Let`s have a dinner the menu rice with soy and sweet boiled octopus mixed.」

「ガスタカちゃん、お話聞いてらっしゃるの？ Hey Gas, do you listen to me?」

「オヤジ、俺も。伯母さん一緒に、ど？ Daddy, me also. Madam, with us, How about?」

(注)

試行錯誤が続きます。

ついこの間邦語 1200 文字以内、原稿用紙 3 枚以内。

和英混交文 1400 文字以内、原稿用紙 3 枚半以内で行くと申し上げたばかりなのに、今回は邦語 1157 文字原稿用紙 3 枚以内はキープしたものの、和英混交文は 96 文字越えの 1496 文字原稿用紙 4 枚以下となり、いきなり禁則を破ってしまいました。

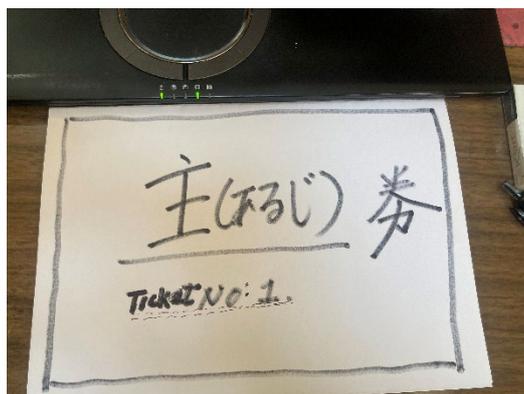
暫くの試行錯誤期間、お許しくださいませ。

2023/3/7

## 「自分の主は自分で良い」券」

7<sup>th</sup> Mar.23

A ticket (=rights) of “My owner is Me myself.” is good!!



「独禁法で言う処の「優越的地位の乱用」だな、ありゃ That's"abuse of dominant(or superior) bargaining position" on "anti-monopoly laws"」

「鼻から漢字のオンパレードかよ、今日は From the first, Kanji on parade, today」

「今日じゃなくて昨日の話。お客がその強い立場を利用して業者に脅し紛いの圧迫を加えるって言う例の Not today but yesterday`s story issue」

「口癖の「殺生与奪の権」振るい捲りって事? Your usual "Rights of judging others` lives acceptable or not" too much have done like a one side game, is?」

「そ。お前結構学習能力高いね Yes. You have so high ability for learnings than my counting」

「あれだけ聞かされりゃ学習能力低くてもいい加減覚えるわ。イヤ、学習能力 0 でも覚える程の耳タコ話 So many times you have repeated, easily can memorize. No need high ability for learning」

「その「優越的地位の乱用」的「殺生与奪の権振るい捲り」って別に商売だけの話じゃないよな。案外「優越的地位の乱用」なんて言って取締まり側に回っている公取委内部にだってあるかもよ。「お前達で摘発できなかったら他のチームに回すから。次回の移動、楽しみにしてな」とか But above issue is not only business but also just inside "Japan Fair Trade Commission" which is the side of law have done. "Hey, you, in this time if you can`t give guilty announcing to them, next time at the salary level decision conference, please wait for it what kind of announcement will come, with pleasure, understand? " Like this」

「オヤジも可成り捻くれた見方、身に染み付いちゃってるよね。いい加減イジメ捲られてきたからだろうけど」

「慣れッ子だからそんな事で一々捻くれたりせんわ。それより未だ他にも例があるぞ。例えば家庭内。親が子に無言の圧迫加えるとか。特に幼子は親なしじゃ生きて行けんから、もう言われるが儘にするしかない訳よ。この前も謂ったけど Other samples we have. For example, inside Japanese family, the same. Parents give silent pressure to their sons and daughters, is. Especially in their kid era, kids all depend on parents, without parents, kids never can live, no choice, then under them, should be, should obey parents saying requests. Former I already said」

「無言の圧迫と、言われるが儘じゃ言ってる事合わなくない？ Between Silent pressure and parents saying request is there mismatching? Silent and saying.」

「最近増えたな、ちょっとの間、目敏く見つけて突っ込み捲ってくるの Too much bothering me!!」

「だって矛盾なんだもん But it`s fact」

「じゃカイゼン案で無言の圧迫+言われるが儘=「日常茶飯事的に有形無形の形で」ではどう？ Then a will replace above to “usual with shape or shapelessly one” is?」

「結構オヤジ、どうでもいい様なつまんない努力してるのね Always you hold such a answer?」

「じゃ、一体どうすりゃいいって言うのよ、お前は What do you require me?」

「前も謂ったけどオヤジ見てると何かイジリ (ijiri) たくなるのよ Former I said while seeing you, why some coming up naturally ”want to toy(in Japanese “ijiri”) you” mind」

「そういや最近の傾向として「優越的地位の乱用」振るい捲られた子供が成長して大人になると今度は逆にその子らが恰も倍返し逆襲でもするかのように殺生与奪の権、親に対して振るい捲り出したりしている様だな。いつの間に子の方が「優越的地位」を獲得した、或いはその立場が逆転したのか知らんが By the way recently, such a tendency looks like below. Pressured children give double scale size pressure to their parents as if children`s return-match. When was standing position replaced bater?」

「そりゃきっと子が獲得したんじゃなくて親の方が倍返し怖れて懐柔策に出て来ただけなんじゃない？それを子が利用して突っ込み始めて常態化したのが現在、とか It not from children side but from parents side because of from fears which children`s return-match will come or be required to parents, it means proposals to get soften children`s return-match requiring level」

「じゃ、お前のイジリ (ijiri) って其れ？でも完全ツッコミにはなっていないから、其れは親の俺が他と違って懐柔策に出て来ないから「懐柔策督促」がイジリ (ijiri) に変形したとか Then a your toying( in Japanese “ ijiri”) me is it? But the style is not direct and straight one, it means Dad me is different from other parents` type, in other words no show the way of getting soften, then you take other appealing style. The style is toying(in Japanese “ijiri”) me?」

「シャチョ、Boss, what “easily”? 何が簡単アルカ？」

「この店の運営は簡単じゃないっていったの。Not so easily can operate this restaurant, I said」

「優越的地位の乱用」は兎も角として、要はオヤジ言う処の「殺生与奪の権」を持ったもの勝ちって事みたいね。イヤ、こちら側に持たないとイカンみたいね”abuse of dominant bargaining position” put it out, on summary is that your saying “ Rights of judging others` lives acceptable or not” holder will be winner, might be. No, it means we should have that rights and keep on just Our Side, is」

「優越的地位の乱用」はとんでもナイトだが「自分の主は自分である券（権）」である「殺生与奪の権」は自分側に置くのが良いですね、って事だけよ」 Abuse of superior bargaining position is quite out, but ”a ticket(=rights) of My owner is me myself” the same as “Rights of judging one`s life acceptable or not” we should have on our side, should be done, is good!!」

(コメント)

●今回は法律用語が頻出した関係上、辞書のお世話になりっぱなしで御座いました。法律用語を間違っ表記する訳にも行きませんでしたので。

●反面、イジリ、イジルに toy(おもちゃにする)を宛がった処、幸いにも NG 表示である赤波下線が付きませんでした。こういう発見が結構なんです。

2023/3/7-2

(オマケの英語教室 ticket)



昔自分が子供の頃に、家の婆ちゃんがチケットの事を「チッキ」と呼んでいたのを覚えております。

当然コンサートなんかのチケットである筈は時代考証的にもないのですが、かといって電車やバスの乗車券でもありませんでした。

それでは何のチケットだったかと申しますと、大きな駅構内で、乗客が運べない様な重たい荷物を搭乗列車迄運んだり、或いはその逆に到着列車から「国電」迄運んだりして生業を立てていた「赤帽さん」から手渡された「預かり札」の事を指して特に「チッキ」と呼んでおりました。

「荷物のチッキ。どっか行っちゃったわ。どうしましょう」

みたいな感じで使っておりました。

自分は生まれてこの方コンサートなどにはほんの数回いった程度の人間ですので、自分がチケットと言って思い出すのは何もありません。

飛行機は搭乗券と呼びますし。船の場合は乗船券、電車の場合は英語のチケットではなく日本語の「切符」と個々一品名で呼んでおります。

と言う訳で自分は ticket という言葉を日常生活ではほぼ皆無的に使っておりません、です。因みに既出の「国電」とは今の JR.の事で御座います。

上記既出の家の婆ちゃんの独り言は、シチュエーション的には、九州からの列車が東京駅に着いて、国電の中央線ホーム迄荷物を運んで貰う為に其の荷物を赤帽さんに預けた後の独り言で御座いました。

幸いチッキは見つかり中央線までは載せられたのですが、その後家までどうやって運んだかは全く覚えていない次第です。婆ちゃんじゃなくて、子供の頃からボーツとしていた自分が、ですが。

そう言えば、序と言えは序の話になりますが、ホームに婆ちゃんを迎えに行った折、反対側の番線に出発待ちの列車が入っていたのですが、そこでとんでもない光景を見た覚えがあります。

身なりのきちんとした若い女の人が、家族が必死になって引き止めるのに逆らって

「ヤダ。私、あの人の居る街に行くの。止めないで。あの人が好きなの」

と乗車口のステップの処で家族ともみ合いながら人目も憚らず泣き叫んでいた光景です。今でも覚えている位ですから、当時子供ながらに、それ迄見た事のない空前絶後ともいえるド迫力に体全体を押し捲られて啞然、呆然、自失同然の「ぼっ、かぁ～ん」、顎「あんぐり」的に相当なるショックを受けたのだと思います。小学校低学年の頃だったと思います。

その時は、後日の脚色によれば「女の一念、恐るべし」だったのですが、以降現在に至るまで、切符一枚片手にトランク一つで見知らぬ街へぶっ飛んで行く様な「🎵one way ticket to the moon🎵タイプの女の人」にお目にかかった記憶がございません。恐らくこの女の人がこういったタイプの「最後の一人」だったのかもしれませんが。

「絶滅危惧種」ではなく絶滅しちゃったのかな？この種族。

2023/4/19

# 「恥の文化源流考」

19<sup>th</sup> Apr. 23

Born from eager to Samurai way,  
Japanese hidden core culture named “Haji”



*(For Japanese readers)*

「誰かが「我が国の文化は「恥の文化」だ」って言っていたのを覚えている。何でそんな話になったかは覚えていないがそう言われたその処だけは何故か記憶に残った。多分俺も何となくそう感じていたからかもしれない。其れをその人がたった一言で表現したから記憶に残った様な気もする。じゃあ「何でそれを恥だと思うのか？」って考え始めて次には「じゃあ、そもそも一体「恥」って何なんだ？何に対しての「恥」なんだって考え始めた」

「恥。恥かあ。スッゴクよく分る気がする。でも確かに何に対する「恥」かと訊かれると、もう訊かれる前に既に「恥」感じちゃってその「恥」そのものが何なのかはそう言われてみればよく分かんないかも」

「俺は子供の頃テレビドラマの「白馬の剣士」に魅せられて、学校から帰ってくるとチャンバラごっこばかりしていた。その影響で中学は入学と同時に迷わず剣道部に入った」

「突然何で回顧録が出てくるのよ？」

「武士道だ。「恥」の大元は武士道である気がする」

「ハイ？」

「武士道って言うと確か宮本武蔵の「五輪の書」か「葉隠れ」だったと思うが「武士道とは死ぬ事と見つけたり」とかなんとか「損得抜きで義を貫く」姿勢みたいな。何かとてもじゃ

ないが我々のついて行けない世界だがその反面、武士にせよ町人にせよお百姓さんにせよ此のとてもじゃないがマネなんか出来っこないと思う「武士道とは死ぬ事と見つけたり」が、自分での実行は困難だが反面非常に美しく且つ見習うべき手本として映った為に密かな規範になったのではないかと言う気がしたんだ。そしてこの武士道でのタブー。それが「臆病」と「卑怯」だ。その臆病と卑怯を犯した或いは臆病と卑怯な事をやったと思われる事を「恥」と一言で謂ったんじゃないかなって。特に我が国では本人がそれを犯したかどうかよりも「犯したと見られているかどうか？」の方に力点がある様に見受けられる。全世界的に有名な「カミカゼ (特攻)」に迄追い込まれたのはこの「臆病」と「卑怯」と言われるよりは未だ死んだ方がまだマシだ」と言う心理の結果の様な気がする。他には「裏切り」つまり知らない間に生命線を裏で切る事や、「私(事)」優先を絶対に許さないという風潮が「一致団結」とか「全社一丸となって」なんかの元になった。それを守らねば「村八分にするぞ」という我が国特有の同調圧力「抜け駆けや共同歩調を取らないものは絶対に許さん」という。そしてこれらの大元は武士道でのタブーに根差しているんじゃないかなって。臆病、卑怯、裏切り、私事優先。みんな武士道が忌み嫌う忌避、禁則、タブーに抵触する、その事自体よりもそう「見做される事」が「恥」。何よりも最大の「恥」。「我が国は恥の文化」の意味。「武士道のタブーに抵触したと見做される事を最も怖れる文化」。とすれば我々は未だ江戸時代の人々の心象から抜け出していないのかもしれん」

「なんともはや、だよな？ コックさん達」

「…」

*(For English speaker readers)*

Title: Born from eager to Samurai way, Japanese hidden core culture named “Haji”

“I have memorized what someone said that Japanese culture is the culture of Shame. Why such a topic came out, not memorized but some why memorized the part of someone`s saying. Maybe because I feel it unconsciously inside me, it might be. What I had felt the person by just only one word expressed, then memory has stayed.

Then after it I began to think about why we feel it ashamed, and next then had a question that what is the shame itself, what? For what the shame is? I had thought.”

“Shame, ax the shame is… I just feel it well fit for me. But if they asked me for what the shame is, before their asking, I already fall into shame mode, then what is shame itself, exactly no have idea on me, it might be.”

“In my childhood, from TV program “Knight on white horse”, I eagerly hoped to become thus. After school, I always had played the fighting play with bamboo sward swinging. Then when I entered secondary school, at first no hesitation I joined “Kendo club” (=Japanese knights way club with bamboo sward swinging)”

“Suddenly why your memorial talks come out? Daddy?”

“Bushido” (=Samurai way) is. The original base of Shame is from “Bushido”, I guess.”

“What?”

“To talk concerning to Bushido Samurai way, not exactly but from Bushido bible book written by champion Samurai the name ”Musashi” on title name “Hagakure”, below the phrase “Bushido Samurai way is to die (die way), I found out” like this, on add without profit and loss thought, have done true rule, such a behavior holding, is almost the same as. Such a world is what we never can follow with him, I think, but on opposite side, or Samurai class or merchant class or farmer class, they thought about it, nevertheless exactly they thought never can copy to have done it Samurai way which like thus “The way is to die”, they felt it beautiful and just very well hand manual for direction of life,···it might be, I guess. By the way, on Samurai way taboo is Brave-less and Dirty manner. These brave-less and dirty manner have done them or be looked from others that have done thus taboo, we say by only one word “Shame” might be, I guess. Especially in our country Japan, it seems that to be looked have done them rather than the fact to have done them, on it, put ethical important mark. All over the world very famous “Kamikaze suicide attacks” might be born out from thus tendency to be looked have done brave-less and dirty manner rather than the fact have done them. If it so to be looked, to die by Kamikaze suicide attacks is rather better, the result from such a phycological thought is. On additional otherwise, to Betray which means to cut lifeline secretly from behind or My Private matter first, me-ism, we never allow and permit, such a silent tendency forced “One bind all” “All one team” behaviors to us silently, secretly. And if you no accept thus, shut you out from our circle like this threatening will come.

Like above origin is coming out from taboo on Bushido Samurai way, I guess. Brave-less, Dirty manner, Betray, Me-ism never, these are Taboo on Samurai way, and to be looked thus is more important point than the fact to have done or not. It`s our country proper culture called the Culture on Shame, might be, I guess. If my observation is correct, we still have staying under Edo era people the same mentality, from it still not never can be out yet, might be, I guess.”

“Hum, hum, like thus, isn`t it? You two cooks, ax?”

“...“

(コメント) 及びミニ「オマケの英語教室」 commentary.

(日本の方々へ)

今迄この原稿用紙3枚以内シリーズの内外国人が登場する英訳付帯の作物をかなりの数書いてまいりましたが、「恥」「臆病」「卑怯」「裏切り」「私事」等の単語が登場する今回の作

物。我々邦人が抱く感覚と外国人さんが其れに対して抱く英語の感覚の違いに戸惑う今回ほどその英訳に苦しんだことはありませんでした。

ですので、今回の英訳には全く自信がございません。ご参考程度にお読みくださいませ。

●(comment)



*(To English speaker readers)*

Until now I have written so many short-short novels here, but it`s the first time to feel translating so difficult from Japanese language to English. Because I this this novel used words “恥(shame)” “臆病(brave-less)” “卑怯(dirty manner)” “裏切り(betray)” “私事最優先(me-ism)” , for these concept held sense quite different between Japanese people and foreign countries people, forecasted, then I couldn`t have done translation smoothly, never in this time.

Therefore, please above translation into English, please treat it as a reference level, sorry.

Thank you so much.

2023/4/21

# 「恥ずかしながらと言えぬが為に…」

21<sup>st</sup> Apr. 23

From never can say sorry that…



*(For Japanese readers)*

「恥ずかしながらと言えぬが為に…」

「不利を覚悟で筋（大儀）を通す」のが武士道士魂のコア。其れを美なり是とする心象又は世の中の暗黙律、此の自他視点から見て共に未達は「恥」。

其れから逃げるは「言い逃れ」。

だが幾ら言い逃れした処で本人がそれを一番よう知っとう筈やから当然心のどこかに「後ろめたさ」が燻ぶる」

「今日は何、公認心理師か何かやっている訳？」

「それは以前時間も金もなく資格を取るのを諦めた。それでメンタルヘルスケアコンサルティング稼業止めてカレー屋になった訳よ。だから当然本日は公認心理師ではない」

「からかっただけなのに結構マジに返してきたね。余りマジにならんでよ。面白くないから」

「ウ、父子逆転の図」

「そうそう、そういう風に流してよ、マジにならないで、さあ」

「可成り本格的、本仕込み的に逆転されておるなあ」

「そうそ、その調子、その調子」

「調子ぶっこくで、ネッ!!」

「処で、何で又今日は心理分析なんかしだしたのよ？今日も又々商売そっちのけで」

「後ろめたさと言うのは読んで字の如く自分の後ろを滅したい、つまり隠し事、秘め事、人

に見られたくない、知られたくない「不都合な真実」があるという事だ。そうなれば思いっきり力を出す事が出来ない。後ろが気になって集中出来ないからだ。不都合と自分の都合の間を行ったり来たりして調整しなくちゃならんから一時も気が抜けない。だから明け透けモードには成れっこない。成れっこなければ効率的効果的に自分の最大出力を出し切れなから其の不完全燃焼から常に欲求不満が残る事になる」

「内外不一致を隠した後ろめたさと内外不一致から来る欲求不満。可成り糞詰まり状態みたいね。そう言えばオヤジって便秘した事ないの？下痢ピーした話はよく訊くけど、便秘になったというのはついぞ聞いた事ないな、確か」

「お前、そんな事確かめてどうすんのよ。爺が一匹下痢しようが便秘になろうが世界情勢に影響、全くなかろうが」

「よくまあそう下痢便秘と世界情勢が同時に出てくるよね。一体どういう精神構造してんの、よ？」

「へ？何度言ったら覚える？「出物腫れ物所嫌わず」っていう格言」

「今度は屁と格言の混載便かよ」

「そういう事は金輪際言うな」

「混載と金輪際ねえ」

「ネパちゃん達がよう言うが、なんでみんなジャパニーズは下向いて歩いている？て。今迄は上手く答えられなかったが、

密かに己が美や是と思っている其の状態になれていない。

そしてその「実態がバレない様に」気を使う。

そう謂った逃げ腰を卑怯な行為だと暗に「恥」て、燻ぶる。他方、その影響から出力全開できずに欲求不満に陥る。

だとしたら、下を向いて歩くのも当然と言えば当然と、説明が付くかもしれんな」

「シャチョ、元気」

「オヤジは単に脳天気な極楽トンボって言うだけなの。ワカル？ネパちゃん達」

「アホチャイマすねん。パーでんね。でしょ、オヤジ」

「どっちが親や」

### *(For English speaker readers)*

Title: From never can say sorry that...

“Even if no counting profit and loss portfolio, even if being covered by big loss, going on through the concept of their great justice, that`s Samurai-spirit core. For it, from the mind of self-counting that it`s beautiful and right and add on from hidden silent law under this world, from both point of view, not to reaching is also both “Shame (=in Japanese word “Haji” later will use all “Haji” word) To escape from it is injustice. Even if they can escape from others`

eye, but the persons themselves inside know just the facts. Then they feel uncomfortable endlessly. They always hold and carry these uncomfortable minds.”

“Today you are performing official counsellor by using psychological analysis?”

“Former I gave the license taking up, because not enough time and money stocks for getting it. Then after it, I closed “me” owner mental health care office. From it, I started current curry shop up. So today I never can be counsellor or never can have done such a performance.”

“Ax, it`s just joking, but you returned serious comment. Please never get serious. It`s not fun for me.”

“Ups, it`s a photo-shot of bater reverse father and son position!!”

“Yes, yes like that. Good usual Daddy. Never fall into serious mode, please.”

“So perfectly bater reversed might be!!”

“Yes, yes, good performing, good tempo, rhythms!!”

“Shut your big mouth!!”

“By the way why you began psychological analysis? While standing out of business?”

“Paying attention behind or hoping to disappear behind means they hold and carry the no hope to be seen, no hope to be known from others matter the same as. If they stay under such mind situation, they never can have done full power appearing. Because they should monitor their behind anytime, from it never can concentrate. Outlook dummy, inside not enough the fact from to, to from always should go and return, can`t have coffee break time. From it they can`t stand open mod. If can`t stand open mode, full power not come out so well effectively. And from not enough burning, it`ll invite unsatisfaction.”

“No concentration by always should do monitoring behind and by from it, unsatisfaction. I can image so, so unsmooth mode.”

“Two Nepali cooks so many times say that why almost Japanese people walk on head down looking at downwards, why? Until now I haven`t good reply, but now after organizing my observations, might be answering.

On summary,

They no reached to their eager target. To Samurai-spirit behavior, activity.

Then always concern to such a secret, monitor for a danger of leaking the hidden fact.

To such a dark behavior they already notice, it`s out of Samurai way, then get ashamed.

They hold uncomfortable. On other hand from it, their full power on come out, invites unsatisfaction.

If it`s correct observation, our Japanese people head down walks is natural final, I can explain to them, might be.”

“Boss, you are alive fine.”

“Daddy Boss is merely no concern guy. Understand, you two Nepali?”

“No concern? Comedian?”

“Not comedian but the comedy itself, him. You Daddy, mine is correct?”

“Which is elder? Ax, ax? Big boy!!”

(コメント)

前回、前々回に引き続き今回。ほとんど英訳に苦勞しております。

其れと言うのもピンポイントで言いたい事が英単語では、余りにも幅が広すぎて言いたい事が伝わるのかどうかまるで自信がないからです。その為矢鱈説明口調の文章ばかりが増えてしまいました。もちろん辞書を根気強く引き続けば其れに該当する英単語は見つかるのですが、使う単語は成る丈中学で教わった範囲と街で目にする単語の範囲に限っている自分からすると其れは邪道な気がしますし、お読みになられる外国の方が必ずしも日頃目にする単語とは掛け離れた「特殊語」であってはならないとも思うからで御座います。其れに日本と外国の同じ言葉に対する心象の抱き方の差、読み手との状況の差、暮らし向きなどの差なども御座いますし。

なので、矢鱈時間ばかりが掛かり、その時間の割には手ごたえの方はあまり感じられないので御座います。

2023/5/3

## 「ヤな奴で、結構」

3<sup>rd</sup> May 23

Disliked outer guy, me!?! Ok!! Not reject!! Let it do.



*(For Japanese readers)*

「ヤな奴で、結構」

「今の俺は本当に、将来の俺のアンタみたいに元気回復してるの？信じられんけど」

「先ず、何か施術するとその後直ぐ元気になれると謂う考えを捨てる事だね。幻想だから」

「でも俺達の needs は即効く、なんだけど。その最大最強 needs に全然答えてないじゃないよ」

「あのね、needs って自己都合の別名で使っているんだったら自己都合とか我欲とか正確に言った方がいいと思うヨ」

「エラソに。何様、アンタ」

「でも間違いは間違いだから。君のは needs じゃなくて wants。Needs は「必要」と我が国では訳されるけど、どちらかと言うと「必然」と訳した方がいい様な気もする」

「今度は英語の先生かよ。将来の俺ってそんなにエラソになってる訳？あー、ヤダ、ヤダ、うつ病から寛解するのも考えものだわ。こんなヤな奴になっているんじゃ」

「こう言ったら、ああいわれるんじゃないか、こう思われるんじゃないか？を止めた事は確かだよ。何とでも思ってよ、好きにすれば、ってえ感じ。其れが可成り効いているみたい。ストレス貯めないのには。だから何とでも言えばいいけど、事実は矢張り事実だからハッキリ言うよ。人の評判気にしないで。

で、だ。「Needs」に対する今の答えに従った「必然の結果」は将来にでる。だがその needs

に効くという、今は名答かもしれないものが将来もそうだとは限らん。今の本心の needs がお気楽生活で、本当は持ち甲斐のある needs に一番役立つのが自立、殺生与奪の権を自分側に持つ事だとすれば、それを軸に問わない限りその自立に必要な答えが得られる筈もない。答えもそうだが needs そのものを先ずチェックする方が、先な気がする」

「ムズウ。うつ病アタマ、ぶっ壊れソ」

「お望みなら、お手伝いするよ。この前他の 3 人に話したんだが、義理/人/情 3 分けの中で、義理の義「正しい事をしている自負」と情け「思いやる気持ち」の獲得には物凄く時間がかかる。直ぐになんか出来ない。でも、この二つがどん底では或意味お金より頼りになる。処が義理の理「ことわり」の方は人間の都合なんて意に介しない別系統だから或日突然、人間に不都合な事をしでかしてくれる。下手すりゃ 1 分後にでも起こる。例えば巨大地震とか。どんなに人間社会の中で義と情けを磨いても其れとは全くリンクせんからスゴクいい奴が突然非業の死を遂げたりする。理不尽だ、不条理だ、と喚いても全く通用せん。独立独歩で其れこそ情け容赦がない「天は平気で我々を見放す」。だってコミュニケーション採る手段、何処にもないんだから、説得や譲歩引き出そうにも、話通じる耳も口もないんだヨ」

「で、結局何が言いたいの」

「時間かけて自分で考えなつて。少なくともノッペラ坊の理「自動メカ」と違って人間社会には未だ言葉と言う communication 手段が有るんだから色々話歩いたら？」

「冷たあ」

「そうやって相手の無条件降伏引出そうと外圧加えてもダメ。俺も昔その手、よく使ったけど」

「シャチョ、レジお金ナイ」

「お前其れ、超外圧」

*(For English speaker readers)*

Title: Disliked outer guy, me!?! Ok!! Not reject!! Let it do.

“Hey, Mr. future me, can I get a position like you alive? Is this true? I can` t believe it current me now. So far.”

“First, Kick the illusion out. Illusion means After some exam, at once can regain getting well. It`s merely just illusion.”

“But our needs are just the illusion itself, at once to get well is. Your comment is no weapon to our biggest and strongest needs.”

“Well now, if you use the word “needs” alternatively as your “me first” or “my condition first, I think, it`s better directly using the words themselves.”

“Ax, you are performing like a Wisdom!!”

“But wrong is wrong. What you say is not concerning to “needs” but concerning to “wants”.

In Japan “needs” is translated to “recover the lacks” but from my opinion, to be translated to “Final result brought by our current choice” is rather better, I guess.”

“Ax, from now start performing as a teacher of subject English!! Future me will be turning to such ambassador from hi society, likely to? Ax, reject, reject!! It might be a problem, after getting well from mental sick, it might be. No hope to get to be like Mr. future me!!”

“If I say so, I will be told from others so···hum, what should I do? such a Q & A toss-pass, see saw catch ball in my mind stopping and let it (them) do!! is the fact. It has been very useful for me to avoid from stress stocking. Then please bash me as you like. But fact is fact, then I`ll say clearly with no concern to from other`s bashings!!

And then, necessary, inevitable result, in other saying the result of never can be avoiding one which current answer under current your needs will come out in future. But current “nice answer” which is very effective to current your needs is not the same as effective in future also. If your current holding true needs are “taking easy going life”, and tentatively if the most effective for you to get independently standing is to hold the right of self-judging on your side, without as true as possible asking, you never can get the most effective answer for true you. If it so, as well as answer, before it, we should check the needs first, it might be.”

“OMG!! It`s so, so, difficult for my jammed from mental sick, brain!! Almost will be about to broken!!”

“If you request more, I`ll help you more. Although former already talked to other 3 men now here staying, 3 type 3H, human justice (義=pro. Gi) & standalone automatic mechanism (理=pro. Ri) / human body (人=pro. Nin) / concern to other human (human concern=humanity) (情 pro. Jo)、情け (pro. Nasake) , to get human justice (人=pro. Nin) and human concern (情 pro. Jo)、情け (pro. Nasake) should take so long time. Never can get so soon. But these 2 on the bottom, it`s more well weapon rather than money. But standalone automatic mechanism (理=pro. Ri) is suddenly coming, happening no concern to human conditions and rolling around here and there as it likes. Under the worst case, I minute later will happen. A sample is huge earthquake.

Against it, even if as seriously as possible doing our best concerning to human justice and humanity, to the nice people who above doing, sudden tragedy death comes because no link to each other, efforts of human and standalone mechanism. At the time if we shout “OMG!!” “No reasonable!!”, not reach to it. Because it hasn`t nor ears nor mouth. It kicks us out mindlessly!!”

“From it, then what you want to say?”

“Think about it by yourself own with long time thinking. At least under the human society they have ears and mouths for communication, different from standalone automatic mechanism earless, mouthless one. It might be finding nice answer out on walking and talking

with others here and there around.”

“So cold heart holder!!”

“Stop such a threatening outside pressure putting. Former I many times used to use this weapon.”

“Boss, no stay money inside resister machine!!”

“Ax yours, so hi outside pressure attacking!!”

2023/5/14

# 「潰れる前に」

14<sup>th</sup> May 23

“Before crush or crushed.”



*(For Japanese readers)*

「潰れる前に」

「オヤジ、今どき「自分は是が大スキ」なんて言える奴なんて、居ないよ」

「一つには仮面をかぶり過ぎて自分の本心と直結していないからだろう。そしていま一つは自ら取り下げてしまっているんじゃないかな」

「?俺も特に大スキなんて言うものないし、本心とか取下げって言われても何のことだか全然分んないし」

「簡単に言うと、攻撃受けないように、責められてもボロが出ない事、第一優先にしちやっているんでないの？」

「ボロ？」

「うん、ボロ。こんなのスキって言ったら笑われるんじゃないか?とかバカにされるんじゃないか?とか。スキは好きだけど金にならんしとか、発言したり是が好きだからって手を付け始める前から、あれこれチェック・フィルターかけ捲って、ズーッと「却下」

「取下げ」し続けて裏の物置に押し込んだりしてなあい？」

「そこ迄すら行ってない様な気もする。そんな情熱、何処にもないような」

「バネって、な、加重が或一点を超えると反//発力がなくなって潰れちゃうんだ。加重って人の目だとか、それに対する自重自粛だとかによる加重」

「じゃあもう元に戻らないの?潰れたバネ」

「潰れてしまっていたら物理の法則に従って、もう元には戻らない。残酷だがしかたない」

「其れって酷くない？」

「酷いも何も、事実だ。精々今潰れそうで潰れていない人間を助けるのが関の山だろう」

「じゃ、俺もう助からない訳？」

「うん」

「そんなあ」

「シートン動物記だとかファーブル昆虫記って知っているか？」

「何ヨ、急に話振ったりして」

「きっと今から百何十年以上前の今より社会的縛りが緩い時代においてすら、毎日仕事や勉強そっちのけで動物やら昆虫やらに夢中になっている姿、周りが見たらかなり「ミヨーな奴」に映っていただろうな。でも彼らはそんな事お構いなしに夢中になった。面白いし好きだったからだろう。もっと言うとそれなしでは人生考えられない。後は野となれ山となれってえな、感じだったんじゃない？」

「何が言いたい訳？」

「別に。ただそういうお話」

「バネ潰れた話、しといて、その後動物記だ、昆虫記だって、何よ、其れ？」

「潰したのは俺じゃない。先ず自分で自分潰す自重自粛、表に出す前の自己点検、却下、取下げだけでも止めたら？」

「そうすりゃ俺のバネの反発力、回復できるの？」

「可能性はある。だってお前、未だバネ潰れてないみたいだから」

「どうしてそれが分るの？」

「未だ、矢鱈質問してくるから」

「シャチョ、ナン作る小麦粉買うお金、足りナイノ事」

「そっちのバネも潰さんようにせんと、な。俺の方も。潰れる前に店のバネ」

*(For English speaker readers)*

Title: "Before crush or crushed."

"Daddy, now a day no one there can say "I`m loving it!! Except Mac CM."

"On one hand, from too much over wearing dummy faces, masks, then never can connect to own true voice. On another hand, before appealing own voice opinions, dropping them down, looks like., might be."

"? I also don`t have special "I`m loving it" one. And no understandable for your saying inside, true voice or a dropping down matters."

“By easily saying, for escaping from tongue attacks, or for keeping their own styles if under attacks staying, they might be giving advantage to it.”

“Style keeping? Vasa versa saying hiding weak points?”

“Yes. The hidden weak point means a kind of fear. For example, “If I appeal my opinion, they might be laughing or might be treating me as a stupid guy or more and so on like that. Or add on “Yes, loving it” but no useful for getting earns, thinking, thinking, hum, hum, before appealing, do you give no agree sign to yourself own or dropping it out and pushing it into backyard stocker, don` t you?”

“In my case it looks like to still not reach to it yet. I even never hold such level passion, might be.”

“Spring coils will be lost recovering power, if it is over beyond max point for recovering by over pressure giving. “Over pressure” in other words saying, like a by other one`s eye beams around you or defense for it by your own controls.”

“If it already happened on me, received over damage, I never can recover already?”

“If it over beyond maximum point, according to physics rule, never get recovered. It`s terrible saying but the fact, then that`s over.”

“Is it too much terrible saying, isn`t it?”

“No option, the fact. Still not over damaged yet person recuing maximum option, I guess.”

“Then a from it, I already missed it?”

“Yes.”

“OMG!!”

“Do you know Seton animal diary or Fable insects(diary)?”

“Ax, why suddenly asking?”

“From now one hundred and several ten years blocks before, at the time although the society not so tight than now, no touch works, no touch studying like a them guys were counted from around as strangers, might be. But they no concern, had rushed into observations to animals or insects. It was vey interesting and “loving it” one, maybe. More strong saying, without it never can live, then the result all depends on God, they had thought might be or not?”

“What you want to say, Daddy?”

“Nothing. Mere story.”

“Spring coil broken story. Then animal and insect diary talks, what`s that?”

“The one who give damage is not me. First you take a choice of stopping own check, own no agrees, own dropping out before you press own down by own goal, I recommend you.”

“From it I can recover own spring coil power?”

“Possibility you have, because you look like still not broken yet.”

“Why, you say so? You can?”

“Because you so many asking, holding many questions.”

“Boss, money not enough for buying flour of Nan making!!, is.”

“Ax, I should monitor at this side. At restaurant business side before bankrupt, me also!!”

(コメント)

Amazon kindle ストアへの掲載中止に伴い、現在自社 HP の「うときゅういっき」ページを昼夜兼行の突貫工事で進めておりますが、いかんせん作業が多く、なかなか作業が思う様に進んでおりません。又工数経費節約の為に「うときゅういっき」ページに「現在工事中」のお知らせも掲載できておりません。なので、この場をお借りして「現在工事中」である旨お知らせ申し上げます。(ですので、現在、最新記事は「ナマステエブリバディ」ページにまだ、掲載して御座いますので、そちらをご覧くださいませ) 返す、返すもご迷惑をおかけし、恐縮至極に存じます。

2023/6/11

# 「本日、ガス抜きデー」

11<sup>th</sup> June 23

“Today is gas valve open day.”



(No need get shy, please noose knot open!!)

*(For Japanese readers)*

「本日、ガス抜きデー」

「もう女にモテようとは思わん。お金も「そこそこ暮らし」で生きていだけあれば十分。それ以上は求めん。人気取りもせん。只お前みたいな奴が大嫌いだ、と言いたいだけ。其れが掛け値なく言えば充分だ。

こちらが相手の持っている物を何も求めなければ相手の「欲しいものを形(かた)に大鉦を振るう殺生与奪の権」がまるで意味をなさなくなる。是は相手方の武器の無力化に等しい。女は、ちょっと冷たくすりゃ男がご機嫌取りにやってくると思っていやがる。上司や金持ちは札束ちらつかせりゃこっちが尻ッポ振ってくると思っていやがる。人気取り命の奴らは「そんな事をしたら評判悪くなりますよ」と言えばビビルと思っていやがる。冗談じゃねえ。そんなのお前らが勝手にすりゃよかろう。

しかしそれはもうこちらの捨て身戦法で意味をなさなくなっている。世間様はどう言うか知らんが是は「俺の」感想だ。俺の感想だから俺以外誰もとやかく言えん筈だ。もし其れに難癖付ければ奴らは越権行為をした事になる。世間の目を気にする相手ならば手を引かざるを得ない。相手の武器を無力化した上でそれを機にこちらの言いたい事を通す。捨て身戦法だから損失も大きい但其の代わりに自分の殺生与奪の権は渡さずに済む。

家事は一通り全部できるからそれとナニをするだけの為の女は必要ない。「その二つで女を見ないで」と言いつつその二つを武器に使う振りかざし「女がいなくてその二つ手に入らないわよ」と逆手遣いで男を脅していやがる。付き合うならそんな奴は御免だ。それ以上の何かがないと付き合う気にもならん。

金も少ないが37年間働いてきたから多少なりとも年金が貰える。

人気取りは何も全員に細大漏らさず愛される必要はさらさらない。上司として父として夫として祖父としての人気を得るために脂下がる必要はない。数少ないが俺みたいな変なのが好みの隠れファンがいる。

それで十分。相手の殺生与奪の権、ちらつかせには乗らん。

うつ病後に分ったあれだ。おれはバカで一介の市井人に過ぎなかった。だが、バカで結構。

一介の市井人で結構。ホントに其れが分っただけでも御の字だって事ヨ」

「そんな事、公言して、後知らないよ。どうなっても」

「そんなの吠えてみにゃ分らんだろうに。もう、言う前から自ら忖度して取り下げるのはウンザリだ。連中の評価気にして連中が仕掛ける作り事、図り事の対応策練って、こっちも作り事、図り事に手を染めるイライラ。もういらん。損してもいいから此のウンザリからいい加減足を洗いたい」

「シャチョ、今日はガス抜きデー、ネ」

*(For English speaker readers)*

**Title: "Today is gas valve open day."**

"I never hope to put a position of woman`s target anymore. Money also no need so much, enough for living level is fully ok. I don`t require more over.

I never try to get popularity or audience favors. Instead of it, bater it, I hope to be allowed what I feel with true voice like below that I just dislike you!! If true voice using will be allowed, it`s enough for me.

If I don`t require what others have, others side weapons which they regard it to our lifeline source and that all of us depend on their holding weapon, lifeline source at once will change to no power holding condition.

Woman has thought if behaves little bit cold, man will bring flowers as a candidate of for her servant. Boss or rich man has thought if he shows banded money bills, our side will come while dog tail waving. Populist has thought if he threats by saying that such your behavior will bring bad reputation, we will fall into fear mode. Never say joke!! Let you do!!

But already such your plan turned to no power holding weapon. I don`t know how to say public audience, but it`s my side true voice. Although it`s my side proper matter, then no one can touch it. Perfect standalone, independent matter, I want to say. If they put a complaint to

me, they take line over, the same. They who strongly concern to public audience`s eye beam, are forced to be stopping, hands moving behind. After it I say what I want to say with breaking through way. It`s very risky operation, then my side loss huge. But no happens the case of handing my proper lifeline rights over.

I can almost operate housekeeping matter. Then only for it and for pleasure co-having matter, no need woman who is only for it staying. But on opposite their side while complaining “woman exists only for two matters”, vasa versa they use these two as a weapon and say that if no woman stays besides you, you never can get these two comfortable, like this they have threaten. If in the case of put her besides me, such a complain rights claiming type woman no need!! Something over one if she not holding, she is out of my candidate.

I earn so few, but 37 years had worked, then pension money little bit is supplied each 2 months. Concerning to public favor catching, is not necessity full catching, for example no need taking a good behavior as a boss, as a husband, as a father, as a grampa, for setting full lineup, behave like a servant, is no necessary!! Very few, but my fans stay, even such a strange guy, me.

It`s fully enough. No ride on their side even if they tempt or threat.”

After clearing mental sick, what I understood is. Below. I had been stupid and mere one citizen no talent. But I`m stupid, Ok. I`m mere one citizen no talent, Ok. It`s enough to understand it!! That is.”

“Such open to public, don`t know what will happen after it!! Daddy.”

“We never can see result until have done roaring. Before roaring, before seeing result, put item out is too much enough such a hesitation. While concerning to public reputation, making, checking, reconstructing my side plan endlessly against at the same time planned ones is boo anymore!! I may loss, hope to set from such far away off!! Wow, wow. Pu-shuuuew!!”

“Boss, today your gas valve open day!! Is.”

(オマケ)

2020 年発刊

(新本)

「人生終わったな」

と思う間もなくトンネルの、闇を抜けて広野原

うつ病歴12年。

うつ病歴12年の

(新本)

# 人生

# 終わつたな

と思う間もなくトンネルの、

闇を抜けて広野原

箴言作家

うときゅう いっき

## (下降 その一)



「何度教えたら、わかるんだっ??お前、人の話を聞いているのか!!」

もう、それでダメでした。何度企画書を持って行ってもダメ。損益の数字の三桁の区切りが「、」(カンマ)でなくて「・」(ドット)だったために、「これは、小数点。これじゃ、3,000,000(三百万)円じゃなくて、小数点以下ゼロだから、3.000.000(三)円だろ!!こういうところから数字の信憑性が疑われるんだ。やり直して来い!!」から始まって、線が曲がっているだの、あれもこれもと、企画の中身にすら入ることが出来ません。それでもやっと内容に入ったと思ったら、縦、横、斜め、あらゆる角度から、ためつすがめつ、チェックして、これもダメ、あれもダメ、あれもこれも、全部ダメ。ダメ、ダメ、ダメ。

「企画はものを売っている訳ではないし、ものを造っている訳でもない。「紙ペラ」一枚の企画書でひとに動いてもらうんだ。それに齟齬や矛盾があつて、納得して動いてもらえると思っているのか??」

どれもこれも上司の「おっしゃる通り」でした。完璧な正しさ。しかし、開発日程がギリギリでした。これが遅れると発売が最盛期に間に合わない。設計部門からは、いつになったら企画は通るんだ、いい加減にしろ!!と怒号の嵐。水車のギアに挟まった木端みたいに上方向の歯車と下方向の逆に動く歯車の間で磨り潰されそうでした。

もうダメでした。何が問題で何をしなくちゃならないのか?どっちが上でどっちが下なのか?わからなくなっていました。自信がなくなり、恐怖心から書類すら持つて行くことが出来なくなりました。ダメと言われても何がダメなのかアタマが理解できずに、ただ、ただ次はどうすればいいのか解らなくなったのです。

それまでの僕は企画部のプリンスと言われる存在でした。出す企画、出す企画、世の中で話題になりました。そのため出世も早く、同期の中ではトップクラス、課長への昇進も一番乗りでした。その課長に着任したと同時に上司としてきたのが、技術部出身の部長だったのです。

初対面で嫌な予感がしました。直感的に嫌悪感を抱かれているのを感じたのです。案の定、仕事を進めていく中で、それは顕在化してきました。確かに自分が得意になっていた面も否めません。

しかし、それには訳があったのです。父は出世主義者でした。事あるごとに出世しろ、出世しろ、昇進はまだか、昇進が遅いんじゃないかと言われ続けました。そのため、ぼくには出世は至上命題でした。ぼくは走りに走りました。その甲斐あってぼくは昇進一番乗りを果たしたのです。

しかし、そこには魔が潜んでいました。父の得心を買って奢ったのです。売る営業、造る製造と技術部門を差し置いて、紙ペラ一枚の企画マンが図に乗ったのです。恐らくそれが激しい憎しみの対象になったのだと思います。

## (下降 その二)



日曜日は、小学校二年の長男のサッカーの練習試合でした。応援に行ったグラウンドではおもちゃのチョロQみたいな子供たちが右へ、左へ動き回っていました。

「息子はどこに居るのだろう？」

しかし、ぼくにはそれを本気で探す気力が欠けていました。申し訳ないとは思ったのですが、ぼくのアタマは仕事の事で一杯でした。いや、仕事というより、明日の朝、月曜日の朝を想像して、目の前が真っ暗になっていたのです。

ぼくの目には何も入っていませんでした。そうして練習試合は終わりました。終わってしまった！！もう夕暮れでした。残された時間を数えました。夜がやってきます。眠れない夜が。そうして、あのおぞましい朝が否応なくやってくる。発狂しそうでした。怖くて、怖くてなりませんでした。

「お父さん、なんか様子がおかしいよ。どうかしたの？」一緒に行っていた奥さんが言いました。

「なんでもない」

到底僕には本当のことは言えませんでした。家族の先行きのことを思うと言えなかったのです。

配置転換、転職。出世主義の父の失望を考えると、出世に響く配置転換の申し出は出来ませんでした。

かといって、紙ペラを書くことしか能力のない、しかも、その能力ばかりか、箸の上げ下ろしすら決められないほど、あらゆることに対する自信も木端微塵に吹っ飛ばしてしまった僕に、おいそれと出来る仕事は思い浮かびませんでした。

考えては崩れ、崩れては考え直し、まるでシューシュポスの神話の積み石の再現でした。

すべてはドン詰まり、行き場を失ってしまったのです。

「出口なし」

同じ轍の堂々巡りが始まり、その轍はだんだん深くなって、それ以外の道に踏み出せなくなってしまうました。

深みに嵌りはじめていたのです。

### (下降 その三)



まんじりとも眠れない夜が明け、殆ど一睡もしないまま早くに家を出て会社に向かいました。しかし、ぼくは、会社のある駅の一つ手前のターミナル駅で下車をし、都心を回る環状線の電車に飛び乗ったのです。あの部長のいる会社に行けませんでした。

環状線はターミナル駅を過ぎると乗客の入れ替わりで、一時的に空になり、幸いにも席に座ることが出来ました。ぼくは崩れ落ちるようにドア傍の席に着き、目をつむりました。しかし、部下や同僚が働いているのに会社を休むことの罪悪感、自責の念、家族を欺いて（あざむいて）嘘をついている辛さ、悲しさ、疲労感、自己嫌悪で、眠りに落ちることは出来ませんでした。

これから普段の帰宅に当たる時間になるまでどうやって過ごそう？下手をすると誰かに見られるかもしれない。そうして、今日は何とかなったとしても、明日から一体どうすればいいんだ？定年まであと二十年、一体どうやって暮らせば…

絶望的な気分になりました。不活発社員としてレッテルを貼られ、解雇の悪夢が目の前をよぎります。不活発社員のレッテルを貼られれば再就職もおぼつかない。家族に何と話そう？家族はどうなってしまおうのだろう？その時点で、ぼくは自分の事より家族のことが気になってなりませんでした。

環状線を数周し、郊外行の電車に乗り換え、又郊外から都心に戻って、更に環状線を数周し、最後は夕暮れせまる、自宅方面行の電車に乗って帰宅しました。どんな重労働をしたときより激しい疲労感に襲われていました。

「どうしたの？真っ青よ！」

ぼくは、奥さんや子供にすまなくて、すまなくて自決したいような気分になりましたが、それでも力の限りを振り絞って平静を装いました。帰るや否や早めに床に着いたのは言うまでもありません。

そうして、明けて翌朝。ぼくはまた同じことをしました。会社には仮病を使うと同時

に、家族を裏切って、会社に行かなかったのです。電車に乗る人、降りる人。十代、二十代、三十代、四十代、五十代、サラリーマン、学生さん、自営業さん。男の人も、おんなの人も、みい〜ん、な働いている。仕事を、勉学を持っている。なのに、ぼくは…。

あ〜、元気で働けたら、一日働いて、「あ〜、つかれた、今日のごはん、何？」と屈託なく言えたらどんなにいいだろう。ぼくは、掃除のおばちゃんやソープのお姉さんが元気に働いている姿が、限りなく羨ましく思えたのです。

## (下降 その四)



その時求めていたものは、元気になること。働けること。立ち直ること。その為の出口を見付けることでした。しかし、そんなものがすぐにも見つかるわけがありません。ぼくはそれから更に四日間同じことを繰り返し、土日の明けた翌週の月曜日、とうとう耐えきれなくなって、部長に電話をし「会社に嘘をついていました。これからうつ病の精神科に行ってきます。」と一方的に電話をして、会社付属の病院に駆け込んだのです。

診断は強度の抑うつ状態並びに自律神経失調症でした。それに対して奥さんは大変驚き、悲しみましたが、涙ながらの僕の訴えを理解してくれたようで、数日間の話の末、それならばしばらく休みましょうねということになり、会社とも協議して二か月の休職となりました。本当に奥さんやまだ小さいこどもたちには申し訳なくて仕方ありませんでした。

休職中、初めのうちは、奥さんもいろいろ心配したり、気を使ってくれ、子供たちと一緒にハイキングに連れだしてくれたり、子供たちと連名で、励ましの手紙くれたりしていましたが、二か月の休職も後半になっても一向に改善しない僕の様子を目の当たりにして、解雇になった時の為に、車の免許を取りに行けだの、友達がいないからそうなるのよ。友達とあってらっしゃいよとって無理に友達を呼んだり、何かしていないからダメなのよと、これまた強引に食事の支度を全部僕に任せたりと、ぼくにとっては気が休まるどころか、症状が更に悪化するようなことばかり求められました。そのため、当然夫婦仲はギクシャクして悪くなりました。

そうして、その二か月が過ぎて後、ぼくは復職しました。言うまでもなく、何一つ改善をみないまま。

## (下降 その五)



それから十二年間です。ぼくがうつ病だったのは。それでも僕は家族のことを思って、  
這うようにして出社していました。それは全くの地獄の日々でした。そのため、会社で  
の勤務状態は、毎年、欠勤ギリギリの超低空飛行でした。自律神経が侵され、靴を履く  
にも足が定まらず、階段も手すりを伝わないと上り下りが出来ないほどでした。

なので、仕事は当然できません。できませんが、出来ないとも言えないので、仕事をし  
ているふりをしてばかりいました。幸いパソコンがあったので、何とか格好は付きまし  
たが、いつ見破られるかとびくびくしてばかりしていました。

することのない「暇の怖さ」を死ぬほど思い知らされました。

同時に、役職が付いているだけで、何の仕事もしていない自分の方が、一生懸命働いて  
いるのに、自分より給与が少ない若手社員より多いことに後ろめたさを感じて苦しくて  
なりませんでした。

できる事なら、家族にはすまないけれど、自分の給与を返却したい気持ちにもなりまし  
た。

そんな内心の葛藤をよそに、やはり見る人は見ていたようです。

程なく、ぼくはその無能な働きに応じて、極めて短期間の間、目まぐるしいほどのスピ  
ードで、左遷、リストラ、転籍、降格、最低業務評価を下され、一日行ってもする仕事  
も「完全に」なくなり、それこそ虫の息、それこそ「おめおめと」生きていたのです。

会社のこともそうですが、何よりつらかったのは、今は失意の元に病に伏している父  
の期待を裏切り、家族を失望と生活不安のどん底に落としたことが、堪らない苦しみで  
した。

そうして元々父との間が上手くいっていない奥さんとの間に離婚話が持ち上がったの  
は、その頃でした。母は、脳外科の手術の失敗で植物人間状態になって、既に長期に渡  
って入院していました。簡単に言うと不幸のデパート状態、完全にどん底でした。十二  
年目のことです。その間、息子たちは、自分が何もしてやれないまま、それぞれ二十歳  
と十五歳に成長していました。

もう力がありませんでした。

仕事も、食事も、歩行すらする気がなくなっていました。

できることといえば、

「ただ、息を吸って、吐く。息を吸って吐く」

それだけでした。

## (下降 その六)



十二年目の十一月の文化の日。深夜に電話でたたき起こされました。病院からで父が危篤だからすぐ来てほしいと。

ぼくは兄弟に連絡をして駆けつけましたが、死に目にはあえませんでした。しかし、ぼくは少しも悲しくありませんでした。涙も出ませんでした。それどころか、不謹慎にも何故かホッとしたのです。

元海軍軍人であり、超有名企業の重役だった父は、本来なら盛大な葬儀で送られるところ、僕たち兄弟で話し合っ、母も入院中のこともあり、親族、近親者だけで葬儀を出すことにしました。集まったのは僕ら三兄弟の家族と、父母の叔父伯母の家族だけでした。

その葬儀には、既に半別居状態だった奥さんは呼ばなかったし、下の息子も野球の練習があるからとかで通夜には来ず、うちで出席したのは僕とアルバイトをしている二十歳の長男だけでした。当然、親族、近親者は、その異様な状態に不信の念を抱いているのが僕には痛いほど解りました。しかし、どうしようもありません。

そうして、その通夜の終わった後、親族だけが、控えの間に集まった時に、長男がいったのです。他の家族の和気あいあいと仲のいい様を見て、鋭くこころの脇腹を刺すような口調で。

「うちって、何？あんたって一体何者？」

血の気が、すうーっと引いていくのがわかりました。これがどん底。これが正真正銘のどん底。そう思いました。この世から消えてしまいたい。なにもなかったことにして、生まれてこなかったことにして。

翌日喪主であるぼくが、葬儀をどう仕切ったのかは、全く覚えていません。その数日後、別居先の実家から帰宅した奥さんに

「みいー、んな、あなたのせいね。私、もう暗い生活嫌なの。自由になりたいの。楽しくやりたいの。これから別々の道を歩きましょう。私、あなたと同じお墓に入りたくないから」と言われました。

父が他界して二週間後、ぼくの手元に役所から、離婚受理の通知が届きました。どん底には更にその下のどん底が用意されていたのです。

家族で暮らしていたマンションを追いだされ、ぼくは父も母も居なくなった、寒々と

してだっ広い家で、ひとりクリスマスを、大晦日を、お正月を過ごしました。  
「人生終わったな」と思いました。

## (反転)



ところが、その一月の末のある日曜日、誰もいなくなった良心の家で、ぼくは机に向かって、考えるともなくぼんやりと中空に目をやっていたのですが、突然、天啓のようにある事に思い当たったのです。

「んっ？何？

失うものはもう何もない。何もないということは、ひょっとして逆に未練を抱くものがなにひとつないんだから、縛りが無い。縛りが無いということは、自分は今、何もないけれど、何にも縛られていないということで、これはもう、完全に自由になれたということなんじゃないか？えっ？なに、なに、本当か？」

父もいない。母もいない。奥さんもいない。子供もいない。ひょっとして、ぼくは今、完全に自由なんじゃないか？ひょっとして、どう考えても、どんな考えを抱いても、そうして、どうふるまってもいいんじゃないか？思ったまま、感じたままをすれば。オヤジの言うような出世をしなくても、偉くならなくても、有名にならなくても。奥さんの言うような面白い旦那じゃなくても、真面目で面白くないやつでも、いいんじゃないの？

いまのおれはバカだ。いや、もともとバカだったんだ。でも、それでいいじゃないの。バカが利口のふりしてどうするんだ？そんなの、疲れるだけじゃないの。遣っている方も疲れるし、見ている方もネタがバレバレだから、面白くもおかしくもない。結局両親も、家族も、自分も三方両損で、何もいいことがない。

だったら、いっそ、バカで結構。コケコッコ。バカほど楽しい商売はない！！よな。なあ～んだあ、ばかばかしい。ほんま、わて、阿保だんねん」

結局、うつ病というのは、自分にばかり目が行き、その自分を過大評価しすぎて、バランスを崩しているだけだったような気がしました。なんのことはない、自分を構いすぎて、あれこれいじりすぎていただけだったのかもしれない。

だから「自分なんてたいしたことない。あれこれいじるほどのこともない。だったら自分なんてほったらかしておこう。脇にでも置いておこう。もう自分のことにかまけるのは、や～めた、っと」

そう思った途端「憑き物」が一瞬にして飛散霧消のように、気が晴れて、行き場もなく宙空をさまよっていた心がストンと、大地の上に落ちたような気がしました。

その時、背伸びをした無理な姿勢が収まり、伸びきった姿勢の疲れから解放された分、生まれた姿勢の余裕から、はっきりと地に足が付いた安堵感を感じました。肩の荷がすっかり下りた感じでした。

「はあ、何だったんだ、今まで十二年間。いや、生まれてこの方、五十二年間、バッカじゃないの、自分。

これだけの時間、もっと他に使いようがあったはずなのに。百人中百人に気に入られるなんてことはあり得ないのに、そんなあり得ないことを毎日毎日追っかけて、そうならない、どうしてそうならないんだと苦しんだり、嘆いたり、悲しんだり。

バカとしか言いようがない。そんな、ありもしないものの為に、実に多くの時間を費やしてきていたなんて。ばかばかしい。ああ、なんて、もったいない。

でも、もうおしまい。もうたくさん。もうやめた、金輪際。

これだけの時間、もっと他に振り向けよう。もっと実のあることに。

だから、今日から自分が自分の主になろう。人の目、評価は放っておこう。「どうそ、お好きに」にしておこう。

なので、グッバイ、雇われの身のご自分さま。それではお達者で～。さようなら～」

(それからの十四年…綱渡り点火切り替えの多段ロケット)



(その一 ロケット第一段目点火 不具合発生、あわや)

子供の頃、よくアメリカ映画を見ましたが、その映画はいつも苦難の末にハッピーエンドで終わっていました。

曰く「いろいろあったが、最後はうまくいった。めでたし、めでたし」

ところが自分は、変な子供で、

「でも、うまくいったそのあとは、どうなったんだろう？ 本当にうまくいったまんまなんだろうか？」

その疑問は、そのまま、自分の「うつ病克服物語」において現実のものとなって現れました。

うつ病の回復過程というのは、決して四十五度の右肩一直線上がりではなかったのです。常に上下動や振幅に悩まされ続けました。

例えば、

「底を打った」翌日から、足取りも軽く、仕事もバリバリできるようになって、などという事は全くなかったのです。

まず、アタマがまだよく働かないので、いくら仕事の文書やそれを解説した関係本を読んでも頭に入ってこず、意味もよく理解できませんでした。

なので、仕方なく、窮余の一策として、効率性などというものを全く度外視した「人海戦術的な学習法」を試みることにしました。

「どうせうつ病、病み上がりの自分のところには仕事は回ってこないし、たっぷり時間もあるから、その時間を使って、とにかく自分が分かるまで、納得できるまで「一」から自分のアタマで、自分の分かるやり方で、自分のタイムスケジュールで考えてみよう。丁寧且つ具体的に根本にさかのぼって「一」から考えてみよう、自分なりの、で」(今思うと、その辺のアタマの転換がそれまでの自分とは異なっていたように思います)

当時、上司から何度聞いても分からなかった事柄に「円高円安」の意味「何故日本円表記は下がるのに、数字の下降とは反対に円高というのか？」というのがありましたが、それをあの手、この手を使い半年かけて理解することができました。四苦八苦の末に、

で、その時思ったのが  
「企画という得意なことで評価を得るより、苦手だった数理経済の問題を克服した時の喜びの方が遥かに大きいし、後々役に立つな」  
という事でした。

### (その二 ロケット第二段目点火 なんとか)



そんな日々が続いているうちに、徐々に勤も働くようになり、仕事への意欲と同時に、チャンスも向こうからやってくるようになりました。

それまでは考えられなかったことですが、自分の大の苦手だった数字ばかりを使う「経理の仕事」が回ってきたのです。

示達を受けたときは、悩みました。いくら上昇基調になってきたとはいえ、学校時代、算数、数学共に通信簿は2。そんなレベルで飯を食うまでの力が持てるだろうか？ここでまたぞろ失敗して、今まで何度も抱いてきた「周囲に対する自責の念」から再び二番底に転落するのではなかろうかなどなど。

しかし、そこであることを思い出しました。

うつ病時代で、一番苦しかったことは、仕事はもちろん、人からも、家族からさえも「逃げていた」ことと、逃げるために「嘘をついていた」ことでした。

物事の整理がつかなくなり、自信を失い、それを悟られまいと「嘘をついて、逃げ隠れていた」ことでした。

その不快感、落ち着きのなさ。情けなさ。そして何よりも常に襲ってくる罪悪感と恐怖心。その息苦しさに比べたら、まだしも足を止め、踵を返して振り返り、それらに立ち向かって討ち死にした方が遥かにましで、心が落ち着く。

むしろ「逃げないことの潔さ」と「嘘とついていないことの安定感」に「正面を向いた爽快感」をすら感じたのです

「もうあんな思いはしたくない」

その気持ちの方が恐怖に勝（まさ）ったのです。

「遣るだけやる。できなかつたら素直に詫（わ）びる。取れる範囲で責任を取る」

それでよかろう。

殻（か）に閉（こ）じこもっていれば、確かに安全ではあるかもしれませんが、しかし、そのままではいつか窒息（しつ）してしまいます。

反対（はんたい）に、窓（まど）を開（ひら）ければ、時折（ときとき）、鉄砲玉（てつぽうだま）や矢（や）が飛（と）び込んでくる危険（けんけん）はありますが、代わりに新鮮（しんせん）な空（く）気を得（と）ることが出来ます。百（ひゃく）パーセントの安全（あんぜん）などあり得（え）ません。何事（なに）もリスク（りすく）を冒（あ）さない限り（かぎり）得（と）ることはできない。

どちら（どちら）を取る（と）るか？

自分（自分）は窓（まど）を開（ひら）けて鉄砲玉（てつぽうだま）と弓矢（ゆみや）の攻（こう）撃（げき）と引（ひ）き換（か）えに、新鮮（しんせん）な空（く）気に触（ふ）れる道（みち）を選（えら）ばう。

踵（かかと）を返（かえ）して、踏（ふ）みとどまり、今度（こんど）ばかりはリスク（りすく）を覚（し）悟（ご）で決（き）して逃（に）げまい

そう思（おも）うと心（こゝろ）がとてもしずかしく、あたかも正（ただ）しい公理（こうり）か定理（ていり）を見（み）出した（し）たよ（よ）うな安（やす）心（しん）感（かん）を得（と）りました。

「自分（自分）の内外（うちそと）（うちそと）を合（あ）わせよう。内外（うちそと）（うちそと）に差（さ）があり、異（い）なるとその間（ま）のつじつま合（あ）わせの為（ため）だけでも行（い）ったり来（き）たりで疲（つか）れてしま（い）う。確（た）かに内外（うちそと）（うちそと）が密（ひそ）着（ちやく）してい（い）れば、逆（さか）に隙（ひま）間（ま）がないの（の）で逃（に）げ場（ば）がなく、弾（たま）に当（あた）れば被害（ひがい）は甚（し）大（だい）になる。

しかし、反面（はんめん）、内外（うちそと）（うちそと）が一緒（いっしょ）であれば、無駄（むだ）な動（うご）きもなく余計（よけい）な気（き）疲（つか）れもしない分（ぶん）、気（き）は楽（たの）になるし、動（うご）きもス（ス）ム（ス）で瞬（しゅん）発（ぱつ）的（てき）に對（たい）応（おう）でき（き）て、事（こと）も処（お）しやす（やす）い。な（な）らばこ（こ）はリ（リ）スク（スク）を取（と）って後（ご）者（者）を選（えら）ぼう。

それが、自分（自分）なり（なり）の公理（こうり）・定理（ていり）だ（だ）と思（おも）いま（ま）した。

それで、自分（自分）は知（し）らない人（ひと）にでも、自分（自分）がう（う）つ病（びょう）であ（あ）ったこと（こと）を隠（かく）さず話（わ）すよ（よ）うになり（なり）ま（ま）した。無（む）論（ろん）、突（つ）如（じょ）話（わ）し出（で）すわけ（わけ）ではあり（あ）りませ（せ）ん。時（とき）機（き）が求（もと）めた場（ば）合（あ）いだけ（だけ）に、で（で）す。

それでも、相手（あいて）から初（は）め（め）は「妙（た）な奴（やつ）だ」と思（おも）われ（れ）もした（し）たの（の）ですが、話（わ）すこと（こと）に裏（うら）や魂（たま）胆（たん）がないこと（こと）が分（わ）かると、相手（あいて）は、それ（それ）まで（で）とは反（はん）対（たい）に、自分（自分）の言（い）動（どう）や判（はん）断（だん）の根（ね）拠（きょ）を全（ぜん）部（ぶ）説（せつ）明（めい）すること（こと）なく、すん（すん）なり（なり）と信（しん）用（よう）して（して）くれるよ（よ）うになり（なり）ま（ま）した。

しかし、一つ（ひとつ）の公理（こうり）・定理（ていり）を見（み）つけたか（か）らと（と）言（い）って、それ（それ）ですべて（すべて）がう（う）まくい（い）くわけ（わけ）ではあり（あ）りませ（せ）ん。すべ（すべ）て（て）に有（あ）効（く）な「魔（ま）法（ぽう）の杖（じょう）」など（など）あり（あ）りはし（し）ませ（せ）んでは（では）な（な）い。

それ（それ）を証（しやう）明（めい）する（する）か（か）のよ（よ）うに、新（あたら）しい難（が）題（だい）がや（や）って来（き）ま（ま）した。

リーマン（リーマン）シ（シ）ョ（ョ）ック（ック）です（す）。

### （その三 ロケット第三段目点火 かろうじて）



当時、自分は飛ばされた百人足らずの子会社の経理部門の売掛金回収担当をしており、売掛金の回収には直接関係はありませんが、傍でつぶさに数字的な経営状況を見ることができました。

それによると、売上引く費用から出る損益もさることながら、キャッシュフロー（手元資金の残高）が急速に悪化していくのが見て取れました。

無論経営幹部はそのことを知っていたはずですが、だのに、全く何の手も打たない。いつまでたっても何もしない。何故？

急速な雇用不安が首をもたげてきました。

かつて、うつ病の嵐の中、その苦しさに、その当時やっていた仕事以外を探そうともがいていた折、辞めたところで、自分にできそうな仕事もないし、雇ってくれそうなどころもないように思われ、雇用不安のどん底に落ちた経験から、いくら上昇基調に向かっているとはいえ、今の会社が亡くなったら今の自分ではひとたまりもあるまいと思い、会社がつぶれないように手立てを打った方がいいのではないか？という不安を、数字を用いた提案書を作成して、まず、所属部の部門長に直訴しました。それほど、自分の眼前には、会社の危機が具体的な絵姿として映っていたのです。

しかし、その直訴は「あり得ない杞憂」として、一笑に付されました。そうしてあろうことか精神科専門の産業医の面談を受けるように勧められたのです。

「誇大妄想的な過剰不安がぶり返しているようだから」と。

その部門長は、自分同様、元は大手電機メーカーの親会社からの天下りで、あと数年で定年退職、余計なことを荒立てて、事を構えたくなかったのだと思います。

それで、リーマンショックの翌年の正月最初の出社日に、自分はある一人プロジェクトを立ち上げました。

課長から主任に降格された自分が、会社の事業部長クラスで「理解を得られそうな方々」に声をかけ、数日後集まって戴きました。

「会社がつぶれたらおしまいだ。その前に、会社がつぶれなくても、下位のものがこれだけ上位に対して事を構えれば、解雇もあり得る。しかもこの不況下、解雇での再就職は絶望的であろう」にも拘らず、にです。

なぜそこまでできたかといえば、理由は二つありました。

一つは「見て見ぬふり、気づかぬふりの逃げや嘘の不快感」がそれほどいやになってい

たことと、今一つは自分の息子が「したことの後悔より、しないことの後悔の方が辛い」といった言葉によってでした。

その息子は、甲子園目指してしこたま苦勞をしてきた息子でした。

ピッチャー候補二十人の中でエースにまでなったのですが、不運にも甲子園に行くことができないまま、県下の甲子園名門校での高校生活を終えようとしておりました。

自分はその二つの理由で肚を決めました。

「座して死を待つより、打って出よう。元々ダメ元」

それが決まれば「元気の素」と。

#### (その四 ロケット第四段目点火 やつとこさ)



それからそのプロジェクトを三年続けました。

それが三年も続いたのは、一つには直接的な幹部批判をせずに常に「ご提案」という形で、具体的な行動計画と数値を必ず付け加えて、出していたことによるものと思われる。これは批判ではなく提案なので、相手も解雇する理由がなくなります。

と同時に具体的なので、一般従業員にも理解がしやすくなるはずでもありました。

それで、幹部への直接提案とは別に、現場営業員とのミーティングを試み始めました。こちらは若手に意識改革促し、上流下流双方から会社を変えてみようと思ったからです。

しかし、役職も権限もないものが、相手に動いてもらうことは至難の業です。役職や権限があれば、一分の指示命令ですむはなしが、それがなくなると、まずは相手に納得してもらわなくてはなりません。そのうえで、相手にとっての危険を冒してもらわなくてはなりません。商品企画時代の説得の力量レベルではなかったのです。

ですが、他に方法はありませんし、諦める気も起りません。

結局、なかなか成果が上がらないうちに、いつしか三年が過ぎ、ミーティング回数も延べ四百回にもなりました。

しかし、たとえ子会社と雖も大企業傘下で、しかも「若手」の従業員であるにもかかわらず「寄れば大樹の陰的思考」が蔓延していて、ことは一向に進展せず、却って進展とは反対に、三年目のある年末に、明けて翌年の四月から、会社は同じ系列会社に吸収されることになったのです。

ですが、自分はそれほどショックではありませんでした。  
一つには、役職や権限のない中で人様に動いていただくための説得術が、知らぬ間に相当レベルになって「これはいろんな場面でかなり使えそうだな」と手応えを得始めていたことです。

今一つは、実のところ、ミーティング回数が三百回を超えたあたりから、漠然と「その日」の光景が浮かび始め、ならば、以降は獲得した説得術やコミュニケーション手腕を便（よすが）として、更に自分で独立できるよう、気たるべき起業の日に備え、敢えて頼まれもしない他の部署、例えば総務やアイ・ティー部門の仕事も積極的に取り込んで、起業のためのノウハウを仕込んでいこうと思い始めていたからです。

何故そう思ったかの理由は二つありました。

ひとつは「うつ病からの病み上がり」で、しかも、他にも持病があり、且つまた特にこれといった免許も持っていない六十歳目の男を雇う企業などはないこと。

そして、今一つは「今いる大企業傘下とは言え、大樹の陰を作っている金看板がなくても自分はやっていけるのか？

金看板の壁の外の世界で通用するのか？それを試してみたい。

そこで生き抜けるノウハウを見つけてみたい。

すべてを失っても、更にもう一度立ち上がってトライを始める気持ちになれる肝（キモ）を得てみたい」という欲求が日増しに高まっていたからでした。

会社が亡くなっても絶望せずに生きていけるか？震災で土地家屋や財産が亡くなっても絶望せずに生きていけるか？愛する家族と生き別れても絶望せずに生きていける方法を見つけてみたい。

そんな欲求とも探求心とも怖いもの見たさの好奇心ともつかないものが、急速に頭をもたげてきて、抑えようがなくなっていたのでした。

言い方は変ですが「リスクを取る勇氣」を越して「リスク好きの愛好家」みたいなものになっているような気もしました。

「平時はつまらん。戦時下こそわがフィールド」とか。

そうして

「よし、誰も雇わないなら、自分で自分を雇えばいい」

そう決めると心がすっきりしました。

そしてかねてよりの願望、自分のやりたいことであった起業を目的に、定年後の五年間の嘱託契約を返上して、契約初年度末に自主退職し、その年の四月一日に一人会社を起業いたしました。

(その五 ロケット第五段目点火 どうにかこうにか)



設立当初の業種は、「うつ病に特化したヘルスケアコンサルティング」業でした。物理的元手が少なくて済むというのが、理由のひとつでしたが、一番の理由は、自分のうつ病克服体験が同じような境遇の方々にとって何らかのお役に立てるのではないかと考えていたからです。

その心理的な支えとなっていたのが、前にも述べましたが、独立前の最終職場での三年にわたって磨いてきたはずの会話術、説得法、プレゼンテーション手腕でした。会社変革という目的は果たせなかったとはいえ、内心かなり自信を持っていたのです。

しかし、これは全くの自惚れにすぎませんでした。

クライアントは待てども、暮らせども、殆どお越しになりませんでした。

うすうすは自分でも感じていたのですが、自分が苦勞して獲得した手腕に溺れるあまり、おそらく「俺は超えた、生き残った。どうだ、すごいだろう！！そんな俺が超え、生き残った方法を教えてやる。ありがたく拝聴しろ」

という傲慢さが、知らないうちに、いつしかにじみ出ていたのだと思います。

それと同時に思ったのが、例えば、コメを売ってお金を戴く。これは、その効用もはっきりしているし、物も目に見えて確かだ。

しかし、うつ病コンサルティングとなると、その効用も、効用のレベルもあるんだかないんだかはっきりしない。お渡しした内容と戴いたお金の間に対価対等関係が本当に成り立っているのだろうか？

今の自分のレベルでは「詐欺」と言われても仕方がないのではないかと疑念が急に頭をもたげてきました。

#### (その六 ロケット最終段点火 出力オーバー)



起業時は手持ち資金の関係で在庫を持たないビジネスを始めるのはある程度仕方なかったとしても、本当にそんなことでいいのだろうか？とっていた矢先に、昼食を取りにたまたま入ったお店が隣の小さな駅前の路地にあったネパール料理のお店でした。前から「えっ、こんなところにカレー屋、あったっけ？しかもインドじゃなくてネパールのカレー？どう違うんだろう？インドカレーと」

そんな好奇心もあって「じゃあ、入ってみるか」  
となったわけです。

で、それがあある意味「運の尽き」でした。

その後、自分はネパール料理のお店を見知らぬ土地で開くことに。

きっかけは、勿論カレーが想像以上においしかったことと、ネパールカレンダーの数字が見たことのない妙な数字だったことです。

「これどう読むの？」

それをきっかけに、ネパールでの職業はコメディアンだったのではないかというくらい面白い店主と仲良くなり、足しげくその店に通い始めました。無論最初はランチタイムオンリーでしたが、そのうちディナータイム アンド ウィズ オサケ オンリーになってしまいました。

ところが、見るとはなく見ていると、商品企画と経理を経験した日本人の目には、そのレストラン運営法には、極めて無駄が多く、逆に我が国では常識的と思われる飲食業上の定石すら打たれていないか、或いは全く逆効果でしかないことが多々あることに気づき、ならばコンサルティング業の拡充を図ることにもなるかもしれないと、そのカレーレストランの経営コンサルティング業務を無料で指導しようと思いついたのです

(注 経営コンサルタントを名乗ると中小企業診断士の資格があるので、経営コンサルティング業務扱を名乗ることにしました)

それはそれなりに効果を上げました。別に経営コンサルティングの才能が自分にあつたからなどではなく、彼らが知らない日本飲食業界の常識を、逆に彼らから教わった慣れない英語を使って伝えただけにすぎません。

ところがある日、そのネパールコメディアンの「ネパール・ボス」が自分を呼んで「お店やってみてください。コックさん、紹介しますから」といったのです。

それを聞いて

「確かに、経営コンサルティングなんて言っても、ヘルスケア同様、伝えた中身と報酬の関係でちゃんとした対価対等関係が成り立っているのかどうか怪しい限りだ。それに、経営コンサルタントなんて偉そうなお題目とご宣託を述べる割には、その結果に対して責任を取らない。上から目線で、何処かクライアントを蔑んでいるようなところも感じられる。やはりコンサルするからには、現場で実地体験したものでないと意味がない。ならば実際に自分で火事場に踏み込んでみるか、コンサルティング

「業務のレベルを上げるうえでも。且つまた自分の良心の納得の為にも。そしてなによりこれには対価のはっきりした現物がある」

ということで、受けることにしたのですが、大きな誤解があったのです。

「えっ、ボスのレストランの一支店扱いじゃなくて、完全独立の自前レストランとしてやれっ、て!？」

### (その七 ロケット最終段点火 出力オーバーの隠れた経緯)



「人生終わったな」

そう思ったのは、その時、自分の人生で二回目のことでした。

いくら何でも、たまたま入ったカーリー屋さんで、亭主と気が合ったからと言って、全く知りもしない異次元のカーリー屋稼業を始めるなどということは、早々あるものではありません。

しかし、そこに行く前に二度目の「人生終わったな」と思うような出来事があったからこそ、自分の中では、何のためらいもなく、ごくごく自然にその道に進んだのです。

その辺の事情について、少しお話いたします。

実は、会社を辞した翌日うつ病コンサルティング事業で起業してから二年ほどたったころに自分は大病をして凡そ八時間以上に及ぶ手術をし、二か月半ほど入院をしたことがありました。

骨にかかわる病気で、原因は親からの遺伝形質。しかも首と腰二か所で、手術箇所としては危険極まりない部位。

しかし同時に二か所手術の危険を冒してでもした方がましというほど、日々の生活を阻む痛みに、朝起きてから夜床について寝付くまで、常時覆われていたのです。

「多分俺はもう帰って来られないだろう。人生これで終わったな」

そう思い入院いたしました。

その入院から手術までのわずか十日間に重大な変化が起きました。

「もう帰っては来られまい」という思いから、病院のベッドの上で、自然とこれまでの人生を振り返ったのです。

すると、自分の人生の一大事として大きく自分自身を覆っていた「うつ病罹患」とい

う出来事が、なぜか縮みはじめ、それによって今まで覆い隠されていたそれ以前のいろんな出来事や、感情、感覚、考え方や思いが忽然と現れ、逆に「うつ病の克服」という出来事が自分のそれまでの人生全体を過少的に規定してしまっていたことに気づいたことでした。

「小さな成功、大きな失敗」

そんな気がしました。マズった。でも、この期に及んで今更そんなことに気が付いても、もう遅い。明日は手術当日だ。

恐ろしい後悔でした。

そんな状況の中で、自分は春のまだ浅いある朝、手術室に向かい、同時に四人の医師団による頸部と腰部の二か所の同時手術を八時間にわたって受けたのです。

そうして激痛の大海の中で目を開け、苦痛の中に歪んで見える周りの景色をみました。幸いにも自分は生還することができたのです。

その後、頸部、腰部にギブスをあて、激しい痛みと戦いながらの不自由な生活をし、二か月半の後に退院を果たしました。

しかしそれとは別に、自分の中で、もうひとつのある重大な変化が起きておりました。重大な変化というより重大な「認識の変化」とでも言いましょうか。

それは、手術前に全身麻酔を打たれ意識が遠のいていく中で瞬間的に思ったことでした。

「死んだら、誉め言葉も悪口も聞こえない。どんなに生前悪行を働いても、罵りの言葉は聞こえないし、逆にどんなに善行を積んでも、その誉め言葉も聞こえない。ならばそんなものに縛られる必要はさらさらな。したいことやりたいこと思ったことを、それこそ思い切りやった方がいい。人の目や口を気にしてためらう必要など、みじんもありはしないのだ」と。

この認識の変化は重大でした。もしこの認識の変化がなければ、到底、全く異次元のカーリー屋稼業など始めてはいなかったでしょう。

そうしてまた、このネパール・カリーのボス一家が、数年前に命からがら、故国を追われるようにして逃げ出し、やっとの思いで我が国に辿り着き、今の商売を始めたことも知りました。

であるのに、そのことを微塵もうかがわせない楽天的な振る舞いと、自分のような異国の見ず知らずのものを優しく、大切に扱ってくれる包容力に心を打たれました。

「しんどい思いをしているのは自分だけじゃない。しんどい思いをしながら、人にやさしくなれる人間もいる。国や人種や財貨の有無は関係ない。一人一人を見ていこう」

「何かしんどいことがあったら、私の家に来てください。箒（ほうき）を持って一緒に戦いましょう」と言ってくれたネパール・ボスの一家。その有難さ。まさに有り難き（ありえない）人の情。

だからこそ自分は、何のためらいもなく、自然にネパール・ボスの申し出でを受ける

ことができたのです。

(今)



そんなわけで、現在自分は、横浜市青葉区すすき野の地で、今（こん）コロナ禍で大変な飲食業の「ネパール・カレー屋」のオヤジをやっております。今年で開店から三年目を迎えました。

実際人生、何が起こるか分かりません。四年前は、自分がこんなことをやっているなどと、想像すらしませんでした。

そもそも、自分の人生の辞書の中に「カレー屋」などという文字はなかったのですから。アウトオブ認識。

しかも一人会社で「天上天下唯我独尊状態」のお殿様から、従業員を雇用する一般会社の責任者となり、人を使う、しかも言葉や習慣の全く違う外国人を雇う難しさを痛いほど味わいました。

が、同時に言葉を使わずとも図や数字、ジェスチャーやイラスト、ハグ、表情の百面相で、義理人情すら伝えられるコミュニケーションの真髄にも触れることもできました。何のことはない、正直に考え、嘘をつかず本当のことを言い、自分のことも思う代わりに相手の事「も」常に思うだけ、それだけが真髄。

そして、大事を果たそうと思ったら、自分の都合（偏見や事情や慾心）ではなく、自分の都合を無視した物事の自律的なメカニズム、即ち「道理」に従うしかないこともわかってきました。

さかのぼってみれば、何のことはない、ある意味「うつ病とは、自分の都合と物事の道理がアンマッチになって、軋轢に苦しむこと」とも言えそうです。結局、うつ病って自分しか（或いは自分の都合しか）見えなくなる状態ともいえます。

ならば「自分の都合」を捨てて「都合抜き」の元来生誕時から生まれ持った自分に正直になり、その自分同様、他人「をも」いたわりいつくしめば快方に向かう病のような気がします。

その第一歩として相手の話に耳を傾ける。聞く耳を持つのが大切なような気がします。相手の言いなりになるのではなく、相手が、なにを言おうとしているのか？を知ることがコミュニケーションの最大の技のような。

それにしても、一難去ってまた一難。

難儀難題のスリル満点「後樂園のジェットコースター人生」です。

しかし、人生なんて問題と、その問題解決の連続史みたいなものです。死ぬ瞬間が来るまでその連続ですから、終活や老後のゆとりなんてものは、ありはしません。

一瞬たりとも気が抜けない。だからこそ死ぬギリギリまで、やること満載で退屈せずに済むな、と近ごろ思い始めております。

過去や先代から問題を受けて走り、その解決と問題提起を後代に託す常にオンザウェイの中間ランナーが自分たち現世の人間。

もっと簡単に言うと

「預かったものを育てて託す」のがわが任務

と、いささか気負って格好をつけております。

なんせ、気負いと意地と格好つけは男の専売特許ですからね。



締めくくりに「どん底を打った」直後の折り返し点で思ったことをひとつ。

それは、両手いっぱい過去の遺物を抱えたままで、新たなものを得ようとしても、それは無理というもの。

一旦すべてを地に置き、新たに得ようとするものを得てから、地に置いたものの中で、有用なものだけ選んで再度手にする。

要するに、一旦すべてを投げ出すしかない。

一時的にせよ、自らの地位も名誉もお金も、そして家族さえも投げ出し、忘れて「心理的無一文」になるしかないということでした。

諺でいうなら「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」

で、

いささか俗っぽくなりますが、お金や事業でいうなら、まさに

「投資」

投資とは、自らが持っている資材、資産、そして資質さえも、まさに一旦「投げ出すこと」だと。

一旦失ったもの、無きものとして手放す勇氣。

回収できなくてもやむなし、と覚悟を決める勇氣。

そして、戻ってくれば「見つけもの」くらいの心の置き方。

それこそが本当の意味での

「自己投資」

分かりやすく、分解すれば

「自分を投げ出すこと」が、結果として後日に生きてくる

「自分への最大の投資」

なのだと、思った次第です。

「どん底」に転がっていたのは「投身自殺」を「自己投資」に大転換する「きっかけ」

という「天からの恵み」だけでした。

後日、事後解釈すれば、の話ですが。

## (これから)



明日のことは、分かりません。ひょっとしたら、またうつ病がぶり返しているようなことになっているかもしれません。今（こん）、コロナ禍で。

それはだれにも分かりません。「いいことも悪いことも、ある日突然やってくる」のが真相のようです。

その件についてある著名な野球選手がこう言っていました。

「好きな球が来るのを待っていたら、試合は終わってしまいます。想像すらしない球筋を、手元に来る、ほんのゼロ・コンマ・五秒前に判断して打ち返すしかないのです。それができるのは、毎日の訓練です。それ以外に方法はありません。そのひと振りでも対応できる、魔法の一振りはないのです。日々の訓練しかないのです」

自分もこれからは、そうしようと思っています。

そうして、この著名な野球選手が素晴らしいのは、アタマとところと身体をすべて均等に使って回していることです。うまくかみ合うようにエコサイクルを作って生き、暮らしていることです。

とどのつまり、会社が亡くなっても、家屋土地財産を失っても、地家や名誉を失っても、更には愛する家族とさえ離れ離れにいきわかれになって、あらゆるものを失ってさえ、この三つだけをうまく回していけば、絶望にも陥らず、また立ち上がることができるのではないか？

それが、金看板の庇護の壁外にでて、自営業をしてみても得た答えでした。

産まれたときは無一物。起きて半畳寝て一畳。ダメで元々、元気の素。明日は明日の風が吹く。人を呪えば穴二つ。人を想えば蔵三つ。

とかとか、いろいろありますし。

## (最後に)



「終わりが始まり」

中途半端に助からない方がいい。中途半端に助かることこそ却って解決を遅らせる場合が多々ある。どうせなら、一刻も早く、どん底まで落ちきって、後はもう上に行くしかない状態に持って行った方が、却って事態解決への近道である場合が多いようだ。

「どん底というのは絶望的な終点ではなく、それ以上下がりようのない安心感と、希望のスタートを得る出発点でもあるのだということ」

と同時に、

「終わりが始まり」は、

何かを終わらせないと何かが始まらない、何かを捨てないと新たに何かを得られない、

「大変こそ大機」つまり「大きな変化の時こそ大きな機会（チャンス）がある（大きく捨てて、大きく得る＝大捨大得）」

のときでもある。

これが、十四年たった今の、自分のうつ病に対する理解です。

それが皆さんにとって正しい理解なのかどうかはわかりません。

しかし、だましだましの対症療法では決して良くはならない気がします。

みなさんは、皆さんなりのレベルとやり方で、自分なりのどん底に一刻も早く落ちきることを、一刻も早く「底を打つ」ことを自分はお勧めする次第であります。

「人生終わったな」

と思う間もなくトンネルの、闇を抜けて広野原



(おしまい)

(著者プロフィール) Writer`s profile.

うときゅう いっき(writer`s name utokyu ikki or Khazu san)

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

1953年東京生まれ(was born in 1953 in Japan.)

早稲田大学第1文学部露文学科を2回留年の後、卒業。

国内電機メーカー家電製品商品企画部に20年間勤務。同子会社経理部等に16年間勤務。

40歳から52歳まで12年間うつ病を罹患。

左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊等を経験。

定年後、株式会社うとQを設立(After retirement from Toshiba, established,“utokyu corporation” in 2014)

現在主業はネパールカレー屋。(Now main business Nepali curry restaurant, “Namaste everybody” owner)

趣味は観察すること、考えること、書くこと、盗撮はしないスマホ・カメラの四つのk。

著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。

漢字表記にしますと、かなり御大層な人物に見え、実態に全くそぐっておりませんので、誤解を招かぬよう音読みひらがなで表記しております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅういっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQナマステ別館堂出版部

〒215-0018

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5丁目34番7号

電話 (phone)：044 - 989 - 1698

発 売 株式会社 うとQナマステ別館堂出版部

編 輯 しばらくの期間「ナマステ別館堂出版部」

カバーデザイン&DTP 製作 当面の間「ナマステ別館堂出版部」及び「ナレッジフォレスト 大竹鉄哉」

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in Japan from 2020

発行日：2023年6月14日 初版発行（14<sup>th</sup> June 23 released.）

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。All cory rights reserved.

（その他著書）

●多数

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。